

(マ)

松原至大 (マツベラ ミチトモ) (世田ヶ谷區玉川奥澤三ノ九六九)

明治二十六年三月生。早大英文科出身。日本作歌者協合理事、東京日々新聞社校正部副部長。童謡の作品多し。

松村又一 (マツムラ ヨウイチ) (杉並區高圓寺三ノ二一九)

明治三十二年大和に生る。初め短歌に入り昭和元年頃より新民謡運動に参劃、「民謡月刊」「民謡レヴュー」等を發刊し民謡の勃興に努す。

レコード作品は主としてコロムビア、キング、タイヘイに據り發表、フリーとして活躍、數百篇にのぼる。

代表作品「走れトロイカ」「想ひ出のブルース」「浪花節と兵隊」「バオに日の丸」「眞實節」等多數あり。

松坂直美 (マツザカ ナホミ) (中野區宮園通二ノ三二二)

明治四十三年一月一日、原籍地福岡縣早良郡田隅村野芥

に生れ、肥前殘の島、福岡市六本松等で幼少時代を送り、小學三年頃より中學卒業迄玄海の孤島壹岐の島で過す。上京後レコード作詞界に進出しキング、ポリドール、テイチク、コロムビア、タイヘイ到る處にてフリーとして活躍、吹込作詞レコード數百種に及ぶ。現在日本レコード作家協會理事。

松永みやを (マツナガ) (世田ヶ谷區玉川瀬田町一〇一九)



本名、宮生。鹿兒島縣下亞熱帯の産日本大學に學ぶ。昭和四年童謡「鳥」同七年歌謡パンフレット「月を呼ぶ」同八年「詩の國」を編輯發行す。昭和九年「歌謡新聞」を發行、支那事變の爲め休刊中。日本作歌者協會及日本童話協會員。小學教師。歌謡集「波止場の月」「歌謡年鑑」一卷、二卷外數種あり。

松島慶三 (マツシマ ケイゾウ) (牛込區新小川町二ノ一〇)

海軍中佐、海軍々事普及部にありて軍歌の作詞多數あり。

「聯合戦隊行進曲」「嗚呼南郷少佐」「北洋警備の歌」等軍歌物をポリドール其他より多數發表す。

松山英俊 (マツヤマ エイシユン) (京都市西ノ京神通二條上ル)

舊姓齋藤、大分縣宇佐郡に生る。迅に詩作をなし農民詩の開拓運動に専心、後島田芳文氏に師事し歌謡方面に轉じ「新興歌謡」「歌謡新聞」を發行、次いで京都に移り「歌謡文學」を主宰し現在に至る。詩集「古塚の唄」其他あり。

牧喜代司 (マキキヨシ) (向島區寺島町五ノ五一)



本名、清。大正四年一月二日福井縣生。郷里の小學卒業後上京、錦城商業卒業、日立製作所亀戸工場に勤務し今日に至る。昭和十年頃より詩作に耽り水谷光氏主宰の「歌謡の家」同人に加盟同氏の指導を受く。現在藤田健次氏主宰の「歌謡詩人」同人、日本レコード作歌協會員。

デヴュー作品、テイチク「希望の春」、代表作品、ポリドール「男ひとたび」、趣味—讀書、旅行。

(ミ)

宮本旅人 (ミヤモト タビト) (大連市滿鐵本社編輯局内)



本名、護。明治四十年八月卅一日熊本縣玉名郡江田村に生る。小學教師、農學校教諭俸職後上京、松坂直美氏の勧めでレコード界に入る。嘗つて菊池知勇主宰の詩歌雜誌「ぬはり」同人として一時短歌に精進せしことあり。最近までシンフォニー出版社編輯部員として活躍、今春大連滿鐵本社編輯局に轉動し、雜誌「協和」の編輯員となり渡滿す。代表作品「里慰帖」「軍國級方教室」等。著書、歌集「流離」「古賀政男藝術大觀」「レコード藝術入門」其他小冊子多數あり。

趣味—専ら食ふこと、旅すること。

宮本 隆美

(世田ヶ谷區船橋町一三二)



本名、原田辰二。大正五年五月七日青山に生る。本籍地山梨縣で育ち昭和八年甲種商業學校卒業後上京、私大中退後放浪生活をなし傍ら作詩をなし同人誌二三主宰、昭和十一年兒童文學に轉向、「童心群」同人となり童謡を研究、翌十二年よりレコード童謡に専心、一時レコード會社文藝部に籍を置きたることあり。現在東京電燈株式會社に勤務。

代表童謡レコード「強い日本の兵隊さん」「蟻の學校」「粉雪の踊り子」「空中戦」等。童謡集「寒雀」近刊。

三 菅 裕 司

(川崎市南幸町三ノ一七七一)

明治四十三年七月六日福岡縣久留米市に生る。佐賀師範二部卒。現在川崎市御幸小學校教員。童謡を葛原しげる氏

に師事、童謡集「子供馬車」を發刊せしことあり。



趣味—寫眞、音樂、映畫等。

(ム)

室町京之助

(葛飾區本田川端町六六四)



本名、石渡京二。明治三十七年二月十八日深川門前仲町に生る。明大中退後、映畫雜誌記者、新聞記者、映畫會社脚本家等を経て今日に至る。

映畫人生活十年、レコード生活五年、此の間數奇な人生過程を辿る。現在キングレコード

に據る。

レコード作品「からゆきさん」でデヴェューし「上海の花賣娘」でヒットす。著書「映畫脚本作法」「映畫俳優の心得」等あり。

趣味—日本音樂、一切日本趣味を好む。スポーツ萬能、水泳は師範免許。

(モ)

森 地 一 夫

(荒川區日暮里町二ノ九一)



本名、一郎。明治三十七年一月十四日三重縣に生る。中學卒業後上京、日大藝術科中退、キングレコードに據り作品を發表。代表作品「續愛馬行」「夢の並木路」「大陸に燃ゆる花」等あり。

(ヤ)

趣味—煙草と喫茶、外多種。

矢 島 寵 兒

(芝區濱松町三ノ一)



本名 長治。明治四十三年八月廿五日埼玉縣の寒村の農家に生れ學歴なし。野口雨情氏に師事、雜誌「民謡詩人」「民謡音樂」等を経て民謡協會員となり「白陽會」を起し、種々の同人雜誌に關係の傍ら大衆小説に手を染めたが中止し専ら流行歌をピクター、コロムビア、ホリドール等に書く。兒童教育會作品研究部にて雜誌「兒童」の添削、批評をなす。

日本レコード作家協會員、日本歌謡學院編輯部員。代表作品「名月赤城山」「戀の繪日傘」「戀の投げ節」。趣味—占本漁り、立食、將棋、人形、讀書等。

山 口 義 孝

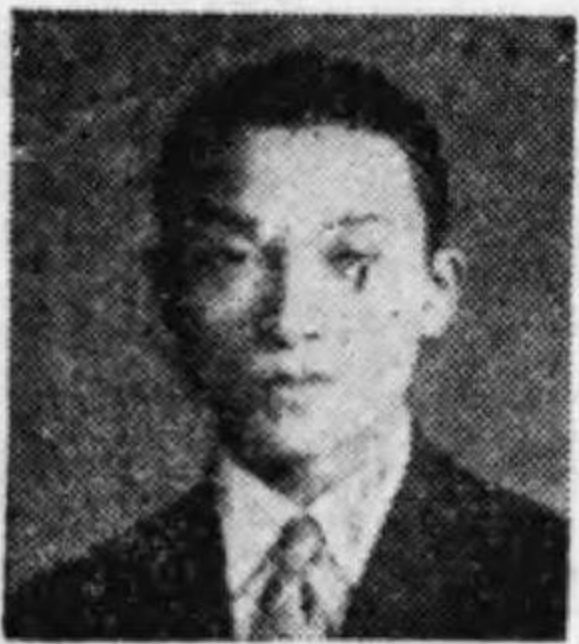
(杉並區高圓寺五ノ八六〇)

早くより新民謡の研究、創作に没頭し「民謡レビュー」「民謡月刊」等にて活躍す。日立書房經營。キングレコードより「軍國子守唄」のヒット盤を出し

評を博す。著書、民謡集其他數種あり。

山崎文雄

(濱松市馬込町三〇五)



大正十一年三月八日現住所に生る。昭和十二年三月濱松小學校を卒業、前年父を失ひ翌年長兄に死別、目下濱松市鈴木式織機株式會社社員となり、傍ら「詩苑」「かざぐるま」「歌謡界」同人となり

詩作、同人中川啓兒兄に師事す。デグユー作品、タイヘイ「旅の幌馬車」「島の夕ぐれ」。趣味—讀書、音樂、映畫、旅行。

〔ヨ〕

横澤千秋

(澁谷區代々木上原一三二五)

明治三十五年七月二十日秋田縣大曲町に生る。父が官員だつたのでそれに従つて浮草生活、山形中學四年を出ると横須賀海軍工廠製圖部に入る。或夏の夜東京の友人とブラ

リ浦賀から東京灣を横切つて東京に遊びに来たまゝ東京に落付く。プロ文學雜誌「新興文學」の編輯、井上康文、島田



芳文、勝承夫等と詩人會の同人として自由詩に活躍した時代がある。福岡市香正寺の僧院生活、萬朝報福岡支局記者、静岡縣書記となり縣史編纂課等轉々、現在文筆生活の傍ら岳父關係で大亞細亞民族會編輯部長、同青年部長、大日本建國史學會編輯部主事、大陸山水成城院委員等をやつてゐる。

レコードは全部キングのみに據つて發表してゐる。

デグユー作キング第一回發賣「マドロス小唄」以來斷續的に發表、代表作としては「ふるさと欲しや」「海のみなし兒」「北の國境線」「山よ曇るな」「ハワイ夜曲」等がある。

與田準一

(牛込區原町一ノ三五)

明治三十八年八月二日福岡縣山門郡瀬町に生る。都土の先覺、北原白秋門に學ぶ。昭和十五年二月日本文化協會よ

り童謡「山羊とお皿」其他に第一回兒童文化賞を受く。

日本作歌者協會及童話作家協會員。

童謡集「旗・蜂・雲」童話集四冊、童話童謡集一冊あり。

四橋獎

(岐阜市眞砂町四ノ三)



本名、正一。大正四年九月五日現住所生。岐阜市立商業實務學校卒業。

幼時七八才より投書の味を覺ゆ昭和六年五月「べにふね」、同年十一月「新詩潮」を發刊、昭和九年

日本童謡協會を設立機關誌「夕焼小焼」を發刊、一ケ年にして解散、夕焼小焼童謡詩社と改め童謡誌「夕焼小焼」を發刊して現在に至る。

日本律動教育研究所、岐阜縣民謡協會、同縣歌謡俱樂部大日本青年黨員、岐阜市本都青年團長兼文藝部長。

デビユー作品、コロナレコード、童謡「山寺の小坊主」。童謡集「二頭馬車」近刊。

趣味—外國映畫、洋樂、端唄、野球、旅行等。

横堀眞太郎

(群馬縣佐波郡三郷里村波志江)



明治三十五年十月二十四日現住所に生る。縣立勢多農學校を経て師範二部卒業。當時より詩作を初め「亞細亞詩脈」「日本詩人」等に關係。尙同人雜誌數十種へ詩作を發表す。

近年、童謡を作り初め妻と共に「童謡詩人」を主宰す。デビユー作品、童謡「槍持ホイ」(コロムビア)著書、詩華集「航海」。

横堀恒子

(同前)



明治四十二年五月二十日埼玉縣兒玉郡藤田村に生る。群馬縣立桐生高女卒業。在學當時より文學を好み地方同人誌に詩歌を發表、「詩歌雜誌」「女人藝術」等に關係す。昭和七年ビクターの全國代表民謡

に「機揚むすめ」一等當選せるを期とし歌謡作詩に轉向。茲來「新民謡研究」「歌謡の日本」「民謡雜誌」「日本民謡」「桑の實」等に作品を發表。

現在「歌謡文學」特別同人、「童謡詩人」を編輯發行す。デグニー作品、民謡「機揚むすめ」(ピクター)。代表作品、民謡「一里二里なら」(ピクター)、童謡「木の夢」著書、民謡集「初島田」あり。趣味—音楽、映畫、郷土人形蒐集。

吉屋信子 (牛込區砂土原町三ノ一八) 電話牛込二一八七番

レコード界に新生面を拓いたピクターの小説物語「女の友情」は、女史の有名な小説の物語化であつた。女史は現文壇隨一の女流作家。その筆致の清麗、抒情の美しさに於て名あり、近年その才筆は新聞に雜誌に單行本に、延いては演劇映畫の原作にレコードの作詞に、満天下の吉屋ヲアソブ仰の的である。

猶女史獨得の優麗な詩は、ピクター作詞陣の異彩である。「良人の貞操」「母なればこそ」「家庭日記」「花摘み日記」「女の教室」等の主題歌、及び作詞「届けぬ文」がある。

吉川静夫 (北海道中川郡本別町美蘭別 北八線六八)



別名、千島時雨郎。明治四十年八月二十八日北海道に生る。北海中學を経て拓殖大學に學ぶ。詩誌「新詩流」「昭和詩人」「プレリュード」「歌謡劇場」に關係す。現在は「歌謡詩人」「國民詩人」に作品を發表、昭和十二年七月應召、北支、中支に轉戦し、同十四年三月に歸還す。日本作歌者協會員、現住所の小學校及び青年學校長。

代表作品「大帶廣市歌」「旅がらす」「追分月夜」等。趣味—劍道三段。

吉野まさき (靜岡縣吉原町六軒町) 電話吉原三三〇番

舊名岩田正雄。明治四十三年三月二十五日富士山麓須走村の名家榮屋に生る。幼時家運傾き一家と共に轉々す。沼津市立實修學校、靜岡縣立自治講習所を終へ、原町役場書記、清水日々新聞文藝部記者、東海日々新聞吉原支局、再

び原町役場を経て現在富士郡吉原町書記俸職中。



早くより趣味として詩歌を研究昭和八年頃より島田芳文氏に師事その薰陶を受く。

綜合藝術派集團主宰、嘗つて音楽・文藝雜誌「ヴァラエティ」「旅と文藝」等を編輯、ミュージック・

ライン東海支局擔任。アトラクシヨン及び音楽會を毎年數回開催。

趣味—旅行 登山、撞球。

吉田碌夢 (靜岡縣中泉町西町本通り)



本名、茂二。大正四年九月一日現在所に生る。「赤い鳥」を愛讀せし頃より文學を好む。昭和六年同人誌「緑の星」に「旅藝人の唄」を初めて發表、茲來「詩人時代」「歌謡研究」等に關係し昭和十一年七月自ら同人誌「歌謡界」を發刊し現在に至る。

(ワ)

若杉雄三郎 (四谷區坂町六五坂町別館内)

清水市出身。早くより文學に専念し、文學雜誌を發行、次第にその地方で重きをなす中、東日懸賞募集の「新しき天」の映畫主題歌に當選、爾來種々の懸賞に當選したのを機運として、レコード作詞家たらんと志すに至る。

偶々中山晋平氏が清水に遊んだ折、その才能を認められ氏の推薦を受けてピクター專屬作詩家となる。殊に昭和十四年度よりの活躍めざましく、「日の丸音頭」「國境通信」「淺草詩情」「望郷夜曲」等多くのヒットがあり、又童謡方面にも續々才人振りを發揮してゐる。詩集に「港の灯」一卷あり。

(追加)

坂本修三郎 (出征中)



本名、周三郎。大正四年三月二十九日埼玉縣に生る。昭和八年埼玉縣立松山中學卒業後上京、特に英語、佛語を學ぶ。作詞を時雨音羽氏に、音楽を三界稔氏に學ぶ。作詞界に身を投じ「さらば愛馬よ」でデビューす。

目下北支派遣軍多田部隊(第一野戦局氣附)にて活躍中。代表作品「新討匪行」「さらば愛馬よ」(ポリドル)「漢口航路」(キング)等がある。趣味―書畫、骨董の蒐集。

青柳花明 (群馬縣勢多郡粕川村月田)

早くより民謡、童謡方面に活躍、島田芳文氏主宰の「民謡詩壇」及「レコード世界」同人として作品を發表、後、

童謡誌「桑の實」其他を發行、代表盤として童謡レコード數種あり。東壽寺住職。

阿南哲朗 (小倉市西原町二八三)

明治三十六年一月十日生。野口雨情氏に師事。昭和二年詩集「石に響く」を出版す。「北九州小唄」外北九州地方の新民謡の作詩多く早くより民謡詩人として活躍す。

岩間純 (岐阜市驛前華陽軒内)

迅に詩壇に於て活躍、嘗つて岐阜詩人協會を主宰し詩誌「詩魔」を發行。又「詩の家」同人としても活躍す。日本作歌者協會員。レコード歌謡作品數富あり。

上田忠男 (京城府花園町一〇七)

明治三十八年下ノ關に生る。釜山第一商業卒業。詩集「憂鬱な信號」「Kales Bilt」外三者あり。「詩精神」同人たりし昭和九年××事件に依り〇〇より詩の發表を禁ぜられ渡鮮す。現在「とらんしつ」と同人、九州藝術家聯盟

に席を置く。自由詩を書き乍ら他方朝鮮の新民謡小唄を發表す。

趣味―愛酒は李白の亞流、餘技としてコロムビアへ六五篇の作詞レコードあり。

江崎小秋 (牛込區辨天町一五)

早くより民謡及び童謡の創作に没頭、後佛敎聯合會にて佛敎童謡方面で活躍を續く。作品は主にコロムビアに多く發表す。主なるものに「戦捷花まつり」「成道會の歌」「さくら人形」「楽しい雛まつり」「お彼岸まつり」「英靈まつり」「軍國盆をどり」等がある。

著書「日本佛敎童謡集」外數種がある。

影山紅情 (京都市祇園町彌生町小路)

別名八寸夫、歌謡並に情歌を研究、現在鴨東八重垣社に據り關西情歌界に活躍中。

木野普見雄 (大分縣杵築町堀場九九)

嘗つて「九州民謡」「唐人船」等にて活躍、豊後歌謡協會を主宰、雑誌「豊後歌謡」を發行、大阪音楽協會募集の「國旗讃歌」に作曲二等に當選す。作詩、作曲、聲樂家を兼ね一人三役にて活躍す。目下長崎日日新聞編輯部へ勤務す。

佐々木綠亭 (王子區王子町一三六四)

秋田縣出身。早くより民謡の創作に没頭、「近代詩歌」誌上にて活躍、後島田芳文氏主宰の「民謡詩壇」委員として協力して新民開拓運動に參劃す。又、近代民謡社を起し「近代民謡」を發刊せしことあり。ユーモラスな民謡及び歌謡をタイヘイ其他より發表、民謡集及童謡作品多數あり。

鈴木章弘 (江戸川區小岩町三ノ一三七七)

「詩と歌謡の社」を主宰し雑誌「詩と歌謡」を發行し歌謡界に長年活躍す。民謡集「茶の木畑」あり。

關澤新一 (京都市東山區濫谷通大和)

歌謡、童謡方面へ進出、京都歌謡作歌社主宰、パンフレ

ツト「歌謡作家」發行、「新興歌謡」同人。日本映畫研究所漫畫部にて同志と共にトキー漫画「明治文化史」製作中。代表作、童謡「京人形」(キング)あり。

高安啓示 (富山市千石町三二)

富山地方に於ける民謡、歌謡方面の先陣として早くより活躍す。日本歌謡音楽協會、富山放送演劇協會、富山藝術映畫研究會を主宰す。他面産業組合富山支會、富山縣産業組合青年聯盟にても活動を續けてゐる。民謡集、歌謡の作品多數あり。

武田幸一 (福岡市藥院鐵砲町七)

盛衰極まりなき九州民謡詩壇に於て長年不斷の努力を續け同地方に於ける精銳として佳作を發表す。現在福岡日日新聞社編輯部勤務。代表作品、キング「吹雪に暮れて」「日の丸馬車」外數篇あり。編著「九州民謡詩人選集」あり。

三木露風 (府下三鷹村牟禮五八二)

本名、操。明治三十二年六月兵庫縣に生る。早、慶兩大學の文科に學ぶ。迅に詩壇に於て活躍し、詩集「白き手の臘人」「象徴派詩集」「三木露風詩集」其他多數あり。最近國民歌謡數篇發表す。

深山影二 (福岡市六本杉四三四ノ一)

本名砥上榮二郎。早くより博多地方に於ける新民謡の先驅者として活躍す。現職は福岡工業教諭。民謡集「博多山笠」。代表作、柀屋作吉作曲「祭囃子」其他あり。

中村伊佐治 (世田ヶ谷區下代田町六)

愛知縣蒲郡出身。早大英文科を卒業し郷里にて女學校教師をしてゐたが止めて上京、昭和十三年頃よりレコード作詞界に進出し、主としてテイチク、ポリドールにて活躍す。日本レコード作家協會員。代表作「雨のセレナーデ」「街のセレナーデ」「葦飾つて」

田中忠正 (中野區本町通六ノ一三)

日本作歌者協會員。主として童謡方面に活躍。童謡レコード多數あり。代表作、コロムビア「花まつり」「お月さん今晚は」「ねづみの行列」等あり。

千々岩秋月 (長崎市飽ノ浦一ノ三九)

迅に民謡、歌謡方面に活躍、昭和九年民謡誌「唐人船」を發行し多くの同人社友を擁して地方民謡界の發展に努力す。島田芳文氏に師事しその輔導を享く。目下應召中。

廣瀬充 (王子區下十條町二二〇)

山形縣出身。「民謡詩壇」の中堅として早くより活躍し島田芳文主宰の全日本民謡詩人聯盟委員として新民謡開拓運動に努力す。後詩誌「風速」を發行、更に歌謡雜誌「歌謡劇場」を發行して現在に至る。代表レコード「酒田音頭」。民謡集あり。趣味—酒、おぼこ節が得意。

紫室代介 (淀橋區柏木四ノ九三五)

聲樂家下八川圭祐氏の元に寄寓しポリドール、テイチクに據り作詞家として活躍す。主なる作品としては、ポリドール「流沙の護り」、テイチク「離別了姑娘」等がある。

劉寒吉 (小倉市魚町三濱田方)

北原白秋門下。本姓濱田。とらんしつと詩社を主宰し詩誌「とらんしつと」を發行す。同人中より火野葦平氏を文壇に送り出す。九州藝術家聯盟並に「九州詩集」編纂委員。とらんしつと詩社同人合作に依り火野葦平氏原作、北原白秋氏補作主題歌「士と兵隊」をピクターより發表す。

江崎靜波 (戸畑市明治町六丁目)

昭和十年「玄海灘詩人」を發刊し、現在「八幡船」同人として北九州工場地帯に於て煙の中より力強い民謡を書いてゐる。詩作八年の結晶として民謡集「はぐれ鳥」を一昨

年出版す。

武内俊子

(世田ヶ谷區三軒茶屋町一四〇) 電話世田ヶ谷三六八七番

廣島縣三原町に生る。廣島高女出身。野口雨情、島田芳文兩氏に師事す。一時藤田健次氏主宰の「民謡音楽」同人として活躍す。主として童謡の創作に専心しキングレコードに據り作品を発表、女流童謡、童話作家の白眉。日本作歌者協會員。

代表レコード、「かもめの水兵さん」「赤い帽子白い帽子」「支那の花嫁さん」「二千六百年頌歌」等多數あり。

著書、童謡集「風」。

趣味―生花、小鳥、飼犬。

都築益世

(四谷區舟町三) 電話四谷三三六九番

慶應大學醫學部出身。醫學博士。慶大病院小兒科勤務。早くより新民謡開拓運動に參じ「民謡詩人」及日本民謡協會員として活躍す。日本作歌者協會員。

詩集、歌謡集、童謡集あり。

代表作品、「ヨイヤマイタの唄」「泣きぼくろ」等。

長田恒雄

(澁谷區千駄ヶ谷五 新宿ハウス内)

日本詩人會委員、三省堂出版部勤務。自由詩壇方面の中堅として活躍の傍らレコード方面にも進出、コロムビアより作品を発表す。

代表盤、「アラボー二千五百六十八年」「何日君再來」「あふるさと」「アコーディオンの春」等がある。

勝田香月

(中野區本町通六ノ一〇)

本名勝田穂策、静岡縣大宮町に生る。長らく大日本國民中學會編輯部長に就任、傍ら抒情詩人として活躍、詩集「旅と泪」外數著あり。中野區會議員、市會議員として市政方面にも活躍、初め社會大衆黨に籍を置き現在は中野正剛氏の東方會幹部。

代表作「出船」(藤原義江獨唱ビクター盤)其他あり。

澤田文治

(中野區新井町四四四)

大關五郎氏に師事、十年來純民謡の創作に専心し「新日

本民謡」「藝術民謡」の同人として活躍す。

民謡集「結婚以前」、レコード作品二三あり。

川上光義

(王子區豊島町三ノ一八ノ二)

作曲家島口駒夫氏と提携して作詞界に進出す。日本レコード作家協會員。

代表作、ビクター「鴻恩に泣く」、ポリドール「涙の子守唄」等あり。

福井水明

(芝區神谷町三二)

早くより童謡方面にて活躍、童謡レコード多數あり。本年四月日本レコード作家協會員となる。

代表作、テイチク「あゝ校庭の花散れば」。

淡海喬介

(大津市高見町一六)

「みづらみ詩社」を主宰し歌謡誌「みづらみ」を發刊し、歌謡、童謡方面に實際的な活躍を長年續けてゐる。

中村雨紅

(神奈川縣厚木町)

日本作歌者協會員。厚木高女教師。童謡「夕焼小焼」の作詞者として知らる。

近藤吐愁

(新潟市旭町通二番丁)

新潟地方に於ける新民謡運動の第一線に立つて早くより活躍す。日本作歌者協會員。

代表レコード、童謡「遊ぼうね」。

相馬御風

(新潟縣糸魚川町大町五二)

本名、昌治、明治十六年七月新潟生。早大文科出身。嘗つて母校の講師並に「早稻田文學」を編輯せしことあり。良寛の研究者として知られ「大愚良寛」「凡人洋七」等の著あり。歌謡方面にも佳作を發表す。日本作歌者協會員。

山北しげり (甲府市御崎町四二)

新進童謡詩人中の精鋭として最近頗る活躍、斯界に進出す。代表作、コロムビア「いたづら雀」「兵隊さんの兄さん」外數種あり。

宮城勝夫 (中野區道玄町二五)

日本レコード作家協會員。代表作、テイチク「殊勳をたて」等あり。

平埜甲策 (愛知縣海部郡十四山村竹田四四五)

日本作歌者協會員。主として童謡方面に活躍す。代表作、コロムビア「波の子供」「金のお舟」等あり。

玉置光三 (小石川區原町一三に六) 電話大塚四五三二番

古くより民謡の創作に専心し、嘗つて日本民謡協會員として活躍す。日本作歌者協會員。代表作、宮城道雄作曲「蛸つき」。

古賀秋帆 (八幡市黒崎屋敷町二丁目)

北九州に於ける民謡作家として早くより活躍す。嘗つて明星詩社を起し雑誌「明星」を發行す。地方民謡多數あり。

山根しぐれ (鳥取市吉方村五八六)

鳥取地方に於ける新民謡作家として迅に活躍す。代表作、「鳥取行進曲」「鳥取小唄」(タイヘイ)外數種を發表す。

江口とし夫 (八幡市黒崎東貞町化成社宅)

北九州に於ける民謡、歌謡作家の新人として活躍、北九州の民謡詩人を集め「波群」を發行す。

中村甲陽 (岡山縣後月郡西江原町)

本名中村勉、久保田宵二、鳥田芳文兩氏に師事、民謡小唄の作詞に精進す。西江原町役場勤務。目下應召北支にて奮闘中。代表作「江原小唄」あり。

第四編 舞踊家

第四編 舞踊家

〔ア〕

青山圭男 (麻布區筈町一八〇)

振付、松竹歌劇教師。維納の舞踊コンクールに出席の爲め昭和八年渡歐、同十一年二月歸朝。歌劇、グランドレヅユー、ホードビル等の作及び振付、演出作品多數あり。

吾妻春枝 (京橋區銀座七ノ四)

新舞踊、本名山田喜久榮。明治四十二年二月十五日生。藤間勘齋、坂東三津五郎に師事、吾妻流家元、春藤會主宰作品「切支丹繪卷」「牛七捕物帖」等。

蘆原英了 (麴町區六番町一三ノ二山月房內) 電話九段二二六番

評論家、明治四十年一月九日生。慶大佛文科出身、ラリオノフに師事、昭和七年十二月歐洲留學より歸朝、二月會

員、巴里國際舞踊記録所特派員、大日本音樂協會員。

作品、舞踊劇「吉田御殿」「天女と漁夫」、著書「現代舞踊評話」。

〔イ〕〔キ〕

池田籙子 (赤坂區青山南町二ノ六) 電話青山四一〇番

作者、日本女子大學出身。文藝家協會員、「新演劇」同人。作品「こゝろ」「雨」其他多數あり。

石井 漢 (目黒區自由ヶ丘六二二) 電話荏原三九三〇番

西洋舞踊。明治二十五年十二月二十五日秋田生。帝劇洋劇部第一期生、舞踊をローシイ、歌を三浦環に師事、大正十一年より四ヶ年間歐洲を巡演、各都市で自作品發表會開催。現在、石井漢舞踊體育學校長、日本舞踊聯盟常務理事。

作品「人間禮讚」「明暗」「食欲を喰る」「燕尾服を着た東京」「突撃」其他、舞踊に關する著書數冊あり。

石井小浪 (目黒區自由ヶ丘一六九) 電話四一三二番



本名、高原千代。明治三十八年三月十三日東京生。十二歳頃より石井漢氏に就き西洋舞踊を學び、大正十三年より一ケ年間歐米に旅行、昭和四年獨立して石井小浪舞踊研究所を開き今日に至る。日本女子體育専門學校、東京藥學専門學校及中原高等女學校の講師を兼ねぬ。石井小浪學校舞踊に關する著書十數冊あり。趣味—繪畫、登山。

石井みどり (中野區江古田町一ノ一八二) 電話落合長崎二七六三番

西洋舞踊。本名折田花子、大正三年宇都宮市生。宇都宮高女出身、石井漢門下。石井みどり舞踊研究所主宰、日本舞踊聯盟評議員。作品「ミンストレル」「南風の吹くところ」其他あり。

今儀謹次郎 (中野區上高田一ノ二四八)

明治二十六年福井縣生。大阪高工造船科出身。信陽社、日本舞踊社主宰、雜誌「日本舞踊」發行。作品「蟲」「金魚」其他あり。

井上徳雄 (世田ヶ谷區北澤二ノ八六) 電話世田ヶ谷二七五二番

西洋舞踊。明治三十二年四月二十五日生。慶大經濟科出身。井上新舞踊研究所主宰。作品「ペール・ギユント」「失はれたる幻想」等あり。

(ウ)

煤茂都陸平 (大阪市東區博勞町一ノ六二) 電話船場三一九三番

振付。煤茂都流家元、寶塚理事。昭和六年渡歐、同十一年歸朝。芝區新橋五ノ一六に出張稽古場設置。

梅園龍子 (世田ヶ谷區三軒茶屋町九一)

西洋舞踊。本名植草正枝、蘆原英了、ガーネットに師事益田トリオ同人、東寶映畫専屬。

牛島武夫 (澁橋區戸塚町三ノ三五九)

西洋舞踊。牛島舞踊研究所主宰。

(エ)

江口隆哉 (目黒區平町三〇五) 電話荏原三九一四番

西洋舞踊。明治三十五年一月二十一日生。明大に學び初め高田舞踊團にて修業、昭和六年渡獨、ウキグマン、クロイツベルグに師事、ウキグマン舞踊學校卒業後、伯林パツハ・ザールに發表會開催す。

エリアナ・バヴロバ (麹町區有樂町蠶糸會館内) 電話丸ノ内九五三番

現在、江口・宮舞踊研究所主宰、日本舞踊聯盟理事。

西洋舞踊。歸化名霧島エリ子、一九〇二年ロシア生。クレムラ・ゴバロに師事す。我が國滞在十七年歸化す。エリアナ・バヴロバ舞踊研究所主宰、日本舞踊聯盟評議員。作品「ジプシーの戀」「アディアデ」等。

(オ) (ヲ)

岡本八重子 (澁谷區千駄ヶ谷四ノ七一四)



別名、ルビー八重子、大正六年米國ロサンゼルス東六街に生る。四歳の時より滿八ケ年間體育舞踊修業、ウイリアム・ピ・ラムスデル舞踊學校出身。アクロバティク・ダンサーとして、名聲を揚げ米國各都市で巡演、昭和六年歸國以來内地各都で巡演今尙活躍中である。

岡本文子 (同前)

藝名ヘレン文字、アクロバティク・ダンサー。

〔カ〕
加藤夏子

(澁谷區上智町八)



舊姓神野、大正六年二月十一日
淺草小島町に生る。昭和八年四月
紫會桑原雄子女史の下へ入門、舞
踊を研究する傍ら東京女子音樂園
長桑原哲郎氏に就いて音樂の研究
をなす。昭和十三年獨立、紫會
舞踊研究所を主宰し、現在に至る。

貝谷八百子

(世田ヶ谷區松原二ノ七)

西洋舞踊。大正十年生。昭和十三年一月デヅニー。貝谷
八百子舞踊研究所及バレエ劇場主宰。

河上鈴子

(蒲田區蓮沼三二三)
電話蒲田三一九三番

西洋舞踊。本名ひさよ、明治三十七年七月十四日東京生

上海パブリック・スクール出身、多年米國に在りベツケツ
テイに師事、昨春南米に赴く。河上鈴子舞踊研究所、鈴蘭
會主宰、大日本音樂協會員、日本舞踊聯盟評議員。

河野たつろ

(目黒區上目黒入ノ五五二)



本名達郎、明治三十五年五月九
日東京芝區に生る。日本體育會附
屬中學校を経て慶應大學經濟學部
卒業。
大正十二年シヤボン玉社を創設
童謡の實際運動に携る。昭和三年舞踊たつろ會を創設主宰
す。昭和五年東京兒童藝術協會を創設兒童劇其他をコロム
ビア教育レコードに吹込む。
昭和八年舞踊振付專屬としてコロムビア會社に入社す。
昭和十四年度より舞踊コンクール開催に盡力す。
現在上記の外に日本教育舞踊協會常任理事、財團法人日
本體育會常議員、日本作歌者協會員、東邦音樂學校總務、
代表作品、舞劇「孫悟空」「深夜のデパート」舞踊小

唄「A君と驟雨」「東征」童謡舞踊「ニヤン／＼踊り」外
コロムビアレコード全般に亘り振付、大衆舞踊「さくら音
節」外約四百種。

著書、童謡集「陽」「學校劇集」「擬音の研究」等あり。
趣味—スポーツ、登山、旅行、寫眞。

印牧季雄

(四谷區南伊賀町一六)

振付。本名山田太郎平、明治二十九年十月二十三日生。
中央大學、體操學校等を経てウキグマン舞踊學校に學ぶ。
印牧パロー研究会主宰。

柿澤充

(澁橋區大久保二ノ二七五)

西洋舞踊。本名政一郎、明治三十八年靜岡生。日大及印
牧パロー研究会出身、柿澤舞踊研究所經營、印牧パロー研
究會講師。作品「縛を解く」其他あり。

賀來琢磨

(小石川區表町九一)

西洋舞踊。明治四十年大分縣生。印牧季雄に師事、中央

音樂學校講師、マンバハ舞踊研究所主宰。

雷門五郎

(京都市中京區錦屋町北車屋
町六角下九)



本名岩田喜多二、明治四十年四
月二十二日東京本郷壹岐坂に生る
五歳の時父の業を受け落語家とし
て初上座を勤む。
昭和二年落語界を去つて吉本興
業部に入る。その間花柳壽衛に就
き舞踊を研究し、昭和二年舞踊岩田派を創設し、昭和十一
年五郎シヨウ一座を組織、同十四年五月雷門舞踊座を組織
し新興演藝部に入り現在に至る。
日本コロムビア會社舞踊囃託。

代表作品「操り三番叟」「法界坊」其他數十番。

柏貞子

(目黒區向原町二一九)

西洋舞踊。本名米本定子、明治四十四年三月三十日生。
渡邊高女出身、高田雅夫、同せい子に師事、柏舞會主宰。
作品「菩薩」其他あり。

〔ク〕

桑原雄子

(麻布區材木町三) 電話赤坂二八一四番



舊姓内海、大正二年七月十一日東京に生る。上野高女出身、聲樂ピアノ、古典舞踊を研究し、昭和八年紫會新舞踊研究所を開設し現在に至る。

愛幼稚園、花園幼稚園舞踊主任。作曲家桑原哲郎氏夫人。

邦

正

美

(世田ヶ谷區北澤四ノ三六二)

西洋舞踊。本名朴水仁、明治四十一年二月十一日朝鮮生。東京帝大美術史料出身、ウイザース、エーブルに師事、邦正美舞踊研究所主宰、昭和十二年春渡歐。

作品「創世紀」等あり。

九貴麗子

(牛込區矢來町九四) 電話神田四〇一〇番

新舞踊。明治四十四年東京生、幼少の頃藤間流を習ひ、後九貴流を創案、自宅教授。作品「荒城の月」其他。

栗島すみ子

(大森區久ヶ原町六四一) 電話大森六六五二番

日本舞踊。別名水木歌紅、初代水木歌橋に師事、踏紅會栗島すみ子舞踊研究所主宰。長らく映畫女優として活躍。作品「松蟲」「青蛾」「深雪」等あり。

〔コ〕

小寺融吉

(淀橋區百人町二ノ一三七)

舞踊評論家。明治二十八年十二月八日生。早稻田大學英文科出身、演藝博物館、三水館、郷土舞踊の會幹部。著書「近代舞踊論」「日本近代舞踊史」「をどりの型」等あり。

高

へテイ

(神奈川縣逗子町久木西小路九)

西洋舞踊。一九〇九年二月二十日獨逸サクセン州に生るライプチヒ市立舞踊學校に入り、アーベント・ロードに學ぶ。同市オペラ劇場バレエに出演。昭和三年チエロの高勇吉氏と結婚。自宅教授。

五

社玲子

(麴町區麴町五ノ二ノ五)

西洋舞踊。舊名南榮子、明治四十二年十二月二十日廣島縣生。マクレツアに學ぶ。ミナミ舞踊研究所主宰。作品「狂へる一頁」其他あり。

〔サ〕

崔

承

喜

(杉並區永福町二二六四) 電話松澤二九二五番

半島の生んだ舞姫としてその名は今や洋舞界一流の舞踊家を認めらるゝに至る。石井漠の門下としての苦心と研鑽の結果遂に今日の名聲を獲得。昭和十一年映畫「半島の舞姫」に主演せる際コロムビアへ招かれてその主題歌を吹込

む。目下外遊中。

塚千代子

(市川市中山町五六二)

西洋舞踊。本名尾崎千代、明治三十八年七月三十日生。高木徳子、高田雅夫に師事、藤田舞踊研究所經營。作品「アニトラ」其他あり。

澤村香之祐

(淺草區千束町二ノ二六〇) 電話淺草二六八五番



本名石村國次、明治四十年二月十日日本橋魚河岸に生る。前名澤村壽、澤村流三世家元を繼ぐ。昭和十二年九月新内舞踊發表、同年十一月琵琶舞踊を昭和十五年一月大和舞踊發表す。

東流宗家(東松菊)大和舞踊家元(大和久翁)を兼ね。代表作品、新曲「舞妓はん」琴曲「千鳥の曲」「黒百合」横笛「田舎源氏」「唐人お吉」等あり。寫眞「千鳥の曲」に扮す。趣味―旅行、草花、人形、俳句(俳名菊壽)。

〔シ〕

執行正俊

(杉並區荻窪三ノ七〇)

西洋舞踊。明治四十一年三月五日福岡縣生。東洋音樂學校出身。故岩村和雄に師事、リトミック研究の爲め獨逸に赴き昭和七年春歸朝。執行正俊舞踊研究所主宰、日本舞踊聯盟評議員、作品「イゴール王子」「コッペリア」等あり。

重本鶴江

(四谷區南伊賀町一四) 電話四谷一九八一番

西洋舞踊。明治四十一年德島縣生。印牧パロー研究会出身。

澁井二夫

(世田ヶ谷區下馬町三ノ七二四)

明治二十九年三月二十五日栃木縣芹野町生。大正七年より椿氏と共に日本體育ダンス研究会を設け奉職校青山師範内に本部を設けこれに附隨して大日本女子體育振興會及皇道體現律動體育研究会を設け全國、滿支に一萬の會員を擁

す。現在支部百五十、指導員三〇〇名、講習會毎夏百數十ヶ所に開催す。



現在、大日本體育ダンス研究會長、大日本女子體育振興會長日本女子體育專門學校教授、皇道體現律動體育研究所長、兒童藝術協會理事、東亞文化協會理事、勤勞者教育中央會幹事、企劃課長。

著書「體育ダンス原論」「體育ダンス教本」「體育ダンス創作法」「行進遊戯唱歌遊戯指導書」等計百八冊に及ぶ。

趣味—洋畫、クレオン畫、園藝、講演行脚、歌と俳句。

清水和歌

(澁橋區百人町二ノ一三七)

新舞踊。本名小寺かの子、明治三十八年十二月八日秋田生。神戸女子神學校出身、志賀山勢以、藤間勸世に師事。昭和九年十月第一回發表會開催、志賀流家元。小寺融吉氏夫人。

作品「秋の調」「おん京京橋」等あり。

志賀山勢以

(京橋區新富町一ノ九)



本名字佐美梁子。大正二年十一月二十五日京橋八丁堀に生る。十四代志賀山勢以の孫として幼時より舞踊を學び、六歳の時より舞臺に立つ。

昭和十四年十月十五代目志賀山勢以を襲名、志賀山流家元として現在に至る。

代表作品「加賀家狂亂」「志賀山三番叟」。

趣味—映畫、特に洋畫を好む。

島田豊

(芝區白金三光町二七六)



明治三十三年一月德島市に生る。德島師範學校卒業後、大阪に出て樺茂都陸平氏に師事し、傍ら島田兒童舞踊研究所を設置す。大阪に於ける童謡舞踊の草分けをなし、現在東京神田一ツ橋の教育會館に

本部を置き、大阪、名古屋、神戸、横濱等、全國五十ヶ所の支部と三十名の弟子と、一千餘人の生徒を有し活躍を續けてゐる。ピクター童謡レコードの振付はすべて同氏の手になり、童心を穿つ按舞と懇切なる解説は同好者の好評噴々たるものがある。「現在ピクター文藝部邦樂部囑託」。

新宮博

(京橋區木挽町四ノ二)

西洋舞踊。明治三十七年八月十五日岡山生。關西中學出身、新宮博舞踊研究所主宰、昭和五年十一月第一回發表會開催。作品「前奏曲」「狂人」其他あり。

〔ス〕

鈴木初江

(中野區上高田二ノ三六九) 電話中野五五八六番

新舞踊。大正十二年十二月十一日生。高山高女、日本女子高等學院文藝部に學ぶ。鈴木初江舞踊研究所主宰。作品「千曲川旅情のうた」「南國の薔薇」等あり。

〔タ〕

高田せい子 (淀橋區柏木四ノ八六八) 電話四谷二二五四番

西洋舞踊。明治三十二年九月十三日金澤生。東京音樂學校中途、帝劇洋劇部出身、歐米各國へ三ヶ年遊學。高田せい子舞踊研究會主宰。大日本音樂協會員、日本舞踊聯盟常務理事。作品「芥子粒夫人」「錦道」「1001」「サロメ」「えどらどう」其他あり。

田澤千代子 (神田區神保町二ノ一三) 電話九段二六四三番

西洋舞踊。明治四十四年十一月三日札幌市生。文化學院中學部出身、フェリス、ガーネット、エイブルに師事、田澤千代子舞踊研究所主宰。昭和七年十一月第一回發表會開催。一昨年秋歐米より歸朝す。

作品「ブシケ」「淡き光」等あり。

玉置眞吉 (蒲田區小林町一三〇)

批評家。明治十八年四月十日三重縣生。明治學院神學部出身、東横舞踊場顧問、大日本音樂協會員。著書「社交ダンス全集」等。

〔チ〕

千葉みはる (四谷區永住町二)

本名躬治。明治三十六年八月三十一日岩手縣に生る。東京音樂學校出身、岩村和雄主宰岩村舞踊研究所に學ぶ。昭和六年渡歐巴里綜合舞踊學校修業。特許新樂器「ミハルス」發明。現在、千葉みはる舞踊塾主宰、現代舞踊家集團員、ミハルス體操研究會會長。

代表作品「蜚蜴のボレロ」「205」「變質者の陳述」「鳥舞ひ」著書「ミハルス教則本」あり。

〔ツ〕

堤眞佐子 (世田區谷區祖師ヶ谷二ノ四五〇)

西洋舞踊。大正六年八月十八日小田原生。日本劇場附屬

舞踊學校出身、東寶映畫專屬。

〔ニ〕

西崎緑 (小石川區原町二二) 電話大塚九二八番

新舞踊。明治四十四年五月十六日横濱生。佛英和高女佛語專門部出身、初代喜洲に師事、若葉會主宰、日本舞踊聯盟評議員。昭和五年十月第一回發表會開催。

作品「紫」「浮舟」「日月頌」「血笑記」「土」「萬利」等。

西川扇藏 (下谷區仲徒町二ノ四〇)

日本舞踊。本名尾村保子、西川流家元、八代目家元に學ぶ。

西川扇龍 (淺草區馬道町八ノ九)

新舞踊。大正四年東京生。初め坂東流を學ぶ。後先代西川流家元に師事、美扇會主宰、作品「傀儡師」「お七人形」其他あり。

〔ハ〕

花柳壽輔 (京橋區木挽町六ノ六) 電話銀座三三三二番



本名花柳芳三郎、日本舞踊、花柳流家元にして研究會を主宰す。日本舞踊の總元締として多數の門下を擁し斯界の重鎮たり。趣味は讀書。

花柳徳太郎 (芝區新橋一ノ三二) 電話銀座二六八三、下谷六八九二番



本名田代徳太郎、明治十一年七月十一日淺草區平右衛門町に生る。六歳より淺草區田町叔父先代花柳壽輔に就いて舞踊修業、先代没後其の家元を預り居たるも先代の遺子二代目壽輔襲名と共に家元を辭し分家して現在に至る。柳櫻會主宰。

代表作品「鳥の千歳」「東ノ都獅子」「三保の松」「喜三の庭」其他數十番。
趣味—什器の愛藏。

花柳徳兵衛 (淺草區左衛門町二) 電話淺草四〇四一番

新舞踊。本名寺崎孝太郎、明治四十一年一月十六日生。故徳之輔に師事、花柳徳兵衛研究會主宰、昭和八年十二月第一回發表會開催。作品「日本武男」「死面」等。

花柳壽二郎 (麻布町霞町六)

新舞踊。本名小林繁次、明治三十八年三月四日東京生。正則中學出身、壽輔に師事、花柳慕田舞踊研究所主宰、日大藝術科講師、昭和六年七月第一回新作發表會開催。作品「五つの假面」等あり。

花柳壽美 (麻布區六本木町三〇) 電話赤坂一八八五番

本名大橋いさみ、明治三十一年二月一日岐阜縣生。五歳にして西川流舞踊を修め、後に花柳徳太郎門下に入り、家



元花柳壽輔にも就き、二十一歳にして花柳流名取となる。大正十三年囃會を創立主宰して帝國ホテル演舞場にて試演會を催す。昭和三年秋日比谷公會堂に於て囃會第一回公演を催す。爾來春秋二回主として歌舞伎座に於て新作發表會を催し現在に至る。

花柳珠實 (麴町區六番町三) 電話九段四四四七番



本名佐竹いね、明治三十六年二月六日秋田市生。六歳より母に就き巴流舞踊を習得、十一歳より母の代稽古をなし、十五歳の時上京して花柳流の門に入り十八歳にして名取となる。其の後舞樂、能樂、郷土舞踊等の研究と共に現代音樂の研究をなし、新興日本舞踊の創作に努め「珠寶舞踊」を創案す。

昭和五年春、珠寶會第一回公演を開催し、古曲舞踊の研究と珠寶舞踊の創作を發表す。以來毎年春秋二回珠寶會公演を催し、昭和十五年秋其の第二十回記念公演を行ふ。珠寶會主宰として多くの社中を擁す。

デヅニュー作品「春信幻想曲」を初め「胡桃割人形」「芥子粒夫人」「清姫の執着」「一粒の麥」「收握」「發掘」「大陸めざして」「かむかぜの」「佛敎東漸」等多數あり。

花柳壽三郎 (回谷區大番町一〇) 電話四谷五五二二番

日本舞踊、西洋舞踊、寶櫻會主宰。

花柳壽太郎 (四谷區傳馬町一ノ一八) 電話四谷五三九四番

日本舞踊。柳壽會主宰。

花柳壽恵美 (麻布三河臺町一三) 電話赤坂一八五六番

新舞踊。本名大橋靜、囃會社中、壽美、徳太郎に師事。作品「道成寺物語」其他。

林 きむ子 (豊島區西巢鴨四ノ一二一) 電話大塚四六六四番

新舞踊。明治十九年東京生。初め水木流を習ひ、藤間、西川各流を學び大正十三年林流を創立、銀閃會を主宰す。作品「お夏狂亂」「竹取物語」外多數あり。

林 一 枝 (豊島區西巢鴨四ノ一二一) 電話大塚四六六四番

新舞踊。大正三年東京生。林舞踊研究所員、大森めぐみ舞踊研究所、目白文化幼稚園舞踊部教師。

林 三 枝 (足立區千住旭町五四) 電話大塚四六六四番



本名長妻理子、大正九年二月四日作曲家長妻完至氏の次女として現住所に生る。三輪田高女出身七歳より林きむ子女史に師事、昭和十二年三月林三枝の名を授けらる。現在、林流舞踊銀閃會々員、林三枝舞踊研究會を主宰し日本古曲舞踊、新舞踊指導及び

振付をなす。

代表作「お母さまありがたう」「ポツチヤン・ポツチヤン」「金太郎踊り」其他あり。

趣味—郷土人形、スポーツ、歌舞伎等。

林 壽 枝 (澁谷區原宿二ノ一七〇ノ二二)

新舞踊。大正元年東京生。みどり會主宰、銀閃會主事。作品「静」等あり。

花 月 達 子 (杉並區荻窪三ノ七〇)

西洋舞踊。本名執行不二子、大正三年滋賀縣生、寶塚舞踊科出身、故岩村和雄、オソフスカに學ぶ。執行正俊舞踊研究所教師。作品「ダジマハール」「マヅルカ」「追憶」等。

花 園 歌 子 (豊島區西巢鴨二ノ一九五二)

新舞踊。本名大澤直、明治三十九年一月十五日生。東京女子藥學專門學校出身。作品多數あり。

春 野 芳 子 (下谷區金杉惠和莊)

西洋舞踊。明治四十二年一月二十五日秋田縣生。バヅコバに師事、春野芳子舞踊研究所主宰。作品「女へのプレリユード」等。

原 田 佳 明 (中野區桃園町三〇)

新舞踊。大正元年十二月四日東京生。府立六中を経て帝國高等音樂學院に學ぶ。花柳輔祿、奥好察に師事、白楊會主宰、雅樂同志協會員、大日本音樂協會員、昭和八年六月第一回發表會開催。作品「プレリユード」「拍子舞」「古典的舞曲」等あり。

〔ヒ〕

檜 健 次 (四谷區塩町三ノ三八)

本名堅二、明治四十一年二月二十日徳島縣撫養町に生る。徳島中學校を経て大阪音樂學校ピアノ科に學ぶ。



昭和八年東京朝日講堂に於て第一回公演開催、東京、大阪に檜健次舞踊研究所開設主宰す。昭和十一年五月渡米、全米を舞踊行脚し昭和十三年紐育に開催の世界舞踊展覽會に出演受賞し同年四月歸朝す。昭和十四年日本現代舞踊家集團結成加入。アメリカン・ダンスマスターズ・ソサエティ會員。

藤 間 勘 齋 (澁谷區中通一ノ三四)

日本舞踊。俳優松本幸四郎、明治三年五月十二日生。藤間別流家元、松本流家元、先代勘右衛門(勘翁)に學ぶ。



藤 間 勘 妙 (淺草區千束町二ノ三二〇)

日本舞踊。本名高橋元子、茂登女會主宰、日本舞踊聯盟評議員。作品「惜春賦」「夕顔の宿」「草刈」「小楠公」等あり。故高橋是清氏令嬢。

藤 間 勘 次 (牛込區矢來町一六二)

日本舞踊。本名森田さく、先代藤間勘翁に師事、勘次會を主宰す。小説家森田草平氏夫人。

藤 間 勘 素 峨 (茂登女會事務所)

日本舞踊。本名高橋元子、茂登女會主宰、日本舞踊聯盟評議員。作品「惜春賦」「夕顔の宿」「草刈」「小楠公」等あり。故高橋是清氏令嬢。

春秋新内舞踊の新作を發表。現在日本舞踊協會員、舞踊藤
諷會主宰、同登龍會協助、長唄坂田仙太郎夫人。
作品、新内舞踊、短歌舞踊數種、舞踊伴奏レコード監修
趣味—手藝、茶、書。

藤 蔭 靜 枝

(麻布區霞町六)
電話赤坂四九六八番



明治十三年十月二十日新潟縣に
生る。先代藤間勘翁に師事し、大
正六年藤蔭會を樹立して新舞踊運
動を起す。同年五月藤蔭會第一回
公演會開催。昭和三年十月より翌
四年七月迄外遊。昭和六年二月國
民文藝會より「新舞踊の先覺者」として國民文藝賞を受領
同年九月十五日藤間靜枝の名を返上し藤蔭靜枝と改名す。
藤蔭流家元、藤蔭會々主。藤蔭會創立二十四週年、公演數
五十回を算す。

大正六年新舞踊最初のデヴュー作品「出雲於國」。
代表作品、フツチニ作曲「お蝶夫人」構想自作詞「大日
輪」紀元二千六百年奉祝舞踊自作「富士縁起」等あり。

著書「藤蔭會二十年史」機關誌「藤蔭」。

藤 間 喜 與 惠

(赤坂區表町二ノ一二三)
電話赤坂四一八〇番

新舞踊。本名能勢君子、明治四十二年十二月十二日東京
生。勘齋、藤太郎に師事、昭和二年四月四日第一回發表會
を開催す。自宅教授、日本舞踊聯盟評議員、大日本音樂協
會員。作品「牡丹燈籠」「黒髪」「消えてあとなき」「吉さ
ま参る」「祈りの舞」其他。

藤 蔭 芳 枝

(赤坂區青山北町五ノ二二三)
電話青山三八二二番

新舞踊。本姓濱口、明治四十二年東京生。頌榮高女出身
藤蔭會社中。作品「龍峽小唄」。

福 井 茂

(本郷區千駄木町一七五)

西洋舞踊。本名梅村嘉三、明治三十年三月二十六日長野
縣生。福井舞踊研究所主宰。作品「盜み」「救ひを求め
群」等あり。

不 二 懿 子

(杉並區和泉町一八四)



本名藤絢子、明治四十五年五月
三日東京生。石井漢、江口隆哉、
宮操子諸氏に師事、昭和七年より
つくしんぼ舞踊會設立、同九年第
一回新作發表會を開催。同十二年
第二回、同十三年第三回、同十四
年第四回を開催す。現在自宅及稱續幼稚園、瑞光幼稚園に
研究所を設く。
代表作品、物語舞踊「蜜蜂マアヤ」詩の朗讀に依る群舞
「日の丸」、舞踊組曲「鼠と玩具」、舞踊詩「つくしんぼ」。
趣味—音樂、登山。

松 賀 綠

(日本橋區蠣殼町二ノ三)

本名田村芳子、明治四十二年三月三日小石川表町に生る。
満四歳より坂東流舞踊を修め十九歳にして名取となる。昭

和八年松賀流再興の爲め同門に入り松賀綠と改む。昭和十



趣味—手藝、旅行、讀書、西洋映畫。

丸 岡 嶺

(品川區大崎本町三ノ六二九)

本名保一、明治三十五年十月三
十日青森縣中津輕郡に生る。函館
師範第五回卒業、夙に印牧李雄氏
に師事、學校舞踊の研究に没頭す
ること十九年、昭和九年第一回新
作舞踊發表會を開催以來逐年回を
重ね。現在わかば舞踊研究所長、印牧パロー研究會理事、
大日本學校舞踊協會幹事長、中央音樂學校講師、東京市第
一日野小學校訓導。

代表作「幻覺」B、「暗を追ふ男」。
著書「學校舞踊教材集」「お花の兵隊さん」。
趣味—音楽、映畫。

益田 隆 (世田ヶ谷區北深四ノ四一〇)

西洋舞踊。本名増田隆宗、明治四十三年三月三日東京生。
日本美術學校及高田舞踊研究所に學ぶ。昭和六年獨立、益
田隆舞踊研究所主宰、東寶專屬、大日本音楽協會員、日本
舞踊聯盟評議員。作品「阿諛者」「生命の花」「青春」等。

〔ミ〕

宮 操子 (目黒區平町三〇五)

西洋舞踊。本名江口ミサホ、明治四十二年四月十五日生
初め高田舞踊團にて修業、昭和六年獨逸に赴き、ウキグマ
ン舞踊學校卒業、伯林バツハ・ザールにて發表會開催。現
在夫君江口隆哉と共に江口・宮舞踊研究所經營。

〔モ〕

森下 利幸 (名古屋市東區田代町城山一
六八) 電話中三三一一番

西洋舞踊。明治三十八年愛知縣生。名古屋舞踊研究所主
宰。名古屋音楽協會理事。作品「タンプラン」「呪咀」等。
又童謡歌謡の作曲多數あり。

〔ヤ〕

山田 五郎 (本都區向岡彌生町三ホノ八)
電話小石川六〇七七番

西洋舞踊。明治四十年一月二十三日生。幼時能樂を修業
後舞踊に轉じ、大正十五年より約三ヶ年間歐米を舞踊行脚
現在、山田舞踊研究所主宰、日本舞踊聯盟評議員。
作品「狸々」其他。

山岸 清志 (四谷區大番町九)
電話四谷五一九一番

教育舞踊。明治三十七年長野縣生。日本大學出身、山岸
清志舞踊研究所主宰。作品「落葉」其他あり。

矢野 文子 (赤坂區新町一ノ一五)
電話赤坂三一三四番

西洋舞踊。高田せい子舞踊研究所出身、日本劇場專屬、
昭和十二年春デグユー。作品「試練」等あり。

〔ヨ〕

與世山彦志 (赤坂區青山北町六ノ二八)

新舞踊。明治三十一年八月二十一日生。バジロバに師事
與世山彦志舞踊研究所經營。昭和十二年春渡米す。
作品「青い鳥」「獅子舞幻想」「琉球風景」等あり。

〔リ〕

リラ・ハマダ (目黒區原町一三五〇)
電話荏原三八七四

タップ。大正十年九月二十五日生。令妹ニナ・ハマダ
(昭和十二年八月生)と共にポール・フォルツに師事。タッ
プ・ダンスの外に童謡を歌ひコロムビアに多數吹込。

若柳 吉藏 (日本橋區綱敷町三丁目六ノ二)
電話茅場町四七〇〇番

日本舞踊。若柳家宗家。本名竹内孝太郎、明治十二年六
月二十一日生。初代家元壽童に師事、十五歳にして壽童の
門に入り四十二歳壽童の後を継ぎ二世家元となる。名取門
下三百餘名あり。若柳學園主宰、日本舞踊協會専務理事。

若柳 吉兵衛 (牛込區富久町二二八)
電話四谷二六一一番

日本舞踊。本名永井宏昭、家庭舞踊會主宰、日本舞踊學
校經營。

若柳 吉三郎 (淺草區柳橋二ノ七一)
電話淺草四九七五番

日本舞踊。本名新井寛龍、初代壽童に師事、若柳流の中
堅として活躍。

若柳 吉登代 (麹町區上二番町二)
電話九段三八四一番

日本舞踊。本名中村千代。吉藏門下、舞同人會主宰。

追加

荒木陽 (杉並區荻窪二ノ八二)

西洋舞踊。本名陽一郎、明治四十二年十二月二十五日下關生。石井漢に師事。現在松竹少女歌劇教師。

石井カナナ (目黒區自由ヶ丘六二)

西洋舞踊。石井漢氏の長女、石井漢舞踊體育學校教師。

石井郁子 (在滿洲)

西洋舞踊。本姓近藤、大正二年九月二十九日秋田縣生。伯父石井漢に學ぶ。石井郁子舞踊研究所主宰、昭和八年デブニューズ。

代表作品「マドリッド幻想」「山の唄」「魔の創造」等あり。

石井美笑子 (四谷區鹽町アパート内)

西洋舞踊。大正四年東京生。石井漢舞踊研究所出身、現在日活專屬。作品「タンツア・ネグラ」「白鳥湖」其他あり。

石井久子 (世田ヶ谷區小田急梅ヶ丘驛前)

西洋舞踊。石井漢門下、石井漢舞踊研究所梅ヶ丘分教場主任。

市川翠扇 (京橋區築地二ノ二四) 電話京橋四二一番

市川流家元。本名堀越實子、九代目市川團十郎の娘。

市山七十世 (新潟市古町九番町)

市川流家元。川田芳子の姉。

伊藤道郎 (在米)

西洋舞踊。紐育にて舞踊學校を經營す。アメリカに於ける邦人舞踊家の白眉として名聲高し。

テイ・オノ・イトウ (小石川區金富町五九) 電話小石川七七六四番

西洋舞踊。米國で舞踊を修業、歸朝す。伊藤祐司夫人。

飯田收 (京橋區木挽町五ノ一采女會館内) 電話銀座六五四七番

タップ。明大出身、飯田收タップ・ダンス・スタヂオ經營、昭和十一年十月第一回發表會開催。

岡崎允 (宇都宮市川向町七五〇)

新舞踊。印收パロー研究会出身、同會員。主として學校舞踊方面に活躍す。

柏木衛門 (下谷區上根岸九七) 電話下谷六一六三番

日本舞踊。本名市川銀藏、柏木流家元。

黒田晴嵐 (小倉市島町一ノ三)

新舞踊。黒田兒童藝術協會主催、主として童謡舞踊及び

學校舞踊に専心、各地に支部を設け講習會を開催し活躍す。小倉市妙蓮寺住職。

鹿島光滋 (麹町區永田町二ノ三〇)

西洋舞踊。明治三十三年二月二十三日生、東洋音樂學校卒業後高田雅夫に師事。作品「煩惱解説」「メカニツク」其他あり。

小森敏 (目黒區本郷町一〇〇)

西洋舞踊。明治二十六年生。聲樂家小森讓氏の令弟。巴里にて修業、昭和十一年二月歸朝す。日本舞踊聯盟理事。

ジヨーチ堀 (品川區大井水神下町二〇三八、増山方)

タップ。本名堀常次郎。米國に十五年間滞在、ジヨーチ・モーリス・スキエーセルの門に學ぶ。シヤトリカル・タップ・ダンス・スタヂオ主宰、松竹歌劇專屬。

鈴木浪 (市川市鬼高一四三七)

新舞踊。印牧パロー研究会出身、同會員、鈴木浪舞踊研究所主宰。學校舞踊、童謡舞踊方面に活躍す。

橘 秋子 (杉並區大宮前五ノ二九八)

西洋舞踊。本名福田佐久子、明治四十年六月十七日宇都宮市生、栃木女師範、パブロバ舞踊團出身、橘秋子舞踊研究所主宰、昭和五年五月デヴューす。

趙 澤元 (日黒區自由ヶ丘六二石井方)

西洋舞踊。別名澤兆、明治四十年五月二十二日生。石井漢氏に師事、昭和十二年九月デヴューす。同年秋渡歐、十三年夏歸朝す。

寺門 桂 (栃木縣茂木町二〇九一)

新舞踊。印牧パロー研究会出身、同會員、日光音樂舞踊研究会主宰、主として學校、童舞踊方面に活躍。

花柳壽當 (品川區倉田町三三五)

日本舞踊。壽當會主宰、昭和十二年十一月第一回作品發表會を開催デヴューす。

花柳壽 (芝區白金今里町一五一)

日本舞踊。明治三十八年八月一日生。双葉女學校出身、藝術座に加入、島村抱月、松井須磨子の薫陶を受け女優となり水谷八重子の名を以つて知らる。舞踊は花柳流を學び名取りとなる。守田勘彌氏夫人。

花柳壽彌 (澁谷區大和田九八)

日本舞踊。明治四十四年七月四日廣島生。花柳芳清、壽輔門下、昭和十一年十月第一回發表會開催。

花柳年之輔 (京橋區木挽町三ノ一三)

日本舞踊。本名鎌田年昭、明治四十四年東京生。壽輔門代表作品「山田長政」其他あり。

下、紫會主宰、俳優學校講師。

花柳芳次郎 (京橋區新富町六ノ一)

日本舞踊。芳柳流分家。

花柳壽々兼 (麹町區永田町二ノ二九)

日本舞踊。本名鈴木かね、櫻會主宰、昭和六年五月第一回發表會開催デヴューす。

花柳輔藏 (下谷區數寄屋町七)

日本舞踊。櫻舞會を主宰す。

花柳壽美貞 (芝區白金三光町二六九)

新舞踊。本名中尾貞子。曙會社中、壽美江、壽美に師事す。

花柳壽美葉 (荏原區小山町一三四)

新舞踊。本名内田百合子、壽美葉會主宰、壽美江、壽美

に師事す。曙會社中。

坂東三津五郎 (下谷區花園町五)

日本舞踊。坂東流家元、明治十五年九月二十一日生。俳優として活躍す。

林時夫 (四谷區左門町九九)

タツブ。本名鈴木啓次郎、明治三十九年四月十日生。慶大出身。ジョージ堀に師事、林時夫スタヂオ主宰。

廣瀬としを (麻布區六本木町一)

童謡舞踊。本名利夫、初め童謡作謠に専念、後舞踊に轉じ童謡舞踊團を主宰す。

藤間勘十郎 (京橋區東新堀町一ノ一四)

日本舞踊。本名秀雄、藤間流家元として斯界重鎮、多くの名取門下を擁す。

藤間勘與志 (牛込區納戸町七)

日本舞踊。本名向山良子、大正五年三月一日生。龜之丞勘十郎に師事、藤花會を主宰す。

藤薩千枝 (四谷區塩町一ノ一七)

新舞踊。本名峰岸山子。日大藝術科に學ぶ。藤蔭會社中一技會主宰。作品「五月雨」其他あり。

藤田繁 (市川市中山町五六二)

西洋舞踊。本名尾崎繁一、明治三十六年三月四日兵庫縣生。バツロバ、高田雅夫に師事、藤田堺舞踊研究所經營、東寶囃託。作品「天狗」「青龍刀」其他あり。

遠山靜雄 (大森區上池上町一〇〇九)

照明。明治二十九年廣島生。東京工科大学電科出身、舞臺照明の權威者として知らる。

水木歌山 (兵庫縣武庫郡住吉村宮ノ前五七)

日本舞踊。水木流家元として重きをなす。

水木歌榮 (芝區今里町一四四)

日本舞踊。東京水木會理事。本名加藤しげ、明治十二年一月三十日東京生。七歳より先代水木歌橋に師事、最初の弟子となる。

水木歌若 (品川區西品川三ノ八三七)

日本舞踊。本名根津かよ、明治十三年十月十二日品川生。四歳の時より叔母先代歌若に學び二代目歌若を繼ぐ。東京水木會理事。

水木歌保 (芝區二本榎町二) 電話高輪六四四四番

日本舞踊。本名越智富士、十歳頃より先代歌橋に學ぶ。

水木歌壽榮 (澁谷區上通一ノ三二)

日本舞踊。水木流。昭和十一年四月第一回作品發表會を開催す。

第五編 邦樂家

箏曲	尺八	謡曲	琵琶
詩吟	長唄	清元	常磐津
歌澤	義太夫	新内	小唄
一中節	俚謡	歌謡曲	童謡

第五編 邦樂家

箏 曲

〔ア〕

アマ ガサ サイ ジュ
天 笠 才 壽 (麻布區斧町一) 電話赤坂三一二九番

生田流、三絃。本名才子、明治二十二年一月十七日長野市生。糸壽に師事、昭和五年より一年間渡米、松生會を主宰す。

アマ ダ コウ ヘイ
雨 田 公 平 (豊島區池袋三ノ一四七三)

京極流宗家。本名雨田外次郎、明治廿六年二月一日生。東京美術學校彫塑科出身、鈴木鼓村に師事。巴里にてマール・ツールニエにハーブを學び昭和四年歸朝す。

〔イ〕

イマ キ ケイ ショウ
今 井 慶 松 (麻布區本村町二二五) 電話三田三三四四番



山田流。本名今井新太郎、明治四年三月廿五日横濱市境町に生る。十五歳の時上京、當時の名門山勢松韻に師事し免許皆傳を許され、二十二歳の時

東京音楽學校學助教に任ぜられ、廿八歳の時教授を拜命す。尙外に女子學習院、御茶水女子範、日本女子大等の教授、講師を兼任す。大正十五年四月從四位勳四等、高

等官二等を賜る。既に十六歳の時以來、天皇、皇后兩陛下昭憲皇太后陛下の御前演奏を承ること四十七回、其他外國貴賓來朝の際御前演奏を承り、日清、日露、日支事變、航空事業其他に寄附演奏を屢々なす。現在移風會を主宰し、日本女子大學講師を兼ねぬ。

代表作品、箏曲「御代萬歳」「鶴壽千歳」「四季の調べ」「千代の光り」「十返りの曲」「水の曲」「三勇士」等多數。趣味—小鳥、和歌、講談、角力、芝居等。

〔サ〕

坂本歌都子

(麹町區二番町一ノ一〇) 電話九段一四一〇番



山口縣都濃郡鹿野村出身、福岡市大日本家庭音樂會にてヴァイオリンを學び後日本音樂の改良を志し新日本音樂の研究に没頭し、提琴と箏曲の合奏曲の編曲をなす。デヴュー作品、大正十年作「月光の曲」「幻を追ふて」あり、茲來五十餘曲を發表。本年一月上京現住所にて大日本家庭音樂會を主宰し講義録の發行音樂家の養成をなす。

著作「日本地唄古名曲」「殘月」「茶音頭」等の五線譜に依る箏、三絃、尺八對照譜、古典曲 箏組歌等の作譜集あり。

〔シ〕

島田萬千勢

(下谷區西町四五)

箏曲、三絃。キングレコードにて箏曲に三絃を受持ち吹込す。

〔ト〕

富崎春昇

(赤坂區青山南町六ノ五八) 電話青山四〇九八番



本名吉倉助次郎、明治十三年九月十二日大阪市島の内を生る。幼時より祖父先代吉田玉造に育てられ、四歳にして失明、八歳にして富崎宗順師に學び、十九歳にて一本立となり、廿五歳にて師匠に死別し廿八歳にて二代目富崎を繼ぎ大正七年上京して今日に至る。箏曲温心會々長。

最近の代表作曲「楠音嘶」「春の江の島」「嵯峨の雪」等趣味―相撲、歌舞伎、喜劇、講談、時計、ラヂオ等の機械修繕。

〔ナ〕

中島雅樂之都

(牛込區左内町三) 電話牛込二七〇六番

正派家元、生田流箏曲。本名利之、明治廿九年三月二十一日京都市。六歳にして箏曲入門、長谷幸輝に師事。獨逸語專修學校出身、正派邦樂會主宰、東京女子高等學園講師ピクター專屬。

中能島欣一

(麹町區麹町三ノ八) 電話九段四七九七番

山田流。明治廿七年十二月十六日生。七歳より斯道に入り、昭和五年中能島四世家元繼承、昭和四年第一回發表會同十三年第一回獨奏會開催、現在山田流箏曲協會常務理事春潮會主宰、大日本音樂協會會員、東音教授。作品「陽炎の踊」「赤壁賦」「聖戰讚歌」「三絃協奏曲」等あり。

那智蒼生子

(杉並區高圓寺一ノ四一)

京極流。本名萩原民子、明治四十三年六月廿八日生。同志社女專家政科出身、京極流々祖那智俊宜に學び昭和六年

那智姓を許さる。茜會主宰、女子經專附屬高女箏曲科、法科講師、大日本音樂協會及大日本作曲家協會會員。新作、歌謠曲數種レコードに吹込む。

〔ハ〕

萩岡松韻

(本郷區春木町三ノ二五) 電話小石川七七七〇番

山田流。明治二十六年八月三十日生。父四代目松韻及び中島六郎に師事、父の没後五代目松韻を繼承す。

〔ヒ〕

久本玄智

(小石川區高田老松町一三) 電話小石川二六五五番

明治三十六年四月十四日生。大正二年東京育學校師範科へ入學、大正十一年同師範科卒業、目下育學校音樂科主任山田流箏曲家として新曲の作曲をなす。大日本作曲家協會員。

平井美奈勢 (本郷區森川町七六ノ二)

箏曲、朱絃會を主宰、發表會を開くこと三十九回。愛嬢澄子氏は箏曲の外に琴曲童謡の作詞作曲をなし、萩江節、一中節等の古曲小唄に堪能。

〔マ〕

町田杉勢 (本郷區神明町四二二)

明治十五年十一月五日日本郷に生る。木の芽會主宰。

〔ミ〕

宮城道雄 (牛込區中町三五)

電話牛込三〇四八番

明治廿七年四月七日神戸に生る。七歳の時失明。九歳貧窮の中を同じ神戸に住む中島檢校に師事し生田流箏曲を學ぶ。十二歳夙くも師匠免狀を授けられ、中管檢校と稱す。(本姓の管と師匠中島の中を取りて)。明治四十年十四歳の

時兩親に伴はれて朝鮮京城に移り、箏曲教授をなし一家を支ふ。荒涼たる植民地にあつたといつた命なる箏を友とし、破れ著音器に鳴るレコードによりて泰西の音楽を學ぶ。



明治四十二年十六歳の時初めて「水の變態」を作曲。伊藤博文公の前で演奏し、公をして其の天才に驚嘆せしむ。公は氏を東京へ伴ふべく約されたが、ハルビンにて不慮の變に逢ひ、其の約は果されずして終る。「春の夜」「初鶯」等は此の在鮮時代の作である。

大正六年春二十四歳の時吉田晴風氏の招きに應じ上京、大正八年五月十六日本郷中央公會堂に第一回の自作發表會をなし、樂界に多大のセンセーションを起し其の天才を認めらる。今日すでに作曲數百に及び、寶玉の如き名曲多し。新曲の創作と共に樂器の改造、製作に努め、氏の創案に係るもの大小十七絃、新胡弓等あり。今また八十絃琴を製作し、音域及技巧上に邦樂の革新を企つ。斯くして作曲に、演奏に、樂器の改造に、新日本音樂の巨星として一大光彩

を放つ。不朽の作としては先年來朝のヴァイオリン名手シユメーとの合奏作品に「春の海」並にラムプキン氏との共演になる「春の訪れ」等がある。

〔ヤ〕

山勢松韻 (牛込區甲良町二二)

本名良子。三代目松韻の實弟春山清寧氏の孫娘として大正五年、陸軍中將木原清氏の五女に生れ、三歳にして四代目ふくの養女となり、三輪田高女卒業。最初は初代萩岡松韻氏(祖父、三代目山勢松韻の高弟)に就き修業、同氏歿後は今井慶松氏(同じく祖父の高弟)の指導を受く。昭和十一年秋祖父の名たる松韻を襲ひ、今日に至る。キングより「都の春」今井慶松氏と三絃を合せたる「新さらし」等を發表す。

山室千代子 (神田區小川町二ノ八)

電話神田五五八番

山田流。本姓三輪、明治八年十二月廿五日日本橋に生る。山田流箏曲研究會主宰。

〔ヨ〕

吉田恭子 (麹町區下二番町二二)

電話九段一四一〇番

生田流。新日本音樂を研究、父吉田晴風と共に渡米昭和七年歸朝す。

米川親敏 (麹町區下二番町二二)

電話九段三四九一

生田流。三絃、地唄。明治十六年十二月二十五日岡山生。研究會主宰。作品「潮のひびき」「收穫の野」「女の影」等あり。

米川文子 (麹町區九段三ノ九ノ二)

電話九段九二二番

箏曲、地唄、新日本音樂。双調會を主宰す。

若林若子 (麹町區一番町二七ノ一)

箏曲、三絃。大日本音樂協會員。

尺八

青木 鈴 慕 (淀橋區柏木二ノ一九七) 電話四谷五五四六番

琴古流。明治二十三年七月十五日生。川瀬順輔門下。鈴慕會々長。

安部 香山 (麴町區九段三丁目七ノ三)

都山流大師範。明治二十五年二月六日別府に生る。大分中學卒業後尺八界に入る。

上田 竹 童 (大阪市東區京橋二ノ二六) 電話東三二七四番

上田流。明治卅年十月九日生。都山門下、二十一歳にして兄芳愷と共に上田流を樹立す。コロムビアに芳愷と共に尺八連管「たそがれ」「巡禮歌」上田流秘「曲鶴の集籠り」を吹込む。

化宗尺八全流派を究め一派を編む。

學歷は大正五年京大醫學部を卒業、現在普化尺八會會長東京慈惠會醫大科に勤む。

著書「旅心常任」「旅・土・人」「生命の第四原理」「温筆七部集」「科學と民族」「科學と文化」「人間復興期」等の評論隨筆集あり。

キングレコードに「普化宗真曲」「阿字觀」を吹込む。

片山 雄 山 (杉並區高圓寺三ノ二二一)

都山流大師範。本名清治、明治二十五年二月十日岡山縣生。東京盲學校囑託。

金森 高 山 (和歌山市小松原通一ノ一)

都山流大師範。明治二十二年七月二十九日和歌山に生る大日本箏曲聯盟顧問。

河本 逸 童 (下谷區上野櫻木町四四)

琴古流。逸童派を樹立し活躍す。

上田 芳 愷

(大阪府豊能那小曾根村濱三) 電話三國町二七三番



本名喜一、明治廿五年九月廿六日大阪市に生る。明治四十年都山に師事、大正六年三月上田流創立家元として現在に至る。上田流尺八協會理事長。

代表作品、尺八本曲「五月雨」關西に於ける尺八界の重鎮として門下多數を擁す。

浦本 浙 潮

(世田ヶ谷區城成町八七八) 電話碓一四一番



本名政三郎、明治二十四年正月鶴岡市に生る。明治四十年頃より尺八を手にし大正元年京都明暗流笠波蘆堂氏に入門、同二年仙臺普化宗尺八指南小梨錦水氏に入門、大正五年京都へ歸り小林紫山氏に師事、同十一年上京普化明暗道場を開く。同十四年東京普化宗尺八指南宮川如山氏に入門す。茲來各派指南と交藝普

川 瀬 順 輔

(四谷區筆筒町八五) 電話四谷四六七六番

琴古流。明治三年十月十日山形縣に生る。竹友社主宰、大日本音樂協會會員。

川 瀬 友 宏

(世田ヶ谷區羽根木町一七五四)

琴古流。明治三十九年二月九日生。本名悌二、順輔の養子、尺八樂譜出版。大日本音樂協會會員。

川 本 晴 朗

(神田區猿樂町二ノ一五)



琴古流。本名健二、明治三十三年十一月十二日宇都宮警察署長の一子として同官舎に生る。九歳の秋琴古流逸童派川本家の養子となり尺八學の薰陶を受く。十二歳にして宗家より逸調の名を受く。

東京音樂學校乙種師範科を卒業。大正十五年春七孔尺八を創案しこれが研究に没頭し爾來五ヶ年間苦學と研究の後

之れを完成す。昭和六年春七孔尺八普及會創立と共に會長となり、雅號を晴朗と改む。

昭和九年よりコロムビア専屬として活躍、七孔尺八獨唱伴奏に編曲に活躍を續けてゐる。

現在琴古流宗家代師範、大日本作曲家協會員たり。

菊池 淡水 (四谷區永住町二)

本名繁直、明治卅五年九月八日岩手縣生。大正六年頃より後藤桃水師の門人となり、同十年頃よりレコード吹込其他民謡、尺八の教授をなす。昭和十一年より二ヶ年コロムビア専屬として活躍す。其の間門人の中より吾丸、美ち奴北廉太郎等の歌手をレコード界に送る。

現在自宅教授をなし傍らオーケストラ楽團に勤めオーケストラを研究す。

民謡及流行歌の尺八樂譜をシンフォニー出版社より發行す。

木村 士童 (王子區上十條一三五)

電話王子二五〇一番

琴古流。竹仙會、竹仙童會々長。

倉川 簾山 (目黒區上目黒五ノ二五一五)

都山流大師範參與。都山流職格竹琳軒、本名清、明治十九年一月二十正日大阪に生る。明治四十年都山流最古參師匠竹琳軒北原墓山の門人となる。同四十四年四月宗家都山より都山號を許さる。

コロムビアに久本玄智作曲の「春の恵」「秋の夕」「夏の憶ひ」等の新曲を吹込む。

酒井 竹保 (大阪市東區清水谷西野町三七)

竹保流。本名政美、日蓄オリエント時代に尺八新曲を多數吹込みをなす。

高山 麗山 (山口市錢湯小路)

都山流大師範。舊姓眞鍋、明治二十四年三月二十五日山口縣生。

田中 允山 (中野區大和町五九)



本名敬郎、明治卅五年二月十一日埼玉縣に生る。早大商科出身、在學當時より中尾都山師の指導する都山流尺八を學び、研鑽を重ねること十數年、都山流尺八の吹奏法に更に幽玄を加味した吹奏法案出に成功、茲來師匠として専ら斯道愛好者の教導に當る。其の間都山流試驗委員、評議員選舉委員に流祖より任命さる。

昭和十一年夏、コロムビアの専屬となり自作其他オーケストラ伴奏による尺八主奏曲のレコード吹込みをなす。現在都山流尺八東京幹部會、日蓄文藝部技藝員、帝國軍用大協會員。

代表作品「英靈に捧ぐる曲」「銃後の里」「蜻蛉」作詞「日の丸男子」等あり。趣味―讀書、圍碁、野球、飼犬等。

中尾 都山 (赤坂區表町三ノ三一)

電話赤坂一七六番

都山流宗家。明治九年十月五日、大阪府北河内郡牧方町大字岡新町の泰封家にして醬油醸造家として知られた中尾治郎氏の二男として生る。本名琳三、十五歳の頃から母堂の指導の下に尺八を學び、明治二十九年二月、卅一歳の時には大阪市内に出で尺八指南をなすに至る。爾來益々名聲舉り都山流宗家となる。

大日本作曲家協會及大日本音樂協會員。

藤田 鈴朗 (小石川區原町一〇)

電話大塚五七七六番

尺八、評論家。本名俊一、明治十六年二月二日生。初め尺八家として立ち後三曲を研究し斯界の權威者となる。雜誌「三曲」主幹、美妙社主宰、大日本音樂協會員。

藤本 柳山 (大分市大手通一丁目)

都山流大師範。明治卅二年十二月四日廣島生。

星田 一山 (ホシダ イチザン) (大阪市天王寺區上宮町三三)

都山流大師範。明治二十七年九月二十三日生、コロムビアレコードに久本玄智作曲「歡喜の舞曲」「静宵」を合奏にて吹込む。

宮内 岱童 (ミヤウチ タイドウ) (芝區三田四國町四ノ二五)

琴古流。本名助次郎、明治十五年十二月十五日生。古童門下、童窓會同人。

山口 四郎 (ヤマモト シロウ) (本都區西片町一〇ノ一七)

琴古流。竹盟會社長。

三熊 孝次郎 (ミクマ コウジロウ) (芝區南佐久間町一ノ一〇)

琴古流。明治二十六年八月一日生。山口四郎に師事、箏曲研究會主宰。

吉田 晴風 (ヨシダ ハルフウ) (麹町區下二番町一)

電話九段一四一〇番

本名康次、明治二十四年八月五日熊本生。熊本商業出身幼時より琴古流尺八を學び山田源一郎に就き洋樂研究、大正九年新日本音樂を創始す。新日本音樂協會主宰、東京市囃託、日大藝術科講師、ピクター專屬。著書「尺八の學理と實際」「尺八講座」「尺八獨習」の外尺八獨奏曲あり。渡米二回。

謠曲

觀世 左近 (カンゼ ササネ) (澁谷區向山町一七)

電話高輪一三五番

觀世流宗家。片山九郎三郎の實子、先代清廉の養嗣子となる。タイヘイレコードに「葵上」をニットウ時代青盤に「俊寛」「藤戸」「松風」を吹込む。

觀世 鐵之丞 (カンゼ テツノジヨウ) (下谷區西町三)

電話下谷五カ六一番

觀世流シテ家。明治十七年十一月十四日生。代表盤、ポリドールより「高砂」「狸々」「八鳥」「鉢木」「安宅」等。

寶生 重英 (ホシヤウ シゲヒサ)

(本都區元町二ノ二七) 電話小石川七四一〇番



寶生流宗家。幼名を勝と言ひ、十八歳の時先代宗家の跡を享け、第十七世の宗家を繼ぎ、重英と改名す。氏は夙に能樂界に其人ありと知られたる逸材にして、年と共に練磨修業を重ね、愈々光彩を放ち、其の健實にして精妙なる、莊重にして清雅なる藝風は今や斯界に燦然たるものあり。然も健康なる大軀と透徹せる頭腦の持主にして、人と交はるに溫和、他を容るゝの雅量を有し、數百の門弟を陶薰しつゝよく大寶生流を統率し以て今日の隆盛をなしつゝあり。本都區水道橋畔に邸を構へ、徳川、前田、松平の諸公を始め、華胄界、實業界、官界、政界に熱心なる多數の同好者を持ち、今や旭日の勢をもつて斯道に精進せり。師の底知れぬ聲量、莊重にして雄大な調子、其の間に幽婉巧緻な持味を盛り込まれた會心の名曲は、謠曲家の好評噴々たるものあり。ピクター專屬として多數吹込發表す。

寶生 新 (ホシヤウ シン)

(下谷區上根岸八二) 電話下谷七六三番



寶生流ワキ家。下掛寶生。明治三年十月、東京市白銀町に生れ、八歳の春「狸々」を初舞臺として研鑽精進すること數十年、遂に今日の大成に及ぶ。その間青山御所に數回伺候して御前演奏の榮を賜ひ、畏くも、明治天皇前田候爵邸に行幸の砌も御前演奏の光榮に浴し、次いで、大正天皇御即位大典の節は、宮中に召されて御前演能をなすの恩命を得らる。尙東本願寺御遠忌の際、大曲「開口」を勤めて四方の絶讚を享けしは世人の記憶に尙新なるところ。昭和十一年キングレコードの專屬藝術家となり、その至藝を發揮され、斯道の向上發展に盡力されてゐる。主なるレコード作品としては「鉢木」「大原御幸」「松風」等がある。昭和十二年選ばれて帝國藝術院會員となり愈々聲望を一身に蒐む。

梅若万三郎 (品川區北品川六ノ三四三) 大崎二一〇六番

觀世流シテ家。第五十三世梅若實師の長男、明治元年十一月二十一日淺草區南元町二十九番地巖橋の邸内に生る。長男であり乍ら父君の後、五十四代目を継がず、之を養子(姉鶴子の婿)に譲つて自らは梅若吉之丞氏の養嗣子となり明治十一年十月二十八日十三歳の時家督を相續して十二世梅若万三郎となる。明治十一年七月四日青山御所内の舞臺開きの際の「正尊」の子方で初舞臺を踏む。梅若流を唱へしも昭和十一年宗家へ歸參す。帝國藝術院會員。

代表盤、ホリドリル「三井寺」「景清」等あり。

梅若六郎 (淺草區藏前三ノ三二) 電話淺草三三九〇番

梅若流宗家。明治十一年四月十九日、東京巖橋に梅若實師の次男として生る。令兄は梅若万三郎師である。名流の門に生を享け父君梅若實師の嚴格なる薫陶を受けて謡曲の

奥儀を極め、大正四年大正天皇御即位の際には宮中御舞臺に於て令兄万三郎氏と共に「狸々」の亂を勤め、その他數度の御前演能の光榮を有して居る。觀世宗家より離れて梅若流を創立す。

喜多六平太 (四谷區愛住町六七) 電話四谷一六八七番

喜多流宗家。先代六平太外孫。

櫻間金太郎 (麹町區富士見町二丁目五ノ二) 電話九段二九二二番

金春流宗家代理、明治二十二年五月十八日生。六歳より父左陣に學ぶ。

金春惣右エ門 (澁谷區神田町二五) 電話青山一一一〇番

金春流の重鎮として活躍す。

笠五朗 (麹町區富士見町二ノ五) 電話九段二九一二番

金春會を主宰す。

琵琶

榎本芝水 (日本橋區通二丁目六)



芝水流宗家。本名榎本辨之助、明治二十五年五月五日生。永田錦心に師事、昭和十一年五月獨立して芝水流宗家を創立す。

代表盤、コロムビア「橋大隊長」「滿洲事變」「本能寺」「石童丸」ビクター「川中島」「城山」「常陸丸」「櫻狩」外數種あり。

雨宮薫水 (横濱市中區新小川町二ノ三)



錦心流。前名錦峰。横濱に生れ、初め芝水の門に入り、後宗家錦心につき大正八年皆傳となり、昭和二年錦峰の名を許名さる。

代表盤、ビクター「兒島高德」「西郷隆盛」コロムビア「恩

簀の彼方へ」「湖水渡り」「橋大隊長」「常陸丸」等あり。趣味―水泳(水府流師範、乗馬)。

大館錦樸 (澁谷區西大久保一ノ四六一)

錦心流。代表盤、ホリドリル「常陸丸」「本能寺」「城山」等。

水藤錦穰 (本郷區林町一三) 電話小石川六八四番

錦琵琶宗家。永田錦心門下。代表盤、ホリドリル「井伊大老」「橋大隊長」等あり。

橋旭翁 (麹町區三番町三ノ二) 電話九段二二三四番

筑前琵琶。宗家二世、本名一定、明治七年十月六日生。大正八年父初代旭翁の歿後宗家を繼ぐ。大日本旭會主宰。今春橋旭殿に第三世旭翁を繼がしめ、五月十五日飛行會館に於て繼承記念演奏會を開催す。

豊田静芭 (麹町區九段四丁目)

筑前流琵琶。前名豊田旭穰、静芭と改名す。さわらび會

主宰。代表盤、コロムビア「湖水渡」「義士の本懐」「本能寺」ビクター「空の響」外各社より發表、放送に、演奏に女流筑前琵琶界の白眉として人氣を占めてゐる。

田中旭嶺 タナカ キョクレイ 芝區松本町四四 電話三田一四六三番

筑前琵琶。本名彌生、明治四十年三月二十四日生。高橋富子、豊田靜芭に學ぶ。米國、南支に巡遊す。

高野旭方 タカノ キョクホウ 福岡市吉塚本町二ノ三八〇四

筑前琵琶。大教司法觀山高野旭嵐門下。代表盤、リール「石童丸」「白虎隊」等。

福澤錦凌 フクザワ キンリョウ (神田區神田町四)

錦心流。代表盤、コロムビア「龍の口」。

山元旭錦 ヤマモト キョクキン (神戸市神戸橋會)

錦心流。本名川元ミツエ、明治三十九年三月二十日鹿兒島市山下町四〇番地に生る。大正六年三月琵琶を初め、小

學校を卒業後間もなく教師樺島旭爾師に就き教を受け、二十五歳の二月山元家に嫁し、同年八月神戸に居を移し、目下十五六名の門下を教へ、神戸橋會を設立し、益々研究を續く。現在では最高免狀を受けて居る。

昭和八年益滿旭錦を改め山元旭錦となる。代表盤、コロムビア「大楠公」「阿波の鳴門」「臺灣人」「乃木將軍」等數十種あり。

吉村岳城 ヨシムラ ヲクジヤウ (芝區愛宕町二ノ二四)

薩摩琵琶。代表盤、コロムビア「川中島」「白虎隊」等多數あり、人氣を博してゐる。

詩吟

木村岳風 キムラ ヲクフウ (麹町區九段一丁目)

詩吟獎勵會々長。本名松木利夫、明治三十六年十月二十五日信州上諏訪町に生る。多數名士の贊助を受けて國樂振興會を起し、後更に頭山滿翁、荒木貞夫閣下等の後援を得

て興國朗吟獎勵會を起して數年來全國を行脚し詩吟普及と國民精神の作興に力めてゐる。

コロムビアレコードへ「正氣歌」「白虎隊」「小楠公」「大草の詩」「臺灣人」等七十數枚を吹込む。

岩淵神風 イハノブチ シンフウ (麹町區九段四ノ六)

詩吟神風會々長。代表盤、ポリドール「送白澤隊壯途」「寶山占領直後」等あり。

山田積善 ヤマダ セキゼン (芝區琴平町一三)

明治三十年七月二十五日愛媛縣に生れ、幼にして既に詩吟を愛好せしも、特に師に就きて學びたることなく、自らの研鑽によつて今日の名聲を得るに至る。

殆んど學校へ行かず、獨學自修を以つて司法科試験に合格し、本職は辯護士であるが、職務のかたはら二十數年間詩を吟詠して、詩吟はわが日本の「國民的祈り」であると爲し、國民は聲や節の工夫にのみ止まらず、進んでは詩の中に含まれる日本精神を體得せねばならぬといふ信念の下

に自ら、月刊雜誌「包容」を發行す。代表盤、キング「正氣歌」「兩英雄出郷作」外ビクターに數篇吹込みす。

鈴木吟亮 スズキ ギンリョウ (杉並區天沼一ノ一五六) 電話荻窪二九七五番

明治三十三年十二月二十一日青森縣八戸市に生る。初代吟亮は山陽の友藤崎小竹門下にて朗吟に妙を得たり。故に代々吟風を傳へられ五世吟亮を名乗る。然し吟詠は職に非ず。鈴木製藥所を經營し本業とし、東京電機製作所及角野染料合資會社代表社員たり。テイチクレコード專屬。代表作、詩吟「愛國歌」「白虎隊」。

作詞「琵琶歌」「橋大隊長」「山内中尉の母」「手向けの曲」外十數冊あり。趣味—美術、文藝、映畫 吟詠等。

渡邊綠村 ワタナベ ロクソン

キングに「送出征」「恩賜綳帶」「大楠公」コロムビアに「遊芳野」「兒島高德」等多數吹込みす。

長 唄

(唄の部)

杵屋 六左衛門 (麻布區東鳥居坂町二) 電話赤坂一三八六番

十四世家元。明治卅三年十月六日寒王を父として日本橋に生る。杵六會、昭精會を主宰す。

杵屋 勝五郎 (淺草區藏前二ノ二) 電話淺草二三五九番

本名須原鎌二郎。明治三十一年九月一日淺草に生る。父四代目勝五郎の跡を繼承す。

杵屋 彌十郎 (京橋區京橋三ノ九) 電話京橋二七八〇番

本名丹羽善之助、丹頂會を主宰す。

杵屋 増子 (麹町區平河町二ノ一) 電話九段三一九〇番

本名武藤ます。明治十五年十二月二十九日生。杵屋左吉

夫人。

坂田 仙八 (淺草區南元町六五) 電話淺草三〇二三番

先代杵屋勝五郎門下。二世坂田仙八を繼ぐ、勝五郎門下の重鎮。代表盤、ビクター「鞍馬山乗唄」。

坂田 仙太郎 (淺草區千束町二ノ三二〇) 電話淺草二七九六呼



本名須田勝次郎。明治三十四年十一月十五日淺草千束町に生る。昭和四年一月坂田仙八より藝名を免許さる。昭和十二年十月長唄協會幹部技藝員となり同十四年十一月幹部技藝員に昇格す。登龍會を主宰し長唄協會、勝集會員。令閨藤間勘妙氏は藤間流舞踊家として知らる。テイテクより舞踏伴奏用長唄レコードを創案し吹込み好評を受く。趣味―書、畫、寫眞、料理。

富士田 吉次 (牛込區神樂坂二ノ三)

家元、故富士田音藏の妹。富士田派を繼承す。

富士田 新藏 (本郷區本郷五ノ六) 電話小石川一六六六番

富士田一門の重鎮。ビクターに「葛蒲浴衣」「安宅松」「鶯娘」「連獅子」「助六」「網籠」「藤娘」等を吹込み好評を博す。

松 永和風 (赤坂區仲ノ町六) 電話赤坂二九二六番



家元。明治七年二月十八日東京市神田鍋町に生る。本名吉田定次郎。青年の頃鐵道廳に奉職せしも長唄に志し、明治二十八年職を辭して先代杵屋勝太郎、先代松永和風に師事し、杵屋勝郎、松永鐵之丞等と稱し、明治三十九年中村彌二と改稱の上歌舞伎座に於て立唄に昇進し、のち中村永五郎を経て大正五年五世芳

村孝次郎を襲名し、昭和五年四月四世松永和風となる。昭和三年十二月には御大典記念御前演奏の榮を擔ふ。昭和六年七月松永和風と改稱、四世家元となり、その独自の美聲と派手な節廻し、唄ひ振りは、全國の長唄ファンの間に隠然たる勢力を有し邦樂長唄界に於ける大立物となる。

松 永和十郎 (日本橋區室町一ノ二二)

明治二十五年七月三十日生。和風門下、前名芳村孝一郎

松 島 庄 三郎 (下谷區龍泉寺町七七) 電話淺草八四九八番

本名小野義次郎。明治二十二年九月十九日生。和風門下大正六年松島派に入る。庄十郎門下。

松 島 庄 三九 (品川區品川一ノ一〇)

故松島庄五郎門下。前名芳村孝一郎。

芳 村 伊 四郎 (品川區南品川二ノ一七) 電話品川一七〇番

本名大田重次郎。明治三十四年八月淺草に生れた生粹の

江戸兒。十九歳の所八代目芳村伊四郎に師事、芳村辰三郎と名乗つたが、天稟の笑聲と藝格を見込まれて養子となり昭和八年二月故芳村伊十郎の前名金五郎を襲名、昭和十三年十二月先代没後直ちに九代目芳村伊四郎の跡目を相續し名實とも斯界の重鎮として錚々たる人氣を集めてゐる。

以前は養父の先代伊四郎と共に松竹系各劇場に出演してゐたが、數年前から東寶系諸劇場に出演。その傍ら、勸業會、芳村會、芙蓉會、東紫會、青葉會(長唄・清元・常磐津・舞踊の四派連合)等の著名な長唄諸團體に加盟出演して、古典に、新作に、往くとして佳ならざるはなき逸材ぶりを發揮してゐる。趣味は寫眞。

芳村伊久四郎

(芝區新橋二ノ四四)

本名淺井清三郎、故芳村伊十郎門下、芳村派の中堅として活躍す。

芳村孝次郎

(赤坂區仲ノ町一ノ五) 電話青山五三三二番

松永和風の息として生れ、六世孝次郎を継ぎ、芳村派の

中堅として躍活す。

吉住小三郎

(日本橋區通三丁目一ノ五) 電話日本橋一八一九番



家元。現代長唄界の泰斗として聲望噴々たる師は、三代目吉住小三郎の子として生れ、十四歳の時父を失ひ四代目吉住小三郎を襲名す。その非凡の技は識者の等しく認むるところであつたが、明治三十五年劇場音楽としてのみ發達して來た長唄が、維新後時代の趨勢に取りのこされて萎微衰退の傾向あるを嘆き、民衆音楽としての新路を拓かんために、家庭的普及を計つて長唄研精會を組織した功績は長く忘るべからざるところである。

吉住小三藏

(芝區南佐久間町二ノ一一) 電話芝二九二二番

本名安達勝藏。明治十年十月三十日赤坂區一ツ木町に生れた。十五歳の時吉住小三郎師の門に入つた。當時小三郎師は小三藏師より一歳年上の十六歳にして、四代目吉住小



三郎を襲名して、僅か二年を経たばかりの潮氣滿々の時代であつたので、計らずも師弟の意氣は一致して重く用ひられ、遂に十七歳の時には吉住小三藏の名を許さるゝに至り爾來小三郎師を輔佐し吉住派の重鎮として活躍す。

吉住小四郎

(日本橋區濱町一ノ二二) 電話浪花七〇六番

本名島津友雪。明治十八年六月二十日悅翁杵屋小四郎を父として生る。小三郎門下、研精會所屬最古參として重きをなす。

吉住小桃次

(本郷區西片町一〇一ノ七號) 電話小石川八〇七番

本名相澤桃太郎。研精會所屬、小三郎門下。

(三味線の部)

今藤長十郎

(麻布區飯倉町六ノ一三) 電話赤坂一三三六番

家元。本名坂田政太郎、慶應二年二月二十八日生。十二

歳より今藤佐助を名乗り、明治三十七年二代目を襲名。東京音楽學校囑託、長唄協會相談役。

岡安喜三郎

(赤坂區仲ノ町五) 電話青山一〇六一番

家元。本名幸田嘉郎、大正二年日本橋に生る。五代目喜三郎の息、六代目家元を繼承す。

柏伊三郎

(麻布區霞町七) 電話カシハ

三味線方。本名弓氣伊三郎、柏扇之助養子。尾上菊五郎附長唄部長として歌舞伎座にて活躍。

杵屋榮二

(赤坂區青山南町五ノ四五) 電話青山六七六〇番

本名藤間吉太郎、明治二十七年二月六日生。三世榮藏に師事、長唄、鶴命會、芳村會に屬す。日本邦樂女學校講師。

杵屋六三郎

(深川區富岡町一ノ一〇ノ三) 電話本所六五八〇番

家元。十一世。本名山崎忠之助、明治廿三年九月七日生。

大正十一年襲名。七寶會、成子會、桔梗會を主宰す。

杵屋 佐吉 (麹町區平河町二ノ) 電話九段三一九〇番

家元。本名武藤良二、明治十七年九月十七日淺草に生る。大正十五年渡歐、入絃を發明、器樂三絃奏樂を創始す。現在、松竹合名音樂部長杵屋會、紫好會佐門會、長唄芙蓉會、佐苗會各會長。作品「潯陽江」「女と影」等あり。

杵家 彌七 (澁谷區丹後町二) 電話赤坂二七〇、二〇〇八七番



本名赤星ヨウ。明治二十三年十月十日、京橋鍋町に生る。戸板裁縫學校出身。故杵屋勘五郎の門より出で、明治四十年三味線文化樂譜を創始刊行し三味線の譜本を用ひて教授を始む。放送講座にて三味線教授をなす。現在杵家彌七女塾々長長唄協會參事、女子高等學園及神田家政女學校講師。著書には文化三味線譜數十種あり。文化三味線譜宗家。趣味—歌舞伎。

杵屋 勘次 (大森區田園調布一〇六)

明治二十四年。京橋區木挽町に生る。幼時より音曲に興味深く、十五歳の時五代目杵屋勘五郎師の門に入り、十六歳の時には座匠の本名の一字「廣」を取つて杵屋廣次の名を許さる。名人五代目杵屋勘五郎師門下の俊足にして又女流の名手として聞ゆ。

杵屋 榮藏 (麹町區二番町四ノ三) 電話九段四一二番

本名小田榮次郎、別名裕康、明治二十年十月十七日靜岡縣藤枝町に生る。十歳にして五代目勘五郎に、更に芳村伊三郎に就く。十三歳初舞臺、廿歳にして三代目榮藏となり四十三年に立三味に昇格。現在、日本邦樂學校長、鶴命會主宰。歌舞伎座邦樂部長。代表作曲「白峰」「羽衣」「お七吉三」あり。得意の曲は「蜘蛛の拍子舞」「勸進帳」。

杵屋 和吉 (日本橋區鵜込四ノ四) 電話茅場町三五〇四番

本名竹中金吾。明治二十一年三月二十日生。京華中學出

身。三代勝三郎門下、東榮會主宰、東寶劇場邦樂部主任。

杵屋 勝太郎 (日本橋區濱町一ノ一) 電話茅場町九六五番

本名橋本三郎、明治十八年七月五日神田生。三代目勝太郎、三世勝三郎に學ぶ。勝聲會主宰、長唄協會理事、杵勝會總務。

稀音家 淨觀 (赤坂區新坂町三三) 電話赤坂四〇一一番



本名。杉本金太郎。明治七年三月四日六世杵屋金三郎の子として生る。生れ乍らにして父名人の血を享けて幼時よりその天才を認められて、明治三十三年二十五歳の時、父の後を襲つて三世稀音家六四郎を名乗り、爾來研鑽練磨名實共に世人の認むるところとなる。

大正十五年杵屋を稀音家と改め、昨年六四郎を譲り改めて淨觀と名乗る。明治三十五年以來名人吉住小三郎と相計つて斯道の普及發展及び研究を目的として、長唄研精會を

組織して今日に及んで居る。

東京音樂學校教授。コロムビア專屬。

稀音家 和三郎 (麹町區紀尾井町三)

本名池田謙太郎、三代杵屋勝三郎門下、研精會所屬、前名六四郎事淨觀と共に大正十五年稀音家と改む。

山田 抄太郎 (京橋區木挽町二ノ四四國ビル) 電話京橋七三九三番

幼少より音曲に興味をもち、十二歳頃から杵屋三喜代師について手ほどきを受けのち稀音家六四郎師の門に入り六治の名を許され長唄研精會に入る。二十五歳から京都祇園町歌舞練場専任教師及び都踊作曲者として十ヶ年京都に在住。後、東京音樂學校長唄科教師に任ぜられしも、長唄界の革新と自己の藝道への信念に生きる爲め、昭和十一年八月新しく邦樂研究會創立に際し音樂學校を辭す。現在邦樂研究會技藝部長及び研究長を兼任して活躍す。

コロムビア初吹込は、新邦樂「胡蝶」で引續き「月」「陣營の月」「愛國行進曲」などの名盤を順次送り出してゐる。本年四月稀音家派に歸還す。

杵屋 藤吉 (麴町區平河町二ノ一) 電話九段三一九〇番
 杵屋佐吉の息。杵屋佐之助、梅屋金太郎、福原派、作曲
 研究會の新鋭中堅を集め、蓬春會を組織し、今年五月十三
 日旗上公演をなす。

(隣方の部)

望月 太左衛門 (牛込區市ヶ谷本村町一二)
 小鼓家元。本名安倍光之助。明治廿五年二月二十日七代
 目太左衛門の三男として日本橋に生る。昭和三年九世相續。

望月 太左吉 (芝區愛宕下町二ノ三)
 本名白川清太郎。明治十年十一月十日淺草生。研精會。

望月 太意之助 (澁谷區圓山町九一) 電話青山四八〇二番
 望月太左衛門社中、研精會所屬。

望月 長之助 (本郷區春木町二ノ四六)
 チチヅキチヨウノスケ

本名、増田吉次郎。望月社中、笛方。研精會所屬。

住田 又三郎 (芝區田村町三丁目五ノ一)

本名長谷川信次郎、明治二十八年十月三十日日本橋
 に生る。又兵衛、長之助に師事、管樂會主宰。

田中 傳左衛門 (豊島區駒込一ノ三二)

小鼓、大鼓。本名赤田充朗、明治十三年二月二日生。十
 世成充。

福原 鶴三郎 (麻布區飯倉町一ノ七)

本名小田友太郎、明治六年生。歌舞伎座出勤。

福原 百之助 (日本橋區堀留町一ノ一二ノ五)

本名、若林市太郎。福原鶴太郎社中。

梅屋 金太郎 (澁谷區代々木本町七四三)

本名 神邊金太郎、梅屋勘兵衛社中。

清元

清元 延壽太夫 (芝區高輪北町四八) 電話高輪三二七番

宗家、高輪派。本名岡村庄吉、横濱富貴樓の主人齋藤吉
 之吉氏の五男、五代目菊五郎の兄に當る。文久二年八月、
 本所向島に生る。幼少の頃より音曲を好み、十五歳の時植
 木店の菊壽太夫の門に入り、明治十九年十月故守田勘彌、
 三村成義兩氏の斡旋により、四代目延壽太夫の養子となり
 同三十一年一月五代目家元を相續今日に至る。
 師の藝技は全く國寶的完璧さを示し、絶対に他の追隨を
 許さぬ名人の格式を誇示するものである。

清元 榮壽太夫 (府下吉祥寺野田南一九八三) 電話吉祥寺一四〇番

高輪派。唄、三絃。本名岡村圭壽郎、明治二十八年二月
 二十二日延壽太夫の息として生る。

清元 志壽太夫 (四谷區荒木町二五)



高輪派。本名柿澤竹次郎、明治
 三十一年四月、横濱に生れ、二十
 歳の時延壽太夫の門に入り、以來
 益々技を練り藝を磨き、遂に志壽
 太夫の名を許されて現在に至る。
 名人延壽太夫病に倒れて再起困難
 を傳へられる今日、高輪派の大立者として隆々たる人氣を
 背負つてゐる。舊譜に「保名」「喜撰」「三社祭」「三千歳」
 等あり孰れも好評を博したもので、今後共ビクター圓盤上
 に師の圓熟した藝がますます期待されてゐる。趣味は園藝。

清元 喜久太夫 (麴町區平河町五ノ二五)

明治十五年六月二日、名古屋市に生る。家は袋物商であ
 ったが幼にして音曲を好み、十五六歳の頃から斯道に志し
 て最初は常磐津を學んだが二十歳の時當時清元の名人とし
 て名高かつた齋兵衛の門弟齋八に就いて明烏夕立の二段を

究めた後、更に清元彌生太夫の門に入つて研鑽を積む。同四十一年四月七日「三番叟」を語つた時家元に認められて喜久太夫の名を許さる。同年十二月梅吉師と共に家を辭して清元流を興し、その副頭取となつて今日に及んでゐる。

清元小喜久太夫

(大森區入新井六ノ五六) 電話大森八一〇〇番



本名藤澤珪二郎、明治三十五年九月十日本郷に生る。慶應義塾普通中途退學後三越呉服店仕入部へ勤務、二十一歳清元喜久太夫師へ入門、二十二歳小喜久太夫の名を許さる。此時清元二派に分裂す。以來大劇場へ師の三枚目より二枚目、中小劇場の立唄を勤めあげ、ラヂオ、演奏會へ出演、最近大阪歌舞伎落人、京都南座の立唄。コロムビア、ポリドールへ數曲吹込む。日本橋俱樂部稽古會、他京都、信州、北陸へ出張稽古場を有す。趣味―讀書、映畫、繪畫、野球、能、旅行等。

清元梅壽太夫

(赤坂區溜池町二)



清元流。曾て太郎と稱したが、天性の美音を家元梅吉師に見出され、望月圭助、大谷竹次郎兩氏の推薦によつて年二十五歳にして一躍三味線彈きより立唄に拔擢され昭和五年十一月梅壽太夫と改め翌六年四月には清元流の重鎮梅吉の長女松原靜江と結婚して今日に及んで居る。

清元梅吉

(麴町區永田町二ノ一) 電話赤坂五〇三七番

三味線。清元流家元。本名松原清一。明治二十二年十二月十七日二代梅吉の子として生る。明治三十八年三月十七歳にして、嚴父二世清元梅吉の幼名梅三郎を繼ぎ、四十四年六月父の死に遭つて三世清元梅吉を襲名す。大正十一年十二月には清元流創立の聲名をなし、引續き同流の重鎮として現在に及んで居る。

清元梅次

(日本橋區兩國町三八ノ一) 電話浪花一四九六番



清元流。本名潮崎伊三郎、明治三十三年十二月一日芝巴町に生る。十二歳にして伯父二代目清元和三造に就き清元流の手ほどきを受け十六歳にして現清元梅吉師の門に入り清元梅次の名を許され現在に至る。清元流幹部。趣味―寫眞

清元榮次郎

(牛込區中町二七) 電話牛込二六一二番

高輪派、三味線。明治三十七年四月二十一日牛込生。清元順三郎に師事。

清元正太夫

(淺草區馬道町二ノ四)

本名中村豊吉、明治十八年十月五日生。延壽太夫門下。

瀧田禮子

(神田區錦町一ノ一九) 電話神田七一九番

清元。歌謠。大正四年一月二十三日神田生。府立第二高女、津田英學塾出身。清元正澄郎に師事、藝名清元延小八AKコンクールにて清元、歌謠の部に三回當選。大日本音楽協會員。

常盤津

常盤津文字太夫

(日本橋區吳服橋三ノ二) 電話日本橋二〇六八番



家元。本名常岡鐵之助、明治三十年二月二日日本橋に生る。大正四年九月六代目常盤津小文字太夫襲名、同十五年父文字太夫隱居し二世常盤津豊後大掾となりし爲め文字太夫となり宗家十五代目を繼ぎ歌舞伎座に於て襲名披露をなす。

昭和二年一月常盤津協會を組織し、明治三十九年以來分

離し居たる岸澤流と合同、流儀一同に推されて長唄協會理事長となり今日に至る。昭和三年十二月十二日東京音樂學校に於て御前演奏の光榮に浴す。趣味―芝居、旅行。

トキワツマツヲダイフ
常盤津松尾太夫 (鎌倉市鎌倉町)

本名福田兼吉。明治八年九月十六日相州逗子に生る。幼にして京橋具足町の金箏業、神田家の養子となりしも青年時代より演藝を好み、一種の健康法のつもりで初めた常盤津が本職となり、二十歳にして岸澤古式部の門に入り二十五歳の時、常盤津にて身を立つ可く決心す。二世三登勢太夫を許され、翌三十四年三月新富座に於て現在の中村吉右衛門丈の「法界坊」に初舞臺として出演。其後名人林中の門に入り、明治三十九年三世松尾太夫を襲名今日に至る。
昭和三年十二月十二日には、御大典記念御前演奏の榮譽を擔ひ、現在常盤津の第一人者であり、常盤津協會の理事として、又常盤津研究會等を主宰して斯界の發展に努力せらる。

トワツモジベエ
常盤津文字兵衛



(京橋區木挽町八ノ一) 電話銀座百五番
本名鈴木廣太郎。明治二十一年十二月十五日京橋區金六町に生る。六歳の頃より三味線を手にし、初代文字兵衛、父二代目文字兵衛に教へを受く。十三歳にして父の前名八百八の藝名を継ぎ、大正五年六月父文字兵衛が松壽齋と改めるに及んで三代目文字兵衛の名を継ぎ同時に帝劇專屬となり。後松竹專屬として現在に至る。

キシザハコシキフ
岸澤古式部

(淺草區柳橋一丁目一ノ六) 電話淺草一三四九番

岸澤九代目家元。本名已在吉、安政六年十月十六日牛込生。七代目古式部の養子。前名式佐、大正十年古式部襲名常盤津協會最古參。

キシザハシキサ
岸澤式左

(淺草區柳橋一丁目一ノ六) 電話淺草一三四九番

本名將吉。明治四十二年四月二十七日生。前名已佐吉。

昭和六年改名。練磨會主宰

トキワツカンウエモン
常盤津勘右衛門 (荒川區日暮里二ノ五七)

正派家元。小松原正一、明治二十五年三月十五日淺草に生る。佐代吉門下。

トキワツカネタイフ
常盤津兼太夫 (四谷區籠筒町三九) 電話四谷一〇〇九番

本名渡邊徳次郎、明治十九年十月二十四日四谷生。和佐太夫門下、大正十五年襲名。

トキワツサンゾウ
常盤津三藏 (下谷區中根岸町七二) 電話根岸六八〇番

本名長澤長三郎、明治十一年二月二十五日神田生。朝太夫門下、前名式松、大正五年襲名。

歌澤・哥澤

ウタザハサガミ
歌澤相模 (下谷區二長町一六六) 電話下谷四〇五五番

家元、四世相模。本名平田ゆき、明治五年八月十五日日本橋生。四世寅右衛門、五世實母。

ウタザハトラウエモン
歌澤寅右衛門 (下谷區二長町一六六) 電話下谷四〇五五番

寅派家元。本名平田秀、明治三十四年八月十八日四代目家元の子として神田に生る。昭和三年襲名。

ウタザハトラ
歌澤寅 (麴町區四番町七ノ九) 電話九段一二二二番



本名岸上喜美子、明治三十年九月二十日日本所に生る。初め清元を學び二十歳より歌澤に入り歌澤寅を名乗る。別に岸上美葵の名で萩江節一中節の名取りとなり、現在ROR事務所勤務、大和樂團に入り研究中。大日本音樂協會員。趣味―旅行、音樂、遊び事甘美な物は何でも好き。(後編小唄の項參照)

ウタ ザハ シバ キン
哥澤芝金

(京橋區木挽町七ノ五)
電話銀座二二六八番



芝派家元。本名柴田錦、明治二十五年四月四日日本橋高砂町に生る。芝勢以の妹叔母三代目芝金に學び十七歳の時四代目芝金を襲名し哥澤芝派家として今日に至る。ピクター、コロネビア、ボリ

ドル等へ多數吹込みをなす。

趣味—茶ノ湯、草花、特に薔薇を好む。

ウタ ザハ シバ ヒイ
哥澤芝勢以

(小石川區關口臺町五七)
電話牛込四八八番



芝勢以派家元。本名柴田清、明治十六年四月二十五日日本橋高砂町に生る。伯母土佐に學び明治四十一年三代目芝金前名初代芝勢以の名を繼いで二代目芝勢以となり昭和二年門弟達の推薦により芝勢以流家元となる。昭和八年より哥澤音譜を自筆發行す。

趣味—生花、盆石、茶ノ湯等。

ウタ ザハ シバ マツ
哥澤芝松

(京橋區築地四ノ八)
電話京橋一〇四八番

芝派。本名保科照豊、大正十三年芝金の門に入る。

義太夫

ウタ モト ツダ ヌウ
竹本津太夫

(大阪府住吉區長庚町四七)
電話住吉三四正九番



師は明治二年十二月福岡縣田川郡香春町に生る。師の祖父村上甚吉氏は非常な淨瑠璃の愛好家であつたので師もその感化を受けて九歳の時、既に淨瑠璃の稽古を始め天性の才分は早くもその頃より現れ、遂に先代津太夫師の門に入るを得て文樂座の文の字をとつて文太夫と名乗り、二十七歳の時始めて切り語りとなつたが、遂に四十三歳の時には恩師の名を繼ぎ二代目津太夫となる。紋下の榮位を贏たのは大正十三年五月のこと

あつた。

現在、文樂座紋下座長。日本因會々長。

トヨ タケ コウツボダ ヌウ
豊竹古靱太夫

(大阪府西成區粉濱中ノ町四ノ三六)
電話住吉三一四五番

本名金杉彌太郎、明治十一年十二月十五日、東京市淺草區馬道に生る。十二歳の時大阪に行き、後の七代目綱太夫事先代竹本澤太夫氏の門に入り、親しく其の手解きを受け、天稟の藝才の上に非常な熱心を以て研究した結果、其の上達は驚くべきものがあつた。最初つばめ太夫と名乗つて人氣を集めたが、明治四十二年古靱太夫を襲名し、二代目を繼ぐ。其の襲名披露會を文樂座に開催してより、名聲頓に揚る。殊に師の力演「寺子屋」は、優秀レコードとして昭和十二年度文部大臣賞牌を受く。現在津太夫と共に文樂座の双壁として國寶的存在である。

ピクター專屬。

ウタ モト トサダ ヌウ
竹本土佐太夫

(大阪府住吉區天王寺町二〇〇四)
電話天下茶屋二〇〇九番

本名南馬太郎、文久三年九月十五日土佐に生る。大隅太夫、攝津大椽、豊澤團平に學ぶ。現に文樂座附、苦歸樂、

花蓮と號す。

ウタ モト オホスミダ ヌウ
竹本大隅太夫

(大阪府中河内郡久寶寺新田三)
電話八尾局二六四番

本名永田安太郎、明治十五年十月二十七日生。明治三十七年三代目門下となる。文樂座附。

ウタ モト アヒオヒダ ヌウ
竹本相生太夫

(大阪府東區周防町二二)
電話東一七七九番

本名三輪一郎、明治二十一年七月二十三日東京京橋に生る。綾瀬太夫、越路太夫に學ぶ。

ウタ モト ミナモトダ ヌウ
竹本源太夫

(大阪府住吉區天王寺町二二〇四)

本名尾崎卯一郎、明治十四年七月七日大阪生。攝津大椽の薫陶を享く。文樂座附。

ウタ モト シロダ ヌウ
竹本鍛太夫

(大阪府文樂座氣附)

明治九年東京に生る。職太夫門下。文樂座附。

鶴澤友次郎 ツルザハトモジロウ (大阪東市區淡路町一ノ二〇)

本名山本大次郎、明治七年一月七日京都に生る。六代目友次郎襲名。文樂座紋下竹本津太夫の合三味線として活躍す。

鶴澤清六 ツルザハセイロク (兵庫縣武庫郡本山村花畑二八九)

本名佐藤正哉、明治二十二年二月七日東京に生る。鶴澤道八門下、大正十二年四代目襲名。文樂座附。

鶴澤道八 ツルザハダウハチ (神戸市北長狭通六丁目六八ノ三)

本名淺野浩司、明治二年六月二十七日大阪に生る。初代豊澤團平の直門、文樂座附、三味線方。

鶴澤紋左衛門 ツルザハモンザエモン (府下金町柴又本町一八五)

東京義太夫、因會附。三味線方として活躍。

豊竹巖太夫 トヨタケイハホダユウ (本郷區龍岡町二二二) 電話小石川八六〇番

本名藤田兼義、明治十五年三月二十四日生。故豊澤團平播磨太夫の門下、淨瑠璃研究会、女子淨瑠璃研究会主宰、松綱專屬。

豊竹駒太夫 トヨタケコマダユウ (大阪市西區新町南通三丁目七ノ一) 電話新町四四九六番

本名辻田萬藏、明治十五年二月二十日生。大正三年五月六代目襲名。文樂座附。

豊竹呂之助 トヨタケロノスケ (奈良縣松山町)

本名は黒川キヨ。奈良縣大和國松山町に生る。十四歳にして故豊竹呂昇の門に入り十九歳の時呂昇の養女となり、呂昇隠退と共に今日に及ぶ。

豊澤新左衛門 トヨザハシンザエモン (兵庫縣武庫郡西ノ宮北口)

本名林覺之助、慶應三年五月二十三日大阪生。豊澤松太

郎門下。明治三十一年二代目襲名。文樂座附。

豊澤穠之助 トヨザハエンノスケ (赤坂區田町六ノ四)

本名高木宗太郎、豊澤松太郎の長男。因會附、三味線方。

野澤吉彌 ノザハキチヤ (大阪市西區北堀江御地道一ノ一七)

本名佐藤小三郎、明治十三年六月十四日大阪生。先代野澤吉彌に學ぶ。大正五年八代目を襲名。文樂座附三味線方。

竹本駒若 タケモトコマワカ (淺草區公園六區義太夫座) 電話淺草三六三〇番



本名松本遊亀、明治四十三年五月二十五日高知市本町二丁目に生る。幼時より藝道に志し上京して義太夫に精進。名聲を揚げ東都に於ける斯界の重鎮となる。現在淺

草義太夫座主。

代表作品「伊賀越道中双六」「油屋」「太功記」等。趣味—人形、生花、琴、芝居、小鳥等。

竹本旭嬢 タケモトキョクジヤウ (布施市葦屋一四二七)

女流義太夫。本名多田夏子、明治元年四月十五日生。勝三郎、攝津大塚に師事す。

竹本小仙 タケモトコセン (大阪市住吉區山國町一四ノ三六) 電話戎一八〇五番

女流義太夫。本名咲田あさの、明治二十八年一月三日生。竹本雛助、綱造に師事す。

竹本東廣 タケモトトウヒロ (大阪市東區材木町八)

女流義太夫。本名西山輝、明治十二年九月二十五日生。

新内

富士松加賀太夫 フジマツカガダユウ (淺草區田島町八七)

富士松正派家元。本名小林豊太郎、八代目富士松加賀太夫の長男。昭和九年九代目襲名。

富士松武藏太夫

(淺草區馬道町二ノ三)



富士松正派。本名魚津太吉、明治二十六年十二月二十日日本橋に生る。大正三年頃より故人小林かつ事富士松普遊の門に入り國太夫を名乗り、大正十三年春故人小林文太郎事富士松加賀太夫社中へ加入し、富士松紗瀬太夫と成り、昭和十二年四月九段軍人會館にて武藏富士松派一派を組織し家元富士松武藏太夫と成り現在に至る。

趣味—芝居、映畫。

富士松佐賀太夫

(本所區藏橋町三ノ四)

富士松正派、本名石川長三郎、加賀太夫門下。

富士松曾我太夫

(荒川區三河島町屋一ノ三)

富士松正派。本名遠山音次郎、加賀太夫門下。

富士松加賀壽々

(神田區田代町五)

富士松正派。本名山田清。加賀太夫門下。

富士松東椽

(麹町區富士見町二丁目二ノ五)

富士松東派家元。本名井上金太郎、明治三年六月九日横濱生。元ニットウ專屬。七代目加賀太夫に師事。昭和十一年富士太夫より東椽となる。

作品「木更津心中」「日蓮記」「心算氣懸辻占」等あり。

富士松富士太夫

(目黒區下目黒三ノ六九三)

電話高輪六三五二番

富士松東派。本名鳥巢福太郎。明治二十四年十月二十三日生。昭和十一年佐賀太夫より富士太夫襲名。

富士松龜三郎

(淺草區象潟町三ノ一九)

大和派家元。本名大内吉太郎、明治二十九年十月二日淺草今戸町に生る。十七歳の時富士元喜鶴に師事し、二十三歳より七代目富士松加賀太夫の門に入り二十六歳より立三

味線となり、七代目以後八代目加賀太夫を弾く。後都派家



「黒船お吉」「髯光」「大和音頭」等あり。趣味—讀書、園藝、野球等。

富士松觀世太夫

(豊島區巢鴨五ノ一一一一)

扶桑派主。本名森田政吉、明治二十一年八月二十一日生。若狭、加賀太夫門下。

富士元加賀吉

(淺草區聖天橋町二五)

富士元派家元。本名金子とく、明治十五年四月二十日淺草に生る。

富士松喜昇

(小石川區指ヶ谷町一四五)

富士松新派家元。本名清水初五郎、明治二十年九月五日本郷生。鶴賀佐賀太夫、若吉、千歳に、後七代目富士松加賀太夫に師事。大正十三年獨立新派創立。

富士松長門太夫

(川口市飯塚町五六八)

富士松新派。本名田村百合熊。

鶴賀若狭椽

(牛込區神明町三ノ二)

鶴賀流家元。本名鈴木壽、明治三十八年三月十六日先代新内の子として京橋に生る。鶴賀流家元繼承。

岡本文彌

(神田區多町二丁目二ノ二)

岡本流家元。本名井上猛一、明治二十八年一月一日下谷に生る。京華中學卒業、早大中途退學。作品「唐人お吉」其他新作數種あり。

小唄

小唄 幸兵衛

(京橋區築地四ノ一四) 電話京橋八八九七番



幸兵衛派家元。本名池田幸太郎。明治十七年五月三日東京に生る。元割烹店を営みしも娛樂の道に轉じ清元より小唄に移る。横山咲師に習ひ同師没後師友田村てる師に就き田村派を創立し、後獨立して一派をなし小唄幸兵衛派家元として斯界の重鎮となる。家族に小唄幸美葉、小唄幸子の二人あり。趣味—寫眞。

田村 小てる

(芝區櫻田町一九) 電話銀座五二五一番

田村派家元。本名田村壽美子、大正三年十月十四日生。

春日 とよ

(下谷區上野櫻木町二二) 電話下谷二五七九番

春日派家元。本名柏原とよ。

堀 小多満

(京橋區采女町三五)

堀派家元。本名堀多満。

蓼 胡蝶

(芝區芝口一ノ一三)

蓼派家元。

吉田 草紙庵

(神田區岩井町二〇) 電話浪花三二九〇番



小唄作曲家。本名吉田金太郎。明治八年八月八日生。八歳の頃より藝事に親しみ、十六歳にして初代清元菊之輔を名乗る。後江戸小唄の復興と新曲の開拓に精進し小唄作曲家として新曲二百種近くを發表、斯界に於けるその業績は偉大である。昭和十四年七

月コロムビア専屬となる。

久満 廣代

(芝區南佐久間町二ノ一六)

久満派家元。

寅 由喜

(赤坂區新町三丁目四〇)



本名本木すい、芝區佐久間町に生る。嚴父は海軍中佐にして嚴たる家庭の長女としていつくしみを受けつゝ生長す。母は諸藝に秀で日本婦人の典型と言はれてゐる。父の精をうけ母の血を引き、幼にして藝道を志し、其の熱意はやがて常磐津松尾太夫門下の俤才として松助の許名を得るに至る。然るに尙も一意専心斯道への精進は四代目寅右衛門の門をたゞき其の教をうけ寅山喜の名を許さる。更に小唄作曲界の重鎮吉田草紙庵の良き指導を得てその藝風は益々名聲を高めラヂオ放送に依り其の美聲を認められ、昭和十一年十月端唄「夕暮」「わしが國」でピクターよりデヴューす。

今や同社専屬として端唄小唄界の重鎮として名聲を博してゐる。

因にレコード作品は草紙庵師の作曲になるものが主で「對の編笠」「三千歳」「木下川」「落人」「鳥邊山」「千鳥」「一の谷」「浦こぐ舟」「切れ與三」「助六」「日本橋」「橋渡し」等々があり、其の外「夕ぐれ」「大津繪」「わしが國サ」「有明節」「都々逸」「淡海節」「木遣くづし」「博多子守唄」等四十餘種に及んでゐる。

趣味は旅行、讀書、中でも野球見物が大好き。

飯島 ひろ子

(京橋區築地四丁目八) 電話京橋一〇四八番



本名飯島照豊。本郷湯島三組町に生る。父は土木業を營み一方の總帥として重きをおかれてゐた。五歳にして西川流に入門し舞踊を志す。九歳にして母の趣味として豊後三流の一つたる常磐津初代文字花の門をたゞかしめ十五歳まで教を乞ふ。長ずるに及んで錦心流琵琶宗家永田錦心師の門に入り、やがて稚水の號を襲名す。三味線は哥澤四世家元芝金師につき芝松

の名を許さる。小唄作曲界の第一人者吉田草紙庵師の門をたゞ其の奥義を極めんものと日夜に努力をなす。やがてピクターよりの招聘により處女吹込として「苗賣」「夕暮」を發賣、續いて「淺くとも」と「かうもり」を吹込好評。後、草紙庵師の許を得て「末廣」「與右衛門」が發賣され一躍業界に重きを加ふ。

又一方築地に於て吉田屋を經營す。屈託のない聲柄と、伸びくとした唄ひ方は未だ不惑に満たぬ前途に洋々たるものがある。

藤本秀葉 (日本橋區浪花町一四) 電話浪花二二二番



本名鹿子はる。淺草に生れ幼時より藝事に親しみ、長唄、清元、常磐津等を修業、吉田草紙庵師に學び、昭和七年藤本秀葉の名にて小唄師匠となり一家をなし新作物を研究す。

姉藤本二三吉の良き三絃伴奏者としてコロムビアレコードにて冴えた手腕を見せてゐる。趣味—茶の湯。

岸上美葵 (麹町區四番町七ノ九) 電話九段一二二二番



本名きみ子、明治三十年八月二十一日東京本所に生る。初め清元を學び、二十歳より歌澤に入り歌澤寅を名乗る。荻江節、一中節の名取、現在大日本音樂協會員、KOK事務所に勤務、大和樂團に入り研究中。

趣味—旅行、音樂、遊び事、甘美な物は何んでも好き。(歌澤の項再掲出)。

一中節・其他

宇治柴文

一中節。宇治派家元。本名鈴木喜久、明治十四年二月二十八日本所生。祖先三代紫文の指導を受け、四代紫文を繼ぐ。

樂家の部参照)。

都太夫千中 (京都市上京區右藥師寺町東入) 東入)

一中節、都派。東京に生る。西代目日野序遊、後に故一中に就く。田中正平につき五線譜を學ぶ。

富本豊前 (淀橋區百人町二ノ二三八)

富本節家元。本名坂田とく、明治十八年一月十三日生。七代目家元の娘。富本豊前會及び富本さくら會々主。

笹川臨風 (本郷區西片町一〇ほノ二八) 電話小石川四五八一番

蘭八節家元。明治三年八月七日生。東京帝大國史科出身文學博士。(第三編作詩家の部参照)

宮園千之 (芝區西久保廣町九) 電話芝二一七三番

蘭八節。三代目千之。本名片山ふき、昭和十年家元襲名社中に宮園千廣(館田ゆき)あり。河東節十寸見會派(次頁参照)。

菅野序遊 (淺草區淺草橋一ノ六) 電話淺草三九〇八番

一中節、菅野派五代家元。本名菅野平太郎、明治十九年三月二十日淺草生。四世序遊の甥。

西山吟平 (京都市上京區右藥師寺町東入)

一中節。本名西山龜助、明治八年十一月七日生。十二歳より家庭にて唄を、十八歳より四世日野序遊師に一中節を田中正平に作曲を學ぶ。

都一梅 (京橋區築地三ノ一五)

一中節、都派。本名小林きん、明治十二年一月三十日日本橋生。十代一中、二代一靜門下。外に宮園節、河東節、小唄を能くす。

都太夫一中 (麹町區二番町七ノ七) 電話九段二二二五番

一中節家元。第十世。本名大倉喜七郎、男財。第一編洋

山彦秀子 (芝區西久保廣町九) 電話芝二一七三番

河東節、本名片山ふき、江戸古曲保存の爲め同志と共に十寸見會を設立す。社中に山彦八重子(佐橋章子、山彦米子、岡田米子の諸氏あり。

本年五月三日AKより上記三人にて「松のはげさき」「あの花が」「五月雨」「夜櫻」を放送好評を博す。

萩江章子 (本郷區湯島同朋町一一)

萩江節。十寸見會。本名佐橋章子、河東節では山彦八重子を名乗る。社中に萩江ふき(片山ふき)、萩江壽々子(竹村すゞ)諸氏あり。(前項河東節の項参照)

平岡市舟 (麻布區霞町二)

東明節流祖平岡吟舟の息、ピアノ及び作曲をも能くす。姉高柳橋舟(本名楊子)は高橋箒庵夫人。共に東明節の達人。

俚謡

村田文三 (新潟縣佐渡相川町)

佐渡おけきの名人、佐渡民謡の普及に盡粹、早くよりレコードに吹込み斯界の大御所として重んぜらる。

松本文一 (新潟縣佐渡郡畑野村小倉)

明治三十四年七月八日現住所に生る。磯の家江波、又は翠湖と號す。十歳頃より謡曲に興味を持ち、大正十年頃より全国的に民謡勃興せる爲め郷土の民謡愛護を悟り極力研究に努む。大正十五年四月AK・BK兩放送局より初放送をなし、ワシ印、ツバメ印等にレコード吹込みを初め今日に至る。東京を中心に各地に佐渡おけきの會を組織し、郷土民謡の向上普及に努力す。目下前川生命佐渡出張所長。趣味―讀書、生花、謡曲。本業は農業。

函青くに子 (青森縣中津輕郡和徳村)

本名小野えつ子、明治三十四年一月十日、青森縣中津輕郡利徳村大字堅田に生る。少女時代より民謡を好む別に師に就かず獨自にて修業し、又學校は高女中途退學(眼病の爲)大正十五年頃コロムビアへ吹込みしたるを初めとし今日まで吹込のレコードはその數無數である。

今井篁山 (北海道江別町)

江差追分の名人。「江差追分」「松前三下り」「石狩馬子唄」等を菊池淡水の尺八にてキングに吹込み好評を博す。

工藤美榮子 (青森縣中津輕郡小栗山)

津輕よされ節、じよんがら節の達人。キングレコードに白川軍八郎の三絃で吹込む。

成田家染子 (宮城縣塩釜町)

塩釜のからめ踊、からめ節の名手。キングに吹込む。

關野卯月 (麻布區新廣尾町一ノ一二二)



本名卯太郎、明治二十七年八月埼玉縣入間郡に生る。明治三十九年郷里に於て神田唯子塚本流の横笛を學び同四十二年十月全曲を會得し皆傳狀を受く。大正九年上東京市に俳職の傍ら民謡を研究、昭和四年佐渡俚謡研究会を創立松本丈一師に就き、翌年佐渡相川町磯乃家紅洋氏に認められ佐渡おけきの大家村田文三氏の放送及びコロムビア吹込みを手始めに各郷土俚謡の伴奏及び尺八横笛合奏曲、横笛リレ一式獨奏曲等を考案し録音。同九年五月大日本郷謡會を創立し都土俚謡の教授を初む。同十一年十月キングレコード文藝部俚謡囃託となり現在に至る。目下五線譜の研究中。趣味―演劇、映畫、植木、音樂研究。

堀込源太 (埼玉縣大里郡太田村)

八木節の名人。二代目源太を襲名。

歌謡曲

市イチ



丸マル

(浅草區柳橋二ノ二ノ五)

婉々と連なる日本アルプスの下
信州松本に生る。藝者は藝でとい
ふ信念から故郷を後に上京し浅草
の一松家からお披露目をし、爾來
日夜藝道に精進し、小唄は春日と
よ丸の名を得、清元も亦名取りとなる。藝修業の茨の道を
踏み越え今や藝藉からも離れて、小唄界に流行界歌に確固
たる地位を築くに至り、レコードに、ラヂオに演奏會にす
ばらしい名聲を博してゐる。ビクターレコード専屬。

代表盤、「濡れつばめ」「天龍下れば」最近では「軍國橋
町」「日の丸列車」等がある。「勝太郎市丸十八番集」では
全国の市丸ファンの好評を博してゐる。

音ヲト



丸マル

(麻布區新網町一五二)

本名永井満津子。明治三十六年
十二月八日東京麻布に生れ、幼時
より音曲に興味を持ち、六歳より
常磐津並に舞踊を習ひ、十三歳よ
り筑前琵琶を學ぶ。十七歳より春
日流小唄及び民謡を勉強す。美聲と節廻しは何時しか斯界
の認むる處となり、昭和九年九月一躍コロムビア専屬とな
る。その得意とする民謡調によりその人氣は全國を席捲し
一時レコード界に音丸時代を現出す。

代表レコード「船頭可愛いや」「滿洲想へば」「博多夜船」
「下田夜曲」「滿洲吹雪」等あり。

趣味—旅行、遊藝一般 生花、手藝等。

金カネ

奴ヤツコ

(新橋檢香)

小原良節の本場、南國情緒豊かな鹿兒島に生る。藝を以
つて身を立てる決心にて大阪へ出て南地より「世々香」と

名乗つて現はれるや甘美な歌聲は忽ち地方民謡歌手として
認めらるゝに至る。又一方では清元延久女壽につき清元延
久女靜の名取りとなる。更に藝を磨く爲め上京新橋より金
奴と名乗ると同時にビクターへ認められ昭和十年一月「唄
の旅」でデビューし、其後俚謡「田原坂」等を吹込みす。

金カネ廣ヒロつぼみ

(名古屋市中檢金廣席)



名古屋市の陶器商の娘として生
る。名古屋中檢金廣より藝者とし
て立つ。昭和十二年春、市丸さん
が作曲家佐々木俊一氏と共に名古
屋市へ演奏旅行の際、大岩名古屋
市長と伊藤「松坂屋」社長の推薦によつて見出さる。新愛
知・名古屋兩新聞社及び名古屋蓄音器商組合の主催によつ
て、毎年同市で行はれてゐる流行歌のアマチュア・コンク
ールの第一回に出演して即座に第一位を獲得、以來數度の
コンクールには必ず第一位を連勝彼女の右に出づる者はな
く、遂に特別出演といふ別格的地位を築き、全名古屋の花
として素晴らしい人氣を集めて、遂にビクター専屬となり

きみ榮キミエ

(日本橋區吳服橋二ノ五ノ二)



レコード界への慧星的進出を見るに至る。ビクターより
デビューし「想ひのこして」を發表以來その美聲は中京の
鶯として讃評がある。
本名塚本清子、大正四年一月二
十七日神田に生る。幼少の頃より
藝事を好み小唄、長唄等を學び後
巴太夫の門に入り清元を修む。
昭和九年二十歳の時美聲を認め
られてポリドールレコード専屬
歌手となり「港の別れ唄」でデビューし現在に至る。
代表盤「浮名くずし」「石松節」「元祿くづし」等あり
趣味—映畫、相撲、スポーツ、呂刺等。

分山田和香ワケヤママダワカウ

(大森區入新井一ノ五)

本名伊藤とら、明治三十五年二月十七日赤坂區傳馬町二
丁目六番地に生る。幼にして音楽を好み、六歳より常磐津

林松師に就き修行、又常磐津岸澤文治氏に師事し、昭和四年文香の名を許さる。コロムビア専属として小唄、俚謡、流行歌謡の吹込みをなし十年來活躍す。

小唄勝太郎

(京橋區築地一丁目九ノ二)



土地の花形であつた。

そのうち藝道修業の爲め上京葎町に來たが、生れつき情趣ある美聲は、忽ち江戸つ子の氣に入り、葎町の勝太郎と言へば知らぬ人無しといふ非常な人氣を占む。昭和五年ビクター専属となり、同年十二月「三階節」「伊那節」によつてデヴュー、以來端唄盤にその繊柔な持味を激賞されて來たが、昭和八年一月「島の娘」を出すや、文字通り全國の流行歌ソアンを風靡したことは、今尙記憶に新たな所であ

る。同年十月妓籍を退き名を小唄勝太郎と改め、流行歌に、音頭に、小唄に、端唄に、枚舉に違なき程名唱盤を出し、曾ての新湯の花形は今や名實共に全日本の「鶯」小唄勝太郎の名を擅にしてゐる。なほ、現在は不二派小唄の家元として在來の端唄・小唄界に一新境地を開いてゐる。

小唄梅

(赤坂區田町四ノ一四梅若林) 電話赤坂三七七二番



本名向山小梅、福岡縣田川郡川崎町に生る。小倉市旭檢から梅若と名乗つてゐたが昭和六年の秋赤坂若林へ轉じ藤井清水氏の推薦にて同氏作曲「九州小唄」でコロムビアよりデヴューし、専属となり「ほんとにそらなら」でヒットし民謡小唄の名手としてばかりでなく流行歌謡方面へ活躍す。趣味—映畫、音楽、角力、スポーツ等。

シメ

香カ

(淺草區象湯町一ノ四春竹家)



本名大竹ハルイ、明治四十四年新湯市に生る。昭和八年六月まで新湯にて藝妓を勤め同年七月よりポリドル専属歌手となり上京す。最初認められたのは越後酒宣傳會が上野松坂屋にて開催された際新湯民謡の歌ひ手として上京した時である。ポリドルレコードとして「東海の顔役」に依つて賣り出す。

新橋みどり

(芝區新橋二ノ二八若の家)



本名梁井縁、大正六年三月十五日朝鮮京城に生れ、六才より八才まで熊本市で育ち、八才より十八才迄奈良縣初瀬で初等教育を受く。本籍を福岡市博多東中洲南新地に置く。新橋妓界の清元、小唄

の達人としてその美聲を認められ昭和十一年五月一日キングレコード専属となる。

デヴュー盤、林伊佐緒とのコンビに依る「もしも月給が上つたら」で大ヒットし一躍人氣を博す。

代表盤、右の外「國境ぶし」「軍國女婦郵便」「僕の考へ聞いてくれ」等がある。

趣味—ゴルフ、スケート、スキー、乗馬、自動車運轉等。

新橋喜代丸

(下谷區上野櫻木町四〇)



本名生駒光江、大正三年六月二十二月岡山縣落合町に生る。昭和八年上京、新橋喜代三に師事し、レコード界に入り、後タイヘイレコード専属歌手となりレコード吹込、映畫撮影、實演等に活躍す。昭和十年末「月の東京」でデヴューし以來引續いてタイヘイ唯一の營養者として人氣を博し「可愛がられて」「花嫁双六」「妻と花嫁」「妻ぢやもの」「母ぢやもの」「玄海越へて」「北京の娘」等を連發して益々好調を謳はれてゐる。

趣味—讀書、音樂。

染 千代

(淺草區千束町二ノ二〇九)



本名石原孝子、大正六年八月七日澁橋區角管に生る。幼少の頃より藝事を好み十歳より杵屋流、春日流の長唄、小唄を學ぶ。その美聲を認められ昭和十二年五月ボリドル専屬となる。メ香さんと共に淺草象湯春竹家にゐたが今春獨立して染の家を經營す。代表盤としては「時雨旅」「大陸の花嫁」「月の天龍」「藤掛えて」「悴でかした」等がある。趣味—觀劇、スポーツ、讀書等。

藤本二三吉

(日本橋區浪花町十八)

本名藤本姉美、淺草千束町一丁目に生れた生粹の江戸っ子、幼にして藝事を好み六歳より常磐津を志ざし、十六才にして常磐津の大御所三藏師の門に入り、やがて常磐津二三吉の名を許さる。更に藝道修業の熱意は長唄に清元に古

曲に至るまで研めんものと各流儀に師事し、寒稽古に或は

海岸に山にと咽喉をきたへるのに寧日なき有様であつた。



英の道はやがて關東大震災の直後に東京蓄音器會社に見出されコロムビアの前身日蓄に轉じ、ピクチャー會社に轉ずるに及んで、「浪速小唄」に「唐人お吉」にその美聲は世に認められるに至つた。其後コロムビアに復社し小唄作曲の第一人者たる吉田草紙庵師にも師事してゐる。

近來藝風に一段と溢きと力強きを感じると共に、圓熟の域に入つて來た。コロムビアレコードにより「二三吉端唄小唄集」「踊小唄名曲集」「草紙庵名曲集」等にて活躍してゐる。

因みに三味線の小靜さんは姉で秀葉さんは妹である。

豆 千代

(岐阜市高岩町一五)

本名福田八重子、岐阜市に生れ、七八歳の頃から端唄、小唄、歌澤等を修め、その玲瓏の聲と相俟つて識者を讃嘆



に人氣歌手となり現在に至る。

豆

(本所區向島三ノ二三)



せしめて居たが、昭和九年春、機熟してコロムビアの専屬となり、「こゝろ意氣」「夢の浮橋」「木曾路戀しや」「曠野を行く」等々、矢繼早に傑作を吹込んで忽ちのうちに人氣歌手となり現在に至る。

美 ち 奴

(淺草區象湯町二ノ一三)

本名久保染子、大正六年六月八日北海道北見國枝幸町に生る。九歳迄出生地にて育ち十五歳迄樺太本斗郡内幌で育つ。十五歳の秋上京翌年淺草より藝者として出づ。昭和十四年十二月藝妓を引退す。



レコード界へのスタートは十七歳の時松竹映畫「東京音頭」の吹込みに初まり、十八歳にしてニッソーレコードに入り、十九歳にしてテイチクへ入社現在に至る。

ヒット盤としては「あゝそれなのに」「そんなの嫌ひ」「新國境警備の唄」「バラオの娘」「吉良の仁吉」等枚舉に遑ない程多數にのぼつてゐる。趣味は旅行、讀書、演藝一切、人形等。

三 門 順 子

(荒川區尾久町三ノ二三七五)

本名富山靜子、大正四年東京麻布に生る。七歳頃より十八歳まで長唄を學び、傍ら舞踊鳴物等を研究す。

昭和八年五月AK新人試験に合格して認められキングレ



コード専屬となり「新納涼音頭」に依つてデヴューし人氣を博す。技來同社の人氣歌手として「續愛馬行」「娘馬子唄」「建國音頭」「曉の決死隊」「大陸の花嫁」等で益々名聲を高めてゐる。又長唄師匠として一家をなしてゐる。趣味は生花、舞踊。

ヤマモト レイコ (ピクチャー文藝部氣附)
山本麗子



大正十一年北海道函館に生れ、四歳の時不幸にして失明、爾來慈愛深き祖母の努力に依り歌に興味を持つに至る。

昭和九年函館劇場に於ける民謡大會に第一位を得、翌十年十四歳にして函館放送局の全北海道新人民謡競技會に出場、素晴らしい人氣を博す。同一年ピクチャーレコードよりデヴューし、數多くの民謡を吹込み、その後「メノコ悲しや」「河原夜霧」等々によつて流行歌界に新境地を開拓す。文字通り「盲目の天才歌手」として、

して、聲質の清純、唱法の巧緻稀に見る名調子で、民謡に流行歌に、往くとして可ならざるはなしである。

ヤマザト コ (牛込區矢來町四三)
山里せつ子

明治四十年二月三日生。長唄を杵屋佐吉に師事、新日本音楽を研究、歌謡曲をも歌ふ。大日本音楽家協會員。

リキ マル (杉並區高圓寺七ノ九二七)
力丸



本名稱原喜久枝、明治四十五年四月十四日筑前に生る。十五歳より十八歳まで清元仙八師に清元を十八歳より常盤津喜久輔に常盤津を學んで二十歳にして名取となる。昭和十一年十月、その美聲を認められてコロムビア専屬となり「戀慕追分」を吹込んで昭和十一年正月新譜よりレコード界へデヴューし、今日に及んで居る。最初は千代丸を名乗つて居たが、最近力丸と改名す。趣味—音楽、映畫、生花。

童謡歌手

イヒダ エ (板橋區板橋町五ノ九八六)
飯田ふさ江



本名、房枝。大正十四年十月四日現住所に生る。昭和十三年三月板橋第二小學校卒業、現在千代田高女二年在學。小學四年の頃、長谷基孝氏に就いて童謡を學び、「ガタ馬車」「パパさんお出かけ」でコロムビアよりデヴューし、專屬童謡歌手となる。

尚ピアノを初め小林つやえ氏につき其後阪本その氏に就き修業、聲樂を宮川美子氏に師事してゐる。代表レコード「兵隊さんよ有難う」「カナリヤ」「赤とんぼ」等多數あり。趣味—讀書、音楽、スポーツ等。

アサ ヒ ヨシ エ (城東區南砂町六ノ三ノ四)
朝日良枝

六歳の時東京兒童音樂園長桑原哲郎氏に見出されて師事

するや直ちに第一回放送をして一躍コロナレコード専屬となり同社の解散に依り姉妹會社ポリドールへ一時吹込み、一昨年七歳にしてキングへ吹込みを初め「チユウスケネツミ」「兵隊さんのうた」「鬼のお醫者」等のヒットを出す。踊りは四歳の頃より紫會舞踊研究所桑原雄子氏に師事し研究中、現在九歳、桑原豆歌手隊のリーダーである。

イマイツミ (杉並區高圓寺三ノ一八一)
今泉みどり



昭和二年四月三日兒童舞踊家今泉かほる氏の長女として淀橋區諏訪町に生る。従つて父と共に舞臺に立つ事早く、満四歳の時白木屋ホールの開場音樂會にてハイモニカ獨奏にて初めてデヴューす。昭和十二年五月十五日長谷基孝氏主宰の銀杏子供會に入會、同時にコロムビア童謡歌手となりレコード吹込みを初む。現在杉並第一小學六年在學中。

デヴューレコード「ワンワンの出征」。代表レコード「いゝ子ちゃん」「僕等の眞心」等あり。

趣味レコード、歌、お人形。

大塚百合子

(京橋區西八丁堀三ノ六ノ一)



本年十一歳、京橋區京華小學校五年在學中、山口保治氏の薫陶を受け山口兒童音樂園、日の丸こども會員。幼年向の童謡は特に隨一と言はれ、兒童劇等のセリフも巧にこなし、主としてキング、コロムビア、ホリドール等に吹込み人氣を博してゐる。代表レコード「坊やのジャンケン」「おとなりどうし」「鷺鳥の小母さん」「ダレニアゲロ」「みんなよい子で」「山から電報」「ナイシヨ話」等がある。

大内至子

(ピクター文藝部氣附)

昭和四年生、現在東京關口臺町小學校の四年生。昭和十四年度兒童唱歌コンクール入賞者。少々舌つ足らずの唱ひ方がたまらなく可愛らしい、然も音程は頗る正確である。好きなものはお人形とチョコレート。

小澤美枝子

(豊島區池袋五ノ二四五)



豊島區池袋に生る。本年十二歳童謡作曲家山本雅之氏のムジカ音樂園隨一の童謡歌手、キング專屬として、「跳ねましょ飛びましょ」でデヴューし「日の丸辨當」「仲よしの歌」「支那人形」「戦地のお父さまへ」「兎パンザイ」等々數多くのヒット盤を出してゐる。學校の成績も優等、習字が得意。

大川澄子

(豊島區西巢鴨二ノ一九九二)

大正十二年八月二十八日、現住所に生る。昭和四年四月東京市豊島區西巢鴨第三尋常小學校へ入學、昭和六年六月より佐々木すぐる先生に師事し、青い鳥童謡樂園隨一の童謡歌手として、コロムビアの專屬となり童謡歌手の白眉として人氣を博す。代表盤、枚舉に遑ない程多數にのぼる。

尾村まさ子

(ピクター專屬)



大正十五年正月一日生れで、東京市立築地小學校卒業、現在淀橋の千代田高女一年生。初吹込は文部省唱歌の「影法師」「朝顔」で、日比谷公會堂に於ける初舞臺「お伽の國」大會では大いにその前途を囑目されるに至る。「梟の夜マハリ」「オヒゲノ父サン」など多くの童謡レコードがある。

河村順子

(豊島區長崎二丁目四) 電話落合長崎二六三八番



河村光陽氏の長女、父と共にボリドルレコード專屬として昭和八年デヴューし、昭和十一年キングレコードに轉ず。早くより父の薫陶をうけ童謡に精進、童謡歌手中の白眉として長くその首位を保持す。現在上野兒童音樂園

に在學中。(第一編河村光陽氏の項参照) 代表盤、凡て光陽氏作曲のもののみを歌ひ「かもめの水兵さん」「キモンアクロ」「支那ことば」「仲よし小道」「君が代行進曲」等數十種にのぼる。尙アルバム入「河村順子童謡集」(三枚一組)等あり。

金子一雄

(埼玉縣浦和市)

大正七年九月三十日、埼玉縣北足立郡浦和市に生る。幼少の頃より音楽を好み、學齡前より童謡をよくす。大正十五年十月二日、東京放送局より子供の時間に童謡を放送した。昭和二年七月二日東京放送局少年少女の夕に童謡を獨唱し、昭和四年十月十九日東京放送局全關東選抜小學兒童音樂大會には埼玉縣より選ばれて童謡を獨唱す。

桑原邦夫

(杉並區成宗一ノ三七)

大正十四年五月東京杉並區に生る。昭和九年四月長谷川堅二氏主宰の金の鈴子供會に入會、同年七月コロムビアへ「近衛兵隊さん」「日の丸踊り」を吹込を爲し。デヴューす。昭和十一年六月コロムビアの專屬童謡歌手となる。

劍持 惠子

(澁谷區千駄ヶ谷町五ノ九〇二)



昭和四年六月三十日生。九段精華高女附屬小學校四年生、本年十二歳。劍持確磨氏の愛嬢、昨年よりキング專屬作曲家山本雅之氏に就いて稽古し、キングレコード專屬となり小澤美枝子さんとの名コムピで「日の丸辨當」「仲ヨシノ歌」「タノシイ遠足」等を吹込み、更に「宮様ばんざい」「進むよ日本の兵隊さん」「月のラクダさん」「支那のお馬」を獨唱するに至つて果敢人氣を博す。

學校では習字が得意、嗜好では果物とチヨコレイト。

小林 茂子

(ビクター專屬)

昭和四年生。大内至子さんと同じ東京關口臺町小學校の四年生。昭和十四年度兒童唱歌コンクール應募者の中から特に中山晋平氏のお眼鏡に過つて選ばれた新人。その澄んだ音色と可愛い、發音がすばらしい。

好きなものはお人形とチヨコレイト。

小坂 勝也

(淺草公園六區三ノ八二)



昭和三年三月二日現住所に生る童謡作曲家長妻完至氏に師事し、可愛らしい聲と巧みな歌ひぶりで早くより天才童謡歌手と讃えられ、既に八歳の時よりAKから童謡の放送をなす。

其後キングレコード專屬童謡歌手となり、放送に實演にレコード界に数少い男聲童謡歌手の一人として素晴らしい人氣を博してゐる。淺草小學を卒業、目下足立中學一年に在學中。

代表盤「山彦小僧」「こどもハイキング」「僕の兄さん」

「兵隊さん萬歳」等多數あり。

趣味—讀書、旅行、野球等。

齋藤 達雄

(京橋區八丁堀二ノ一)

大正十五年二月十八日生。作曲家山口保治氏主宰の兒童

音樂園に入り男子の童謡歌手としては現在本邦隨一の稱がある。京華小學五年の時「ピツクリ音頭」「花ざかり」でポドルよりデヴューす。將來は本格的なテナー歌手を志願し張り切つて勉強中である。現在法政中學二年に在學中。ポリドル專屬。



趣味として芝居が上手である。

杉山 美子

(ビクター專屬)

昭和十四年九月新興大泉のヒット映畫「母に捧ぐる歌」に主演、一躍演技及童謡の可愛いホープとなる。現在西巢鴨第一小學後の四年生。

昭和十一年第一劇場上演になる「鬼怒る」の舞臺でその可憐なる子役ぶりを早くも認められた。昭和十四年九月ビクター專屬となるや、その愛くるしい雲雀の咽喉は正しく絶讚の的となり、童謡歌手としての才能を確定的に認められることになつた。今後の活躍を期待されてゐる。

高橋 祐子

(コロムビア專屬)

豊島區西巢鴨第一小學校の四年生。昭和十三年十二月青い鳥童謡音樂園佐々木すぐる氏のもとに入門し、昨年三月「蝶々さん」を歌つてコロムビアよりデビニューす。

以來「虹の町」「ラヂオ体操一二の三」「大陸子供の歌」等を連發して童謡界の寵兒となる。好きなものは葡萄。

辻 秀和

(淺草區雷門二ノ二)



昭和八年三月二十日現住所に生る。昭和十四年六月長妻童謡音樂園に入り長妻完至氏に師事、童謡を學び忽ちその才能を認められ同年九月AKより童謡獨唱以來數回に亘つて放送す。

昭和十五年一月五日AK新年子供大會、同年三月十日PK主催靜岡市大火災罹災兒童慰安大會に出演人氣を博す。現在、淺草小學校第二學年在學中。

レコードはキングレコードに據る。
代表盤「ゲンキノゲンチャン」「お母さまありがたう」
「兵隊さん萬歳」等。

東條勢津子

（芝區神谷町一八關芳三方）
電話芝二二〇五番



昭和四年二月十一日淺草雷門町に生る。昭和十三年十歳の春その音楽的才能を長妻完至氏に見出され同氏主宰の童謡音楽園に入り、その美聲は益々精練され可愛らしい童謡歌手として認められるに至る。又他方その溫和な性質と相俟つて兒童劇に趣味を持ちその科白等にも才質を有し、既にAK其他の放送局より屢々國內、海外へ放送、その才能を發揮してゐる。目下淺草小學校第六學年在學中。
レコードはキングに據り「すべり臺」「支那の花嫁さん」等が有名である。趣味—兒童劇、讀書等。

中島けい子

（芝區白金三光町五一）

大正十二年名古屋に生れ、後兩親と共に上京、芝神應小學に入學、長谷基孝氏に就いて音楽を學び、コロムビア教育レコードには井上武士先生の指導の下に早くより吹込をして居たが、昭和八年暮コロムビア専屬となり、「金時さんなら」を吹込んで以來引續いて活躍す。

中山梶子

（中野區本町通五ノ一四）
電話中野二九七〇番



昭和二年二月二日、長野市西之門町に生る。作曲家中山晋平氏のお嬢さんで、中野桃園小學校卒業後、現在中野高女一年生。お父さんに何時も教へられ、それに環境が音楽的な爲め、非常に優れた音楽的才能をもつて居る。初めてピクターへ吹込まれたのは「胡桃」で、初舞臺はピクター賞演大會（昭和八年七月一日）である。その後引續き専屬として傑作童謡レコードを多数出してゐる。

中根庸子

（神田區美土代町一〇）
電話神田二〇五番



本年七歳、神田美土代町旅館美土代館主中根信雄氏の令嬢、昭和十三年十二月河村光陽氏の門に入る。歌ひ始めてから漸く一年、その才質をキングレコードに認められ「幼稚園童謡集」に「オペンタウノウタ」を獨唱しデビューす。茲來放送に、實演に、人氣を博す。
又舞踊を賀來琢磨氏に就いてゐる。子鳩會々員。
趣味—繪畫、嗜好はメロンとボンカン。

新美博義

（世田ヶ谷區若林町六四）

大正十四年二月一日芝區白金三光町三三八番地に生る。現在荏原第二尋常高等小學校に在學中。幼稚園時代より音楽の天分を認められ、長谷基孝先生指導の銀杏子供會に入會しラヂオに音楽會に益々その天分を發揮し、昭和十年四月コロムビアに初吹込し、専屬として現在に及んで居る。

平山美代子

（ピクター専屬）



大正十一年六月二十九日麴町區三番町に生る。昭和十三年女子學院第三學年を修了後、東洋音樂學校へ入學。中山晋平氏に師事す。初舞臺は昭和八年五月二十四日比谷公會堂の人形使節を送る會の獨唱で満場の拍手を受く。同年よりピクター専屬童謡歌手となり、逐年好評を博し、今や往年の「平井英子」の疊を摩す。童謡歌手として生命の長いこと随一である。

文谷千代子

（芝區白金三光町一八七）

大正十一年、芝區白金に生れ、神應小學校に入るに及び長谷基孝先生の指導によりその才能を現はし、井上武士先生指導コロムビア教育レコードには早くより吹込んで居たが、昭和八年暮専屬となるに及び「ピョンピョン兔」を最初に多くの童謡を吹込むに至る。

藤田尚 (目黒區洗足一三一三)

大正十四年三月三十日神戸市吉田町に生る。二、三歳頃より「レコード」音楽を愛好す。昭和十年五月アレキサンダー、モギレフスキーに一時學ぶ。昭和十一年四月よりボリス、ラス氏に師事し同年七月コロムビア専屬となり今日に及ぶ。

丸房枝 (赤坂區青山南町五ノ二七)

昭和五年三月二十三日市川市眞間に生る。六歳より國枝一郎氏に就いて童謡を習ふ。現在青山小學校五年生。昨年より帝蕃及びボールドールに童謡吹込みをなす。吹込レコード、テイチャク「ニコニコ夕顔」外二社にて十數曲あり。



増山昭典 (名古屋市雛菊童謡樂園)

小股久氏主宰の名古屋雛菊童謡樂園に學び、キングレコード専屬となり「かけこゑかけて」「お誕生の歌」を吹込む。

増田登志子 (和光童謡音樂園)

吾妻小學校五年生、本年十二歳、王子第四小學校二年生の頃、童謡作曲家玉山英光氏に勧められて同氏の主宰する和光童謡音樂園に入園、一年許りの内にその才質を發揮しテイチク唯一の豆歌手として迎へらる。

ヒット盤としては古賀久子嬢とのコムビに依る「こども盆踊り」の外「父さんくれたチヨコレット」「おるす番」「コドモ行進曲」「飛べ飛べ愛國號」等がある。

マーガレット・ユキ

昭和三年十二月英京ロンドンに生る。同八年來朝。東京大阪、神戸、松竹、SY各劇場演出、同十年日劇バンテーチシヨロ、朝日トーキー・ニュース、滿洲軍慰問、ハルビン・キヤピトル劇場及九州公演。同十一年新興高田プロ「街の艶歌師」に特別出演。發聲指導は三浦環。ダンスは母。日英佛語に堪能。昭和十一年秋コロムビア専屬となる。

矢島英子 (豊高區西巢鴨二ノ一八八五)



昭和三年四月二十三日現住所に生る。昭和十二年十一月ポリドルレコード童謡専屬歌手となり現在に至る。西巢鴨第三小學校第六學年在學中。

代表レコード「お手玉」「ずいずいづつころばし」「赤ちゃんアツバツバ」とんとん手毬」「雛マツリ」が等ある。趣味—ピアノ、繪畫、歌。

山崎百子 (ビクター専屬)

昭和五年生、東京淀橋第一小學校の三年生。昭和十四年度児童唱歌のコンクール入賞者。第二回の放送局童謡テストに第一位で入賞したのは僅か六歳の時であった。非常に稽古熱心で、歌を驚くほど早く覚え込むので評判である。好きなものはミツキーマウスに飛行機。

山口英子 (芝區新橋二ノ二二二)



電話銀座三二五五番

本名、山口竹子。大正十四年七月六日、京都市伏見區觀月橋新町一四番地に生る。現在芝區梅田尋常小學校に在學中。昭和九年九歳の時童謡を佐々木すぐる先生の青い鳥童謡音樂園に學び、昭和十年六月十六日初放送、引續きコロムビアに初吹込みコロムビア専屬童謡歌手として現在に及んで居る。趣味—日本舞踊、三味線、觀劇。

椎木レイ子 (金の鈴こども會)

長谷川堅二氏主宰の金の鈴こども會にて植松薫さん等と童謡を學び、ニットウ、タイヘイ、ポリドル等に吹込みをなし後キングレコード専屬となる。

代表盤「オウムテンテン」「先生アリガタウ」「鬼の學校」「のんきなブーちゃん」等がある。

佐々木陽子 (花かげ童謡樂園)

豊田義一氏主宰の花かげ童謡樂園の白眉としてポリドル、テイチク等にて活躍す。自作詞「いつもいつしよ」「わかない」「茶目の顔」「砂遊び」等を吹込む。

田中恵子 (大森區大森二ノ二二) 電話大森六六〇〇番



昭和二年七月十八日、大森の海苔製造家田中屋の長女として生る。歳九歳の時より花かげ童謡樂園に入園、十歳にしてコロムビア、ポリドルより「お手種」「あわて小僧さん」「七夕まつり」「ほたる」等を發表す。現在府立第八高女在學、ピアノを修業中。

長谷山雛菊音楽會 (四谷區内藤町一ノ五四) 電話四谷五二八五番

長谷山峻彦氏主宰、大正十五年設立し、石井亀次郎、河合二三四、服部悦子其他多數の童謡歌手をレコード界に送り出し活躍す。最近は兒童劇を主としキングレコード専屬。

として「のらくら一等兵」「コグマノコロスケ」「凸凹黒兵衛」等漫畫の劇化を創めて人氣を獨占してゐる。毎年春秋日本青年會館に於て發表音楽會を開催す。

桑原豆歌手隊 (麻布區材木町三) 電話赤坂二八一四番



電話ごっこ」等數種を吹込み發表す。

桑原哲郎氏主宰の東京兒童音楽園に昭和十四年併設さる。満三歳以上七歳以下の童謡歌手を養成し本邦唯一の豆歌手隊を組織しキングレコード専屬としてラヂオにレコードに實演に活躍人氣を博す。現在隊員として桑原ヨシロー、佐藤エツコ、前田ヒサコ、尾形サチコ等十五名を擁す。キングレコードに「豆歌手部隊の進軍」「豆歌手部隊の歌」「ドウブツエンノ歌」「お

第六編 演藝家

浪曲 講談 落語 映畫説明
漫談 漫才
増補

第六編 演藝家

浪曲

東 ^{アツマ} 武藏 ^{サン}



(本所區麩橋四ノ二二三) 電話墨田三九一四番

本名東常吉、明治二十六年一月十九日舊川越藩士の家に生れ七歳より浪界に身を投じ、嘗つて師に就いたことなく獨立獨歩、新境地を開き武藏流を編み、時代物、現代物五百種以上のほり斯界の名

人として重きをなす。明治十二年閑院宮、故北白川宮殿下の御前講演の榮を賜り、大正八年には内務省囑託、日本風教俱樂部の協議員に推され奏任官待遇を受け、昭和四年には更に文部省囑託と

なる。又現に建國祭啓發宣傳藝能係委員、及日本浪曲協會總務、日本浪曲學校名譽教授、一門三十餘名を擁す。趣味—書畫、骨董、スポーツ等。

東 ^{アツマ} 家樂 ^{ラク} 燕 ^{エン}



(下谷區下根岸町十一) 電話根岸三〇六番

本名岡部六彌、明治二十年二月三月初代東家樂遊の一子として熊谷市に生る。士官學校を志し海城中學に入りたるもその當時は藝人の子は入學出來ぬ掟ありし爲め斷念し卒業後浪曲界に身を投じ、二十歳にして初舞臺、二十四歳の時桃中軒雲右衛門に見込まれ養子となり雲太夫を名乗りしが三年にして東家に戻り嘗つて琵琶調の新派を開き現在に至る。現在、浪曲學校々長大日本浪曲協會副會長。興業事務所を本所區綠町三ノ三六に設く。

デヴェー作品、「乃木將軍」「義士傳」「日露戰爭物語」、代表作「召集令」「橋英夫」「古賀聯隊長」。趣味—酒、植木、犬、拳闘、書畫骨董、水泳(免許皆傳)。

東家浦太郎

（浅草區田島町五三）
電話浅草八四五三番



本名相馬清、大正八年十二月二十四日日本郷動坂に生る。昭和七年十四歳にして東家燕左衛門師入門、同八年東家樂浦師に師事、藝名東家浦太郎と改名す。昭和十二年獨立し今日に及ぶ。現在關東浪曲組合京演會に屬し、昭和十三年十一月よりコロムビア專屬として今日に至る。

好評を博せるものに「近世俠骨傳」「銚子五郎藏」「忠治赤城山」等がある。
趣味―野球、演劇。

梅原秀夫

（浅草區雷門一ノ二一）
電話浅草六六八四番

明治三十六年九月十日長崎市に生る。長崎中學卒業後浪曲を志し上京、龍甲齋虎丸の門に入り三年の修業を積み獨立し、龍甲齋虎洲を名乗つて各地を巡業、昭和十年二月新



「傷痕軍人の母」外多数あり。趣味―書畫、映畫、角力。

春日清鶴

（浅草區芝崎町一ノ一）
電話浅草六四三〇番



本名笠原壽作、明治三十一年十一月十日京橋區木挽町に生る。浪曲を志し師匠春日亭清吉に學び現在に至る。關東浪曲界の重鎮として人氣を占めレコードに實演に活躍す。趣味―魚釣、落語、講談。

春日井梅鶯

（浅草區田島町九三）

明治三十七年千葉縣に生る。上京後明治浪界の雄春日井の家元梅吉の門に入り修業中、師の家名の次第に衰微して

行く中に獨り孤蟲を守つて奮闘、昭和八年認められてポリドールの專屬となり、昨年キングレコードに轉じ今年十二月テイチク專屬となる。
その優美な聲節、艶麗な節曲を以つて渴仰的となつた尖銳的な新人で、「赤城の子守唄」「東海の顔役」等、その間數多の新作を發表し、人氣冲天の勢ひである。さきに、明治座に大披露目をして半歳後、東京劇場に米若、友衛、重友、樂燕、雲月の列に伍して、大人氣を獲得した等、正にその風格容姿と共に當代隨一の流線型進出である。
最近の主なるレコードとしては「愛馬行」「浅太郎月夜」「喧嘩鳶」等がある。

木村松太郎

（浅草區千束町三ノ一五九）
電話根岸二七七八番



本名江本正男、明治三十三年二月五日日本所石原町に生る。最初日本橋の雜貨商店に小僧奉公をなし十六歳の時先代木村重松の門に入る。木村咲松と名乗り大正七年松太郎と改名、大正九年麻布三聯隊

に入替三ヶ年軍務に服す。大正十三年眞打に昇進、新宿末廣亭にて披露す。レコードはビクター、ポリドール、キング、日東、太平、テイチク等に吹込む。
落語種の浪曲化として「子は鏡」「芝濱の革財布」あり。十八番としては「慶安太平記」「國定忠治」「鼠小僧」等。趣味―演藝、芝居、散步。

木村忠衛

（品川區南品川二ノ七三）

ポリドール專屬浪曲家として活躍。代表作「愛馬進軍歌」「涙の親子旅」「建設戦記」「噫軍西西住大尉」等の現代物で人氣を博す。

木村重友

（浅草區田島町三〇）

栃木縣下都賀に生れ、下野名代の日光嵐に鍛へられて育つたイキのいゝ關東ツ兒。十五歳の折、米屋で身を立てようと上京し、始めの志とはまるで違つて、先代木村重友師の下へ弟子入りしたのが、師のこの道に於ける振り出して、爾來二十有餘年營々として斯道に精進し、次第にその腕を認められて、東京大震災後間もなく眞打となる。

この頃姉と叔母とを失つて神信心に凝つた師は、ある夜神樂の託宣によつて、自分こそ二代目重友を繼ぐべき者であるとの確信を得ていよいよ藝道に勵んだが、その精通空しからず、遂に木村派の大看板重友の名跡を襲名、去る昭和十四年五月二十六日東京劇場に於てその披露を行ひ、浪界の大真打としてお目見得をなす。

關東浪曲の重鎮木村友衛師とは兄弟弟子の間柄である。

木村友衛 (中野區宮園通五ノ四八)



本名高木民藏、明治三十三年横濱長者町に生れ、幼い頃より上京芝巴小學を卒業す。十歳の年木村重友の弟子となり十六で早くも真打となり天才兒として名聲を轟はる。得意の讀物は「河内山宗俊」「塩原愛馬の別れ」。各社にて活躍してゐたが昨年テイチク專屬となる。代表盤「多助と其の親」「男の行く道」「霧の佐太郎」「馬と兵隊」等がある。趣味！子煩悩と池。

木村若衛

(淺草區田島町七〇) 電話淺草七四二七番



日本浪曲協會及淺草浪曲組員。

代表作品、原藏原作水野草紙脚色「歌枕親子旅」松竹映畫「愛染かつら」等に依つて益々人氣を揚ぐ。趣味！觀劇、スポーツ、映畫、特に洋畫を好む。

京山華千代 (下谷區茅町二ノ二五)

艶麗美妙なる節調を以つて女流浪曲に光彩を放つ。キングレコードより鶴見祐輔原作新興映畫「母」を吹込み好評を博す。外に新興映畫主題浪曲「左甚五郎」義士傳「田村邸の哀別」等がある。

酒井雲 (岐阜市長良町)



本名は酒井玉之助、明治三十一年十二月七日、岐阜市長良町新道に生る。幼にして浪曲を好み、雲右衛門の藝術に憧れるの餘り早稲川大學に學んだが遂に意を決してその門に入り、大正十年三月文藝浪曲と銘を打ち熊本市大和座にて旗揚げし、今日に及んで居る。

十八番は「本能寺」「駕籠幽霊」「雪の渡り鳥」「沓掛時次郎」「大谷刑部」「俊寛」等の新作が多い。最近のヒットは「修善寺物語」「人間光秀」「恩讐の彼方へ」「明智時雨」「集ふ近親」等がある。趣味はお茶、農園。

相模太郎 (品川區大崎本町一ノ七一)

ポリドール專屬浪曲家として活躍。代表盤「新版やくざ唄」「佐倉義民傳」「鼠小僧次郎吉」「石松供養」「安倍川の

島津三藏 (淺草區松葉町五七) 電話淺草九二三九番



本名北野竹治、明治二十八年七月二十一日奈良縣生。十六歳にして浪界に身を投じ大阪親友派に十五ケ年間、其後大正十三年に上京し、昭和四年一月大日本浪曲光榮社を創立、同時に東京浪曲新聞及浪界一般の出版物を刊行し、目下光榮社附屬事業として浪曲研究所を公開、今より十年後の浪曲の世界を目指して新人の養成に努力しつつあり。大日本浪曲光榮社長、浪曲新人研究所長。趣味！藝術、映畫、寫眞等。

篠田實 (杉並區高圓寺四ノ五九四)

兵庫縣福知山の産、幼時より浪曲に志し十五歳の時より日蓄ソシ印(現在のコロムビアの前身)に吹込みをなしレコ

1ドに於ける浪曲吹込みのトップを切る。
震災後同社に吹込みした「紺屋高尾」は俄然ヒットしレコード界初つて以来の物凄い發賣枚数を示し一躍斯界の寵兒となる。
茲來引續きコロムビアの専屬として同社の重鎮として今日に至る。

スズキキヨネツカ
壽々木米若

(龍野川區龍野川町四九三)
電話王子三三二五番

本名藤田松平、明治三十二年四月五日新潟縣中蒲原郡に生る。十九歳にして上京、二十歳壽々木米造の門に入り研鑽。「佐渡情話」によつてヒットし名聲を博す。レコードではビクター専屬として「肉弾三勇士」「堀部安兵衛」「神崎少年時代」等で人氣を揚げ次いでテイチクに移り現在に至る。
代表品「佐渡情話」「乃木將軍」「吉原百人斬」等。
趣味—日本畫。



スエヒロトモツカ
末廣友若

(淺草區松葉町一六)
電話淺草三五一六番

本名伊東秀雄、明治三十九年五月十日栃木縣に生る。郷里小學校卒業後家事手傳ひをなし十九歳にして東家樂燕門下となり燕之丞を名乗る。二十五歳の時末廣友若と改名。昭和十年三十歳の時コロムビア専屬となり現在に至る。日本浪曲協會員。
代表新作品「吹雪の召集令」「火線を守る水兵」。
趣味—角力。



スズキキテルコ
鈴木照子

(淺草區芝崎町一ノ八ノ二)
電話淺草七八一二番

本名久子、大正十四年二月十七日淺草に生る。淺草金龍小學卒業、十二歳にして獨立し浪曲界に入る。その天來の驚異的な美聲と節廻しは一躍斯界の認むる處となり昭和十一年三月、十二歳にして



天才少女浪曲家としてコロムビア専屬となる。翌十三年春招かれて渡米し各地に於て絶讃を博し十二月歸國す。現在日本浪曲協會員。引續いてコロムビア専屬として多くのファンを擁す。代表作「勇士の母」「二人の兵隊」「五郎正宗」「深川裸祭」等多數あり。趣味—讀書、歌劇。

タマガハカッタロウ
玉川勝太郎

(淺草區田島町九三)
電話淺草七〇三番

明治二十九年三月五日牛込神樂坂に生れ神田美土代町で育つた生粹の江戸っ兒、諸官省御用達を勤めてゐた父が初代勝太郎の熱烈なファンだったので、自然同師も勝太郎の熱愛者となり大正二年九月十八歳の時、深川櫻館の樂屋に先代を訪ね次郎の名を貰ひ弟子となる。二十三歳の時神田入道館で華々しく眞打の披露をなす。



大正十四年夏、先代歿後よく玉川派の孤壘を守り、昭和六年十二代目勝太郎を襲名。切々愁ひを囁むやうな独自の哀調響へば得意の「天保水滸傳」を語る時よしきりが鳴く

大利根の表の水の色を感じさせる至藝には、ファンが何時も敬服するところ、その三尺物は天下逸品の稱がある。
趣味—釣、撞球、拳闘、讀書、角力。

ツクバクモ
筑波雲

(中野區仲町一三)
電話中野六三四〇番

本名加藤萬造、明治三十六年三月二十二日足利市生。年少にして浪曲中興の祖故桃中軒雲右衛門の入る。大正十五年渡米、昭和四年筑波雲と改名披露興行を本郷座に於て行ふ。昭和七年再度渡米し翌八年歸朝す。
得意の讀物に「曾我物語」「戦國情話」「乃木將軍」「ナポレオン」等あり。ポリドールレコード秩父重剛作詞「石田三成の最期」「出世の大盃」の二篇特に人氣を博す。
趣味—魚釣、拳闘、映畫、演劇。



テンチウケンウンゲツ
天中軒雲月

(牛込區納戸町三六)
電話牛込六六七番

本名永田とめ、明治四十二年三月二日、名人彫匠として



知られた伊丹雅言氏の三女として東京淺草に生る。七歳の頃から獨流にて浪界に入り、東都の寄席に少女浪花節の花形として出演、大喝采を博す。

當時の藝名は藤原朝子。十七歳の時先代天中軒雲月に師事し天中軒雲月嬢を名乗り、いよいよその天才を認められるに至る。昭和四年から五年にかけて、アメリカまで遠征したこともある。昭和九年五月初代雲月が不治の疾患で再起不能となるや、二代目雲月を襲名し、以來人氣・藝力ともに奔騰、名實共に天下一流となる。因にこの間、夫君永田貞雄氏の熱成な指導と苦心の經營とは、師が今日の聲價を裏づける支柱として忘れ得ない所である。

昭和十四年前半期迄ティチク專屬として「九段の母」「出征兵士の妻なれば」等で名聲を博す。

同年十月ピクターへ轉じピクターの御目見得盤「幼き者の旗」及第二回吹込「愛國草鞋」共に今事變に因む感動的な現代人情物で、所謂七色の聲を使ひ分ける雲月の獨壇場として益々好評を高めてゐる。



天中軒月子

淺草區松葉町九六

本名野村都、淺草向柳原町に生る。十三歳の時故吉田虎衛門につき修業、翌年吉田都の藝名にて舞臺に立ち同年日活映畫會社餘興專屬となり、十七歳にして初代天中軒雲月の門に入り天中軒月子を名乗り現在に至る。昭和七年米國に渡り各地に於て名聲を博す。

代表作「義士傳」、都々逸、追分、博多節外新曲小唄を得意とす。趣味として手藝を好む。

浪花亭綾太郎

淺草區金龍山瓦町二二



關東浪曲界の重鎮、美聲を以つて聞ゆ。ポリドールより「壺坂靈驗記」佐倉義民傳「曾我物語」、リーガルより「め組の喧嘩」「塩原多助」「正宗孝子傳」外十數種を發表す。

林伯猿



（淺草區芝崎町三ノ一）

本名加藤喜一、明治三十九年三月二十四日伊勢津市に生る。十八歳の時獨立初舞臺に立ち文藝浪曲家として名をなし大衆文藝の浪曲化に努力し斯界の風雲兒として名聲を博す。コロムビア專屬として活躍の傍ら明大及日大の浪曲研究會の講師。

代表作「瀧の白糸」「明治一代女」「愛憎峠」、浪曲全集に「三味線やくざ」を發表。趣味—觀劇、音樂。

富士月子

（大阪浪曲親友派本部氣附）



本名築室春江、北海道函館生る。幼少より諸藝を好み特に浪曲に熱中し出して十七歳の春、父母の反對を押し切つて上京、二十歳まで獨流で東京で修業。二十一歳の春、大阪親友派取締井上晴夢氏の肝煎



廣澤虎造

淺草區馬道一ノ一六〇一

道頓堀角座で第一回旗上げ興行をなして大成功を収めて以來、明治座に於ける獨演會、新宿第一劇場の名人會等に數回出演、女流浪界の第一人者たる地位を確保す。

お得意の讀物としては、ピクターより「俠商天野屋利兵衛」をはじめ、「忠臣涙の拾兒」「義人十郎兵衛」「村松三太夫」「大石信清棍川討」「獨眼龍正宗」「は組小町」「報恩捕物美談」等數多く發賣、特に長谷川伸氏が浪曲臺本として提供された「關の彌太つべ」は好評を博す。現在大阪親友派女流代議員。

本名山田信一、明治三十二年五月十八日芝白金町に生る。十八歳の時二代目虎造の門に入り初め廣澤天華を名乗りデヴューす。二十五歳にして三代目虎造を襲名し、コロムビア及びキング等に多數吹込み、昭和六年ティチク專屬となり入社引續き現在に至り關東浪曲界の重鎮として人氣を博す。又日本浪曲協會總務

淺草浪曲一心會々長として斯界に重きをなす。代表作「清水次郎長傳」「國定忠治」「男の魂」等。趣味―野球、觀劇、讀書。

二葉百合子 (葛飾區千葉町八九)



本名大村百合子、昭和六年六月三日生。十一年東武藏の門に入り父東若武藏の指導を受けめきめきと上達しその天才的藝術を認められ浪曲隨一の年少者として少女浪

曲界の白眉として人氣を博してゐる。葛飾小學校三年在學中ボリドル專屬となる。淺草田島町八十一みやこ會に事務所を有す。代表作としては「白虎隊」「北京だより」「乃木將軍」「安兵衛婚入り」等がある。

御門博 (牛込區山吹町二九六)

キングレコード專屬浪曲家。特異な節調と啖阿のうま味を持つて人氣を博してゐる。代表盤としては、「彌太郎笠」「やくざ裏街道」「忠治馬子唄」「江尻の源太」等のやくざ

物の外に法廷哀話「母なればこそ」「黒船お吉」等の新作物がある。又人情讀物としては吉五郎地蔵由來記の一節「唄入り觀音經」がある。

港家小柳丸 (淺草區芝崎町一ノ八ノ二 山忠事務所)

代表盤、テイチク「深川情話」「清水次郎長」。キング「紀の國屋文左衛門」等が名高い。

宮川左近丸 (淀橋區下落合二ノ五六四 宮川桃枝方)



本名佐久間利三、大正十五年一月十五日北海道利別町今金に生る昭和十三年、十三歳の時上京し宮川左近師の門に入りしも入門後日淺くして師長逝せし爲め師吹込のレコードにより浪曲を學ぶ。同年秋キングレコード專屬となり天才的少年浪曲家として人氣を博す。

代表盤「天野屋と河内守」「乃木將軍と孝子辻占賣り」「五郎正宗」等あり。趣味―讀書、映畫、角力等。

吉田奈良丸 (大阪府西成區千本通二ノ七)



本名炭田嘉一郎、明治三十一年十一月六日和歌山縣海南市に生る幼にして既に盛名を馳せ前名一若で眞打として各地に好評噴々たるものがあつた。三代目奈良丸襲名後は浪曲界の覇者としてその豪華なる藝風と雄靈無比の聲節を以つて全國を風靡す。今や第二の浪界維新を目ざして近く新作を以つて嶄新なる演出をなし飛躍せんとしてゐる。代表作、故坪内博士原作、坪内士行浪曲化「桐一葉」。趣味―讀書、玉突。

吉田大和之丞 (兵庫縣武庫郡住吉村八甲田 七四四)

幼少より浪花節を好み、通學の途次浪花節を演じその頃より才能を認められて居た。學業を終ると同時に浪界に投じ、間もなく二代目奈良丸を襲名して大座長となり、奈良丸節を全國に普及して、大流行を見たが奈良丸の名を三代目に譲り大和之丞と改名し浪界の巨星として今日に及ぶ。

梅中軒鶯童 (大阪府天王寺區大道四ノ一二)



本名、美濃寅吉、明治三十五年四月生。師匠なく獨流、全く獨立獨歩、八歳にして眞打となるや、中國、近畿の地を征服、斯道研鑽に身を委ね、今や關西浪曲會の大立物として、當代隨一の人氣王である。輕妙洒脫な口調と流麗な節調を以て旭日昇天の勢で全國を席捲してゐる。「紀文」「吃又」「吉原百人斬」などの讀物の他新作物に精進「楠木正行の母」「熊谷出陣」「鐵の男」等多數あり。趣味―觀劇。

東家樂遊 (深川區東森下町三一)

浪曲東家派の中堅、代表盤としてはコロムビア「山科妻子別れ」「葛の葉子別れ」「忠僕直助」、長谷川伸原作「源太時雨」、ボリドル「小松嵐」等が著名である。

東家三樂 (足立區千住仲町七)

コロムビア専屬浪曲家。リーガル盤に五十數種吹込みをなし定評あり。代表盤「日本人此處にあり」「形見の日の丸」「噓北滿の烈士」「大尉の娘」「譽れの日本刀」「三樂雪月花」「雪の夜の別れ」「三日月の影」「行宮の櫻」等々あり。

東天晴 (岐阜市西野町六丁目)

コロムビア専屬浪曲家、曲師東天紅とコムビにて活躍す。代表盤「梅ヶ枝手洗鉢」「關取千兩幟」「石童丸」「阿波の鳴門」「五郎正宗」「壺坂寺」「佐倉宗五郎子別れ」等多數あり。

京山小圓嬢 (テイチク専屬)

女流浪曲家として京山幸枝、春野百合子と共にテイチク専屬として競演、代表盤としては「三吉馬子唄」「櫓太鼓」「五郎正宗」「お吉しぐれ」「野崎村」等が好評を博してゐる。

天中軒雲月嬢 (牛込區納戸町三六) 電話牛込六七七番

本名豊子、本年十三歳、雲月の娘、幼時より父母の薰陶を愛け愈々母の前名二代目天中軒雲月嬢を繼ぎ本年五月二十六日から四日間東劇と明治座にて襲名披露浪曲大會を開催す。これにて全国各地へ横行するニセ雲月嬢は解消す。デヴュー讀物は「九段の母」「乃木將軍と辻占賣」「文七元結」「祐天吉松」。

浪曲作詞

本田哲 (ピクター文藝部氣附)

明治十八年十月二十一日、小倉市大阪町に生る。福岡修猷館中學を中途で飛び出し丹波篠山鳳鳴義塾へ父に強いられて轉じたが、東京へ出奔、十九歳にて早大政治經濟科に學ぶ。明治三十八年八月、日露戰役に姫路後備歩兵第三十

九聯隊長としての父の戦歿に遭ひ、心機一轉、浪界に志し以來三十年、明治、大正、昭和の三代に跨り浪花節と始終して今日に至る。

最初に浪曲と縁を結んだのは、時の法制局長官古賀廉造氏の紹介にて早川辰燕師(前の早川燕平、現在の敷島大藏)の預け弟子となり、本多燕左衛門と名乗つたに初まる。數年ならずして眞打となる。後、佛惡兵衛なるペンネームのもとに大衆文學を數多くものす。約十五年にして高座を退き、専ら浪曲臺本の創作に没頭し、その新機軸に努む。米若の「佐渡情話」、雲月の「杉野兵曹長の妻」酒井雲の「恩讐の彼方へ」は氏の傑作中の傑作で一世を風靡す。その他浪曲臺本は數百種に及び、斯界の元老格となつて居る。昭和十四年十月日本ピクター専屬となる。

秩父重剛 (府下北多摩郡昭和村中神)

昭和十二年コロナレコード創立と共に文藝部長となり、後ポリドル文藝部員となる。本年三月退社しポリドル専屬作詞家となる。浪曲作詞家として數十種の商品を發表又流行歌作詞家としても活躍す。(第三編參照)

浪曲作詞代表作「忠治信州旅日記」「馬子唄忠治」「荒神山」「板割淺太郎」等のやくざ物の外に「上海だより」「妻戀道中」「愛馬進軍歌」等の新作物多數あり。

畑喜代司 (小石川區高田老松町五八)

キングレコード専屬浪曲作詞家。嘗つて流行歌作詞家として昭和八九年頃コロムビアにて活躍。「右門捕物帳」其他の主題歌を故作曲家多島紀磨氏とコムビにて發表す。後浪曲作詞に轉向。代表作「越後獅子祭」「唄入觀音經」等あり。

水野草庵子 (赤坂區新町三ノ三三)

本名順治、明治卅五年七月十五日茨城縣那珂郡大場村に生る。横濱二中卒業後、立教大學神學部に學ぶ。昭和二年日蓄文藝部に入社顧問たり。同十二年同社専屬浪曲作詞家となり縦横無盡の筆を振るつてゐる。

代表作「俊寛」「滅び行く忠治」「伊賀の水月」「城山の月」「佐渡の日蓮」「滿洲お柳」「古賀聯隊長」「召集令」「軍國子守唄」等百種を越ゆ。趣味——カメラ、撞球。

萩原四郎

(杉並區堀ノ内一ノ一三)

現在浪曲作詞家の第一人者として、コロムビアの水野草庵子と共に斯界の双壁として最近目覚しく活躍す。

最初タイヘイよりスタートし、テイチク其他より新作を矢継早に發表し、レコードに、放送に飛躍す。

最近の力作としてはタイヘイ「妹よ母を宥せ」「愛馬と共に征く」(富士月子)テイチク「さめざめ街道」(廣澤虎造)「赤穂の人妻」(梅中軒鶯童)等で益々人氣を博す。

小菅一夫

(目黒區洗足一、三二二)

明治二十七年十月東京市淺草に生る。長谷川伸門下、故伊井蓉峰の知遇を得て新派文藝部に入る。ピクターにて玉川勝太郎に「新版平手造酒」流轉篇を書きヒットし、續いて道中篇、劍俠篇を書き好評を博す。續いて梅中軒鶯童に「權太栗毛」「西住戦車長」を書き、鶯童と共に昭和十四年十一月テイチク文藝部へ入社、現在に至る。演藝書報社囑託。趣味—讀書、觀劇。

講談

大島伯鶴

(瀧野川區中里町二四八) 電話駒込二四〇九—一〇番

本名大島保利。講談界の元老、東京講談組合幹部。御前講演數回、高座にラヂオに活躍す。

レコードはピクターに「出世角力」を録音し好評を博す。(文部省推薦盤)

神田伯山

(淺草區馬道町中村屋)

釋界の大御所、本年六十九歳。十三歳の時故神田松鯉の弟子となつてから釋臺を叩くこと茲に五十有餘年、門弟、孫弟子二十數氏を數ふ。高弟として伯龍、ろ山、松鯉、故伯治、山陽などがある。趣味—祭禮、神輿が好き。

一龍齋貞山

(神田區旅籠町三ノ八) 電話下谷六三三—二番

本名榊井長四郎、明治九年銀座の老舗袋物問屋富田屋に

生る。火災に遇ひ悲境に陥り十一歳の時釋界の變り者と言はれた花井晴山に頼み四代目貞山の門に入る。十五歳の時師に死別し邑井吉瓶に引きとらる。明治三十八年一月十五日横濱若松亭に出演中召集令を受け、南山を経て奉天軍の左翼馬山家子で三月二十一日左足に名譽の負傷を受く。同三十九年に六代目貞山を繼承す。お家藝は「伊賀の水月」だが現在では赤穂義士傳を専賣とし高座にラヂオに名聲を揚げてゐる。

代表盤、ポリドールより「堀部安兵衛」「大竹重兵衛」「赤垣源藏」等を發表。趣味は蒐集癖。

神田伯龍

(下谷區上野櫻木町一八) 電話下谷五一—二四番

本名戸塚若太郎、明治二十三年淺草新福井町の帽子屋に生る。幼時驚風の蟲を患ひ右肩が不自由の爲め家業を繼がず、十四歳の正月神田伯山の門に入り伯梅を名乗り、大阪へ脱走したが詫がかなつて翌年歸京五山と改名、二十三歳で伯龍を襲名眞打となる。久保田万太郎、小島政二郎、喜多村綠郎、森曉紅、故水上龍太郎等と交友があつた爲め文學に興味を持つ。

十八番物は「小猿七之助」「河内山」「柳澤騒動」等である。趣味—文學、清元、踊り、酒等。

神田山陽

(四谷區傳馬町二ノ二) 電話四谷七六六七番

故神田伯山門下の高弟。新作「江南に散る華—伴田工兵伍長の戦死」を吹込み好評を博す。

(備考) ろ山、貞鏡、燕林、若燕、圓福、蘆洲諸氏はレコード方面に餘り關係なき爲め講談組合の申越に依り省略す。

落語

桂文樂

(下谷區黒門町二二)

ピクターより「寄合酒」「船徳」「素人義太夫」を發表す。

桂春團治

(吉本興業部内)

吉本興業部專屬落語家として活躍。二代春團治を繼承す。

代表レコードとしてビクター「祝ひ鬘斗」「八問答」テイ
チク「食堂車」「五里五里いも」「あべこべ仁氣」リーガル
「いかけ屋」「へつつい盗人」等で人気を呼ぶ。

桂 カツラ 小文治 コブンヂ (牛込區矢來町二二二)
電話牛込一九七一番



本名稻田祐次郎、明治二十六年
二月二十八日大阪市に生る。十四
歳の時七代目桂文治の門に入り桂
小若と名乗り初高座に上り、二十
四歳の時米丸と改む。二十五歳の
秋上京し東京にて活躍、二十六歳
の時桂小文治と改名し今日に至る。日本藝術協會々員、新
作落語を得意として絶讃を博す。
趣味—演劇。

桂 カツラ 三木助 ミキスケ (吉本興業部内)

明治十七年生れ、本名、松尾利雄。十一歳の時、故桂南
光の門に入り、「桂おもちや」を名乗る。十年後の明治三
十八年、日露戦役に従軍、鴨綠江軍として出征す。翌三十

九年凱旋後、二代目桂三木助を襲名し、同時に眞打披露目
をなす。明治四十三年、東京に出で、三遊派に属したが越
えて大正五年歸阪し、のち神戸で一座を組織す。
大正十一年以來、吉本興業に専屬し、今日に至る。上方
落語の本領と眞面目を發揮し、そのはなしくちに溢さをも
つてゐる。趣味は野球見物、玉突、寫眞。

桂 カツラ 右女助 ウメスケ (本所區太平町一ノ二四)

キングレコード専屬落語家として。代表盤として
「女中志願」「根ほり屋」「風呂敷」「あま夫婦から夫婦」「支
那そばや」等がある。

三遊亭金馬 サンユウテイキンバ (四谷區内藤町一)

コロムビアレコード専屬として知らる。「手紙無筆」「居
酒屋」はその十八番物として定評がある。リーガル盤に
「銃後の八さん」「上海土産」「長屋の算術」「相撲放送」等
々の新作落語を吹込み好評。

春風亭柳橋 シュンフウテイリュウキョウ (牛込區中里町二四)
電話牛込六二三八番



本名渡邊金太郎、明治三十三年
十月本郷森川町に生る。十四歳に
して春風亭華柳の門に入り柳童と
名乗り初高座に上り、二十二歳に
して小柳枝を襲名、二十五歳の時
柳橋と改名し今日に至る。此の間
日本藝術協會長を十年來務め落語界の發展に努力す。新作
落語を次々と發表喝采を博す。レコードはキング専屬とし
て多数吹込みをなす。代表作「壘屋の兵隊」「洋行がへり」
「御難ア。パート」等。趣味—競馬、魚釣。

春風亭柳枝 シュンフウテイリュウジ (本所區東兩國町四ノ一八七)

七代目柳枝を繼承。テイチクに「芝居狂」「獨り者」「戀
わづらひ」等を吹込む。

春風亭柳好 シュンフウテイリュウカウ (本郷區駒込千駄木町二五五)

キングレコードに「がまの油」「電車風景」等を吹込み
好評を博す。

昔々亭桃太郎 セキセキテイモモタロウ (牛込區南町三三)

リーガルレコードに「俳句修業」「晦日行進曲」「ラブレ
ター」「ジャズ長屋」「おしやべり小僧」「オヤチ教育」等の
新作を吹込み名聲を揚ぐ。ビクターより「口入屋」「貸間」
「支那語」等を發賣更に人気を博す。金語樓師の令弟。

林家正藏 ハヤシヤショウゾウ (下谷區上根岸八九)
電話根岸二七九七番

本名、海老名竹三郎、明治二十一年日本橋馬喰町の絹糸
染物屋の息子として生る。少年時代より座席が好きで伯龍
など、天狗連を組織してゐるうちに好きが昂じて遂に先代
談州樓燕枝の門に入り、桂枝と名づけられ、春輔、小燕枝
と段々看板がよくなり、沼津で百歳の長壽を保った先代林
家正藏の懇望に依りその名を繼ぐ。新作落語の考案が唯一
の楽しみで今日まで「夢そば」「風流志道」「軒島めぐり」
「精進だめし」「梅川忠兵衛」「黄金とり」「亡者宿」などの

新作を書く。嘗つて話術研究の爲めに脚本朗讀を寄席で試みた最初の落語家である。

得意のものは「品川心中」「居残り佐平次」「神奈川宿」「トンチキ」「今戸の狐」「寢床」等。代表盤はビクター「三三九度」「無筆の手紙」「夜店」「相撲見物」、ポリドール「湯屋番」等を吹込み定評あり。

柳家 小さん (麴町區紀尾井町)

麴町區紀尾井町の疊屋の忤として生る。姉が富士見町に藝者屋を出してゐてその筋向ひが柳家小さんの家だつたので少年時代より小唄を覚え込み、遂に小さんの許に入門す。十九歳の時よりその天分は日毎に發揮され、小きく、小きん時代を過ぎ二十六の時に眞打となり小三治となり、蝶花樓馬樂となる。師小さんの死に遇ひ襲名す。
趣味—俳句。

柳家 金語樓 (牛込區矢來町三四)

本名、山下敬太郎。明治三十四年三月十三日東京市芝區金杉に生る。明治四十年春滿六歳にして故人初代三遊亭金



して其一黨を組織す。

目下テイチク專屬として活躍、得意の「兵隊落語」で一躍名聲をあげ數多くの新作を發表す。

柳家 三亀松 (本郷區根津宮永町一番地)

電話下谷五六七七番



本名伊藤龜太郎、明治三十五年四月一日深川區木場に生れた生粹の江戸ッ子、幼時より父の業務(材木商)を手助しつゝ成長す。

長ずるに及んで、氏の天性の美音は豊後三流の一つたる新内淨瑠璃を志ざすに至る。其の後父が業務失敗のあとうけて日夜苦心せるも及ばず、長男としての責任は双肩にかゝるも敢然藝界に身を投ずるに至る。東京の寄席に、或は

地方の劇場に出演しつゝ、弟妹を育て上げし氏の孝心は、やがて大阪吉本興業部へ入社するに及んで俄然其の名聲は全國津々浦々に知らるゝに至る。

「新婚箱根の一夜」は出世作といはねばならぬ。次後一途に人氣が加はりレコード會社より吹込を依頼され寧日なき日を送り、やがてコロムビアよりの招に應じて欣然入社專屬藝術家として同社の重鎮となる。ヒット盤として「花嫁行進曲」「女夫人形」「巳の吉殺し」「唐人お吉」「慰問袋」「投ケ節おもん」「新内情話」「滑稽五人男」「明治一代女」「新宿の一夜」「都々逸集」外二百餘種。尙氏の都々逸は天下一品の稱がある。吉本興業部及コロムビア專屬。
趣味—フランス人形、ボクシング、ダンス、寫眞等。

柳家 權太樓 (世田ヶ谷區三軒茶屋町一二三)

電話世田ヶ谷二九〇〇番

本名、北村市兵衛、明治三十年九月二十五日本所に生る。父は工業、母は商業を望み一人息子だつた爲めに双方の意志を重んじ機械製圖もやれば商業簿記もやる。其の間義太夫を好み十八歳の頃大阪に行き二代目竹本越路太夫の門に入り竹本越羽太夫の名を貰ふ。其後母の死に逢ひ、二十五



外新作落語をコロムビア及リーガルに凡そ百編吹込む。

趣味—繪畫、旅行、動物、運動、讀書等。

柳家 初太郎 (京橋區木挽町八ノ七)

電話銀座六六三八番



後幫間柳家を創設家元として現在に至る。

代表作、ビクターより「江戸囃子」「隅田踊り」等を發表
趣味—骨董、競馬。

映畫説明・物語・漫談

井口 静波

(京橋區築地三ノ四)
電話京橋四四七六番



本名誠一、明治三十一年三月十五日麻布筆筒町に生る。大正六年五月より同十年十月迄、日活映畫説明者として勤務、大正十一年五月より昭和六年五月迄松竹映畫説明者として勤務、昭和六年六月漫談家として獨立し、同十年十一月キングレコード専屬として現在に至る。昭和十年九月日本漫談學校を創立して校長となる。井口静波プロダクションを設置し「浪曲學校」を出演撮影をなす。

代表作「浪曲學校」「花嫁學校」「チンタ學校」等。
趣味—芝居、拳闘、ラグビー、野球等スポーツ一般。

泉 詩郎 (大阪市西成區玉出本通二ノ四一)



本名姫路與四郎、明治三十八年岡山市に生る。岡山市帝國館にて物語研究生となる。大正十三年より大阪道頓堀朝日座に出演、此の間十年間主として現代物の映畫説明者として活躍す。
昭和三年頃よりコロムビアに入社、茲來十二年間毎月一、二種づゝ映畫物語を發表好評を博し現在に至る。

代表作「人妻椿」「愛染かつら」「父よ貴方は強かつた」「軍國子守唄」等。
趣味—旅行、野球等。

大辻 司郎 (品川區五反田六ノ一九一)

映畫説明華やかなり頃活躍し、後漫談を創始し獨得の聲調を以つて人氣を博す。昨秋桑港萬國博覽會見物に米國へ渡る。レコードでは漫談「エチオピア綺談」「戀愛試驗」「東京見物」等をホリドールより、「滑稽演説」をピクチャーより發表す。

熊岡 天堂



嘗つて活辯華やかなり頃映畫館にて説明者として活躍す。コロムビア・リール盤に映畫説明「櫻田血染の雪」「池田家月下の亂闘」「吉良の仁吉」等を吹込みして好評を受く。

伍 東 宏 郎

大阪道頓堀の映畫街に於ける映畫説明のナンバーワンとして長らく活躍す。レコードには昭和七八年以來コロムビア専屬として「近藤勇」「月形半平太」「國定忠治」「丹下左膳」等數十種をリール盤に吹込み人氣を呼ぶ。

鈴木 光 太郎

ホリドールの映畫物語に於て活躍。「明治一代女」「大尉の娘」「江戸節めをと巻」「しぐれ峠」「妻戀道中」等の新作に人氣を博す。

靜田 錦波



(葛飾區本田川端町六四)

本名高岸近治、明治三十三年十二月二十日佐渡に生る。郷里中學卒業後二十歳にして映畫界に入り説明者として地方に埋もれること二年、後松竹キネマに入社しトキキ！完成の最後まで松竹に在社し映畫説明者として活躍す。

コロムビアレコード専屬たること六ケ年にしてキングレコード専屬となり今日に至る。
代表盤、歌謡物語「上海の花賣娘」、歌謡ドラマ「南苑死の一番乗り」、軍歌物語「あゝ我が戦友」「愛馬行」、映畫物語「からゆきさん」「婦人從軍歌」「歌姫懺悔」外多數。
趣味—スポーツ見物、撞球、圍碁等。

谷 天 郎

(品川區正反田町一ノ二五二)

明治二十六年一月一日神田に生る。大正二年淺草オペラ

館にて映畫説明者となり「オーバセシル」で大正十二年五月、良子女王、東久通宮殿下の御前説明の榮を擔ひ昭和九年には秩父宮殿御前説明の榮を賜はる。

ポリドールで「忠治旅日記」「丹下左膳」等の映畫物語、「歌の慰問袋」等の歌謡解説、「名月赤城山」「旅のつばくろ」等の歌謡物語を出して活躍す。

西村 樂天 (赤坂區高樹町一四) 電話青山一四八九番



本名西村吉藏、明治十九年五月十四日銀座尾張町に生る。府立一中出身。講談、映畫説明を経て現在漫漫家、演藝會に於ける氏の司會は著名。令聞は小唄家元として藤村孝、愛媛は長唄稀音家六笑を名乗り共に藝界に立つ。
「天津前線」「寒山寺」「臺舊莊第一線」等に於ける放送録音あり。著書「背廣を着て従軍四百日」あり。
趣味—旅行、ゴルフ、スキー等。

徳川 夢聲

淺草にてトッキー以前映畫説明界で人氣を博し、後漫談及聲帶模寫を創始して活躍。レコード界ではポリドールに漫談「音楽會」を、ピクチャーに浪漫曲「兎と亀」を吹込み異色盤として大衆に歡迎さる。

古川 綠波 (東寶劇場事務所内)



明治三十六年八月東京麹町五番町に生る。早大英文科在學の頃より映畫に非常な興味を抱き、當時すでに映畫人として才腕を現はす聲帶模寫の創案によつて氏の漫談も一段の精彩を帯び、淺草に「笑ひの王國」が組織されるに及んで舞臺人としての活躍期に入つたのであるが、昭和十年轉じて東寶專屬となつて遂に帝都丸の内有樂街に進出し、東寶古川綠波一座を組織、同年六月有樂座での初演「歌ふ彌次喜多」は俄然センセイジョンを起す。爾來東都隨一のモダン・コメディアンとして

漫談

横山 エンタツ (大阪市住吉區千代田町三四)



本名石田正見。明治三十一年四月姫路に生れ、尼ヶ崎に轉住その地の中學校を卒業。初めは父業を繼ぎ、醫者を志したが後仁術を行ふ志を一轉、舞臺より人々を慰藉せんことを希ひ、十九歳の折某喜劇一座に加入した後自ら一座を作り、笑ひの舞臺に一新機軸を作らんと種々苦心の結果、漫才に轉じ二人漫談の新形式を作つて既に十五年、目下吉本興業に屬す。趣味はハイキング、子供に繪本を讀んでやること、少しばかりお酒。

杉浦 エノスケ (吉本興業部内)

本名杉浦仁。明治三十年七月生る。若くして喜劇界に立

獨得のユーモアを盛つた演技は、氏の名家藝であり、また特異の歌ひ振りも大衆の人氣を博しつゝある。ピクチャーレコードによる聲の躍動は「ハリキリ・ボーイ」「アホかいな」「背開迫れば」等流行歌界や漫藝に一異彩を放ちつつあり。現興行界の一大惑星である。

西村 小樂天 (芝區明舟町八)

樂天の門弟。ピクチャーより漫談「モダン彌次喜多」ジャズ漫談「銀ぶら」等を出して好評。

山野 一郎 (中野區本郷町三五)

ピクチャーにて映畫説明「怪盜ジゴマ」を出して嘗つて活辯華やかなりし頃の面影を再現人氣を博し、歌謡物語「チヨコレイト兵隊」「愛兒の手紙」「日の丸音頭」「日の丸行進曲」「愛馬進軍歌」等の時局物で當て、立體漫談「アダムとイブ以前」レコードバラエティ「懐しの淺草」等で好評を受く。尙ポリドールより映畫漫談「ジンタからトッキーまで」を發表す。



ち、早くより斯界にその名を知られてゐた。エンタツとは昔より親友関係である。エンタツ・アチャコのコムビが解消されると同時にエンタツの相棒となり、爾後エンタツ・エノスケの名は二人漫才名コムビ中の名コムビとして東西の漫才界を風靡するに至る。

花菱 アチャコ

(吉本興業部内)



日本漫才界の名コンビ、アチャコ・今男の奇想天外抱腹絶倒的掛合話術は、昭和の奇蹟と稱しても取て過言ではあるまい。之を聴き笑はざるものは人に非ずといふのが一般の定評である。

花菱アチャコは明治三十一年七月大阪に生れ、中學卒業後十九歳まで家業の獵銃商に従事したが、藝界にあこがれ山田九州夫の門に入り諸藝を学ぶ。大正十二年吉本興業に

入社、千歳家今男とコムビになり、第一回漫才人気投票に一等當選す。故あつて昭和五年今男とのコムビを解き、横山エンタツと名を連ね、二人漫才の新型式を創りいよいよその藝名を高く謳はれること、なつた。昭和十二年、エンタツとのコムビを解き、再び今男と結び、一層の進境を見せ今日に至る。趣味は野球と映畫(外國物)。



千歳家 今男

(吉本興業部内)

千歳家元、明治三十年一月九日出生。若年にして新派俳優伊井蓉峰の門に學ぶ。後轉じて漫才界に入り千歳家の家元として多くの弟子を養成す。アチャコとのコムビの經過は前に述べた通り。趣味

は植木、魚釣り。

秋山 右楽

(吉本興業部内)

漫才界にこれほどびつたりした互ひに血の通つた名コム

ビは又とないと云はれてゐる。それもその筈、右楽左楽は正真正銘血を分けた兄弟なのである。富山縣の産。

兄の秋山右楽は明治四十年一月二十五日生れ。攻王社工學校卒業後藝界に興味を抱き、喜劇の秋山道樂の門に入り二枚目として活躍す。後轉じて漫才界に入り、喜劇時代の師匠の亭號を貰ひ秋山を名乗る。昭和元年中學卒業早々の弟を招き、兄弟揃つて名古屋歌舞伎座にて漫才の初舞臺をつとめた。爾後その珍妙な身振りと言さばきは大衆の好評噴々。昭和七年吉本興業と專屬契約を結び今日に至る。趣味は映畫と散歩。

弟の秋山左楽は大正三年三月二十日生。富山神津中學校を卒業後家業に従事してゐたが、兄右楽に奨められて漫才界入りをし、兄右楽の女房役として兄に劣らぬ藝達者振りを見せ、前途大いに囑望されてゐる。趣味は讀書と映畫。

玉松 一郎

(京都市左京區北白川別堂町九九)

最近の漫才界に新進の異彩として非常な人気を集め出したコムビである。タテ役ミス・ワカナは明治四十四年八月



京都市右京區西院にオギヤと生れ、ロキ役の玉松一郎氏は明治三十九年二月、高知縣高知市南與力町にやはり赤ちやんとして飛び出した。昭和六年頃漫才の興隆に乗じてワカナ一座を結成、全国各地を巡業するうち、昭和十二年三月吉本興業に併合、そのアタの利いた心藏藝と才ばしツた話術とは大向ふの好みに投じて忽ち最前線に立ち、十三年一月には「わらわし」隊に參加して中支皇軍慰問、同八月東京日劇エノケン一座に加入登場、同時に東寶映畫「水戸黃門漫遊記後篇」に初出演し最近新興キネマ映畫漫才「黄金道中」に出演。いづれもその人気を裏書きしてゐる。ワカナ氏の趣味は、藝事多方面に亘り、就中三味線とダンスが殊に好きださうな。玉松一郎氏の方はアコーディオンその他樂器を上手に操り、餘技であるのみならず、舞臺でも大いに役立つてゐる。

砂川捨丸

(神戸市兵庫區水木道三ノ四九)



本名池上捨吉、明治二十三年大阪府下三島郡に生る。十歳の時故兄千丸に師事、小學校卒業後捨丸と名乗り兄千丸と共に舞臺へ立ち各地を巡業す。十五歳の時兄と別れ大阪にて出演、二十八歳の時神戸に行き大正十年獨立して籠寅會を主宰す。

十數年來コロムビア專屬として中村春子とコムビで活躍レコード萬歳界の元祖、重鎮として今日に至る。代表作「捨丸の出征」「捨丸ぶし」「冥途旅行」等枚舉に遑なくレコード吹込數百種を越ゆ。趣味―撞球、狩獵。

中村春代

(神戸市港區相生町五ノ八八二)



本名中山シモ、明治三十四年神戸市に生る。十八歳の時中村種春の門に入り中村春代と名乗り萬歳界にデヴューし各地に興行す。二

十二歳より砂川持丸師とコムビとなりコロムビアレコード專屬として吹込みをなし人氣を博し、地方へ巡演、現在に至る。籠寅會に所屬す。代表作「混戦歌問答」「萬歳學校」等コロムビア吹込レコード百種を越ゆ。趣味―映畫。

鹿島洋々

(吉本興業部内)

明治四十一年京都に生る。吉本興業部で初めは專屬落語家として高座に上つてゐたが昭和九年酒々たる漫才熱の勃興に刺戟されて轉向す。洋々たる漫才界に鹿島立ちしたところから鹿島洋々と命名、初め松葉家奴を相手としてゐたが最近深田繁子と共に吉本興業で活躍す。

レコードはビクターより皇軍慰問荒鷲隊北支班從軍土産「北京見物」「島巡り」等がある。

深田繁子

(吉本興業部内)

本名を以つて藝名とす。島根縣に生れ四歳の頃より父と共に本場ものの安來節を歌ひ歩いたと言ふ涙ぐましい物語の持主、十六歳にして吉本に入社、二十三歳の春漫才に轉向、鹿島洋々氏のみきコムビとして活躍してゐる。

東喜代駒

(神戸區松富町一九) 電話下谷二一七二番



本名武井喜代次、明治三十二年四月八日上州館林秋元藩士武井中衛の次男に生る。十四歳より神田川東京廻米問屋、關商店に商業見習として入り、二十一歳の春滿期退社、下谷練堀町に於て獨立し白米卸小賣商を營む。大正十年現住所に移轉し、關東大震災より藝界に轉向し獨創漫劇、漫談を修業、東喜代駒劇團を主宰す。次女艶子嬢は東洋音樂學校本科在學中。趣味―詰碁、將棋、買食ひ等。

三遊亭川柳 一輪亭花蝶

(日蓄文藝部氣附)

コロムビア專屬。滋味のあるうちに滑稽を盛つたもので人氣を博してゐる。「漫才師の出征」「川柳の上海上陸」「體位向上」「魚釣り」等多數をリーガルより發表す。

リーガル千太

(淀橋區下落合二ノ六四七) (王子區稻付町三ノ一〇)

コロムビア專屬、リーガル盤にて活躍す。「朗らかな兵隊」五枚續き、「有閑マダム」「ウソの世の中」「身上相談」「娘適齡」「支那の夜」「友情二重奏」等百種近くを發表、益々張り切つてゐる。

アザフ・伸

(麴町區平河町一ノ十一ノ五) 登龍莊アパート

キングレコード專屬、アザフ・ラブ及び秩父照子とコムビにて活躍。「漫才從軍記」「僕の老へ聞いとくれ」「混線放送」「代用品時代」「奥さま教育」「花嫁候補」「超とくさく健亡症」等々をキングより發表異常なる好評を博す。

東ヤジロー キタハチ

(淺草區松葉町二二) 交樂莊アパート内

松竹演藝部のピカ一漫才としての名コムビ。キングレコード專屬として活躍、本年三月專屬再契約をなす。松竹技

藝員としてレコード臺本を舞臺で、舞臺々本をレコードで
兩天秤にかけての活躍をなす。
代表盤としては「商賣讀本」「花嫁讀本」「健康時代」「僕
の結婚」等がある。

香島 ラツキー

(京都市左京區淨土寺馬場町
三六)



本名香島慶一、明治四十二年四
月十二日北海道に生れ東京にて育
つ。神田専修商業學校を卒業して
三越本店の店員となる。幼少の頃
より錦心流琵琶を習ふ。三越を退
社して琵琶劇に入り後喜劇俳優と
なり、昭和九年より新しき内容をもつた漫才師を志し、御
園セブンと共にコムビして吉本興業部に入り、更に昭和十
四年春、新興キネマ演藝部創立に際し招かれて専屬となり
現在に至る。

レコード方面では昭和十三年よりテイタク専屬となり、
「實況放送」「家庭風景」其他を吹込み好評を博す。
著書、昭和書房より「僕の漫才集」を出す。

趣味—犬、ダンス等。

御園セブン

(京都市東山區白川筋三條
下ル梅宮町四八四白川莊)



本名八ッ代喜三男、明治四十二
年一月三十一日東京に生る。昭和
九年香島ラツキーとコムビにて吉
本興業部に入り、同十四年三月新
興キネマ株式会社演藝部創立と共
に専屬となり現在に至る。代表作
レコード。ラツキーと同じ、前項参照。趣味—讀書、音
樂。

島 堀江洋子

(大阪花月劇場)

大阪道頓堀に於ける漫才界の人気者、レコードはタイヘ
イに據つて活躍してゐる。

代表盤、「泣かせてネ」「箱根八里」「赤い唇」「女國定」
「藝者戦術」「甘い思ひ出」等多數あり。

増補

井上貫也

(世田ヶ谷區北澤三ノ九五〇)
電話松澤二六六八番

テナー。明治四十四年三月三十一日生。帝國高等音樂學
院卒業、原信子、ベレッタイ、平間文壽に師事、第五回音
樂コンクールに入選す。現在帝音講師、大日本音樂協會員。

大塚潤一郎

(荒川區日暮里町八ノ一三九)

アコーディオン。トンボ・ハーモニカ手風琴製作所技
師、日本ハーモニカ聯盟理事。

大谷冽子

(日本ビクター文藝部氣付)



廣島に生る。父徳馬氏が中學校
長だったので廣島、鹿兒島、長野、
埼玉等に轉住し、川越高女卒業後
武藏野音樂學校に入學し、齋藤靜
子、ウハーベニツヒ女史等に師事

首席にて卒業、讀賣新聞社主催の新人演奏會に出演す。

目下原信子女史に師事、姉の澄子さんは國立出身のピア
ニストである。昭和十五年五月ビクター専屬歌手となる。

大塚 淳

(新京市興亞街二一七)

新京市民生部囑託指揮者。明治十九年一月十六日生。東
京音樂學校本科出身、安藤幸子、ユンケルに師事。昭和六
年獨逸留學より歸朝、母校の教授をせしことあり。大日本
音樂協會評議員。
作品「御大禮奉祝行進曲」其他あり。

奥好察

(牛込區加賀町一ノ七)
電話牛込五四六五番

宮内省樂師。明治十六年四月二十三日生。故ヅアラウイ
ツチに師事、提琴、洋琴、龍笛の奏者、作曲作品數種あり。

多忠朝

(牛込區若松町一二九)

宮内省樂長。龍笛、グイオラ奏者。

大場 勇之進

(京城府壽町四五) 電話本局一八三九番

明治二十年十一月一日生。東京音楽學校本科出身。京城第一高女講師。唱歌曲及獨唱曲多數あり。

大岡 延夫

(杉並區下高井戸一ノ一五)



明治四十一年七月三日北海道札幌市に生る。ギター、マンドリンの研究、演奏、及び之れに關する作編曲多數あり、全音楽譜出版社より曲集數種を出版す。

小川 浩一郎

(淀橋區柏木町四ノ九六二)

リリック・バリトン。明治三十二年十二月二十七日生。豊島師範出身、赤城小學校訓導。

小倉 末子

(赤坂區永川町三) 電話赤坂三五九番

ピアニスト。東京音楽學校を中途退學して歐米に留學し

伯林ホツホシユールにてバルトに師事す。歸朝して東京音楽學校教授となり現在に至る。

小原 敬司

(京橋區銀座西八ノ三) 電話銀座九一八番

音楽舞踊寫眞通信社主。大日本音楽協會員。

神戸 絢子

(麴町區中六番町五四) 電話九段二二三七番

ピアニスト。東京音楽學校本科出身。佛國に二ケ年間留學す。前東京教授。

北澤 宏元

(杉並區阿佐ヶ谷六ノ一〇六)

指揮者。ユーフォニック・コーラス主宰。國民音楽協會理事。

城戸 芳彦

(本郷區弓町二ノ一) 電話小石川三七八九番

大日本作曲家協會顧問辯護士。辨理士。

國枝 一郎

(澁谷區原宿一ノ一〇〇)

東京音楽學校甲種師範科卒業、青山小學校訓導。

久保 田 稻子

豊島區雜司ヶ谷町四ノ五九九) 電話牛込三六三〇番

ソプラノ。明治三十四年十二月四日生。東京音楽學校本科出身。伯林に留學、アンナ・ヴェルナー及びリリー・レマンに師事す。現在東洋音楽學校講師。

小唄 藤兵衛

(北京市東城演樂胡同三二號)



小唄歌村派家元。本名、小山光次、明治二十九年十一月五日京橋區築地一丁目に生る。明治四十四年三月立教中學校二年修業後同年五月株式仲買小布施商店に入り十三年間株式界に身を投ず。

大正十二年小唄師匠となり歌村派家元となる。昭和十年滿洲國ハルビンへ赴き昭和十三年天津に移り一ケ年にして

現在北京に在住す。

小西 誠一

(鎌倉市小町六七)

評論家。筆名、松本太郎、山田忠夫。明治二十四年四月一日生。慶大理財科及文科出身。オルケストラ・シンフォニカタケキ相談役。「マンドリン・ギター研究」編輯委員。大日本音楽協會員、日本現代作曲家聯盟賛助員。

小村 三千三

(日本ビクター文藝部氣付)



作曲家。相州三浦三崎に生る。明治中學を経て大正十四年東京音楽學校ピアノ本科を卒業。昭和元年より三ケ年間東京府立三中教諭昭和四年以後寶塚少女歌劇學校豫科教授として十五年三月まで十一年間、作曲、指揮、並に新人養成に當り幾多のスターを育成す。昭和十五年五月日本ビクター専屬作曲家となる。

代表作品「かさね」「保名」「日本美女傳」「すめら皇國」(第二部)「踊り竹」「五人道成寺」等あり。

小林 一二 (大森區大森五ノ二五)

ピアノリスト。武蔵野音楽學校出身。下總皖一氏に師事、大日本作曲家協會員及大日本音楽協會員。作曲家作品數種あり。

小關 夏枝 (五反田音楽院内)

山形縣京村山郡長崎町南小路の豪家で育つ。山形高女入學の頃より音楽への志望やみ難く學窓半ばにて昭和十年暮上京、五反田樂院の谷田信子氏に就き、ピアノを萬澤百合子氏に、歌謡曲を東京歌謡俱樂部主宰の坂田義一氏に、舞踊を小澤絢子氏に學び、あらゆる藝術分野の探究に努め主としてジャズ、歌謡曲が得意。昨年八月草津小唄發表會を振り出しに各方面のアトヲクシヨンに活躍す。

小笠原美都子 (テイチク文藝部氣付)

テイチク專屬歌手。高知放送局事務員として勤務してゐたが江守總務に見出され今夏六月テイチクへ入社し、日活映畫「三女性」主題歌を服部富子、中村証子と共に歌つて八月新譜にてデヴューす。

佐々木郁子 (麹町區九段上日本歌謡學院内)

日本歌謡學院出身、昭和十五年六月キング大村能章氏の推薦にて專屬歌手となり、七月臨發の松竹大船映畫「若草」主題歌「若草の歌」を林伊佐緒氏と共に演じてデヴューしその將來を囑目されてゐる。

佐々木政夫 (杉並區下高井戸一ノ二)



明治三十九年七月六日北海道釧路市に生る。鈴木靜一氏に師事す。日本ギター・マンドリン協會を主宰し、ギター・マンドリンの演奏教授を専門とし、全音楽譜出版社專屬として著作多數あり。

柴 政 衛 (葛飾區本町七二)

作曲、指揮。明治二十四年七月生。海軍々樂隊出身、松竹大船撮影所音楽擔任。

柴 田 知 常 (澁谷區幡ヶ谷原町九二五)

パリトン。明治二十四年三月二十二日生。東京音楽學校本科出身。ペツオールドに師事。大正二年デヴューす。大日本音楽協會員。本所小學訓導。著書「聲音と其の訓練」あり。

シヤビロ (横濱市中區鷺山二二)

コンスタンティン・シヤビロ。一八九六年ロシア・サラトフ市生。白系露人、モスクワ音楽學校にてエールリヒに學び、後レニングラードにてアピアンテに、ライプチヒにてクレングルに師事す。チェロの奏者として著名。日本に亡命す。

柴 田 陸 陸 (ピクター文藝部氣付)

岡山縣に生れ關西中學卒業後女學校音楽教師や旋盤工などを轉々として、武蔵野音楽學校より東京音楽學校研究科に轉じ同科を修了す。新響の定期演奏で「フィデリオ」に出演す。今夏ピクター專屬歌手となり八月新譜「夏まつり」に依つてデヴューす。

玉 野 小 花 (大森區大森町一ノ六四七七) 電話大森四三五六番

嘗つて昭和九、十年頃ニットー、ポリドールの專屬歌手として歌謡曲及び俚謡を吹込み活躍す。本年六月藝妓を廢業し再び歌謡界に返り吹き、七月五日日比谷公會堂にて「歌謡曲と小唄振りの夕べ」を開催し、更生披露をなす。

谷 田 信 子 (澁橋區下落合三ノ一五二二)

富山縣出身、日本高等音楽學校本科を卒業す。昭和六年オダオン・レゴードで田谷力三氏と共にコムビで十八歳にして新興映畫「何が彼女をそうさせたか」の主題歌を歌つ

てデヴェューす。後オーゴンレコード文藝部員となり、現在では五反田音楽院の教師として後進の指導に當つてゐる。本年三月キング専屬歌手となつて圓盤界に返り咲いたが入社早々北支鮮滿方面へ慰問演奏旅行に一ヶ月半巡演し、歸京して本格的に吹込を始め、八月新譜「白衣の母」に依つて再びレコード界にスターとす。

須田 頼 幸 (芝區琴平町三四) 電話芝三二四七番

三味線文化譜樂會主宰、大日本音樂協會員。

高山 一 男 (世田谷區北澤四ノ一〇七八)

北海道釧路市に生れ、大正二年二月迄同市に在住。後上京して武藏野音樂學校に入學し昭和十二年同校ヴァイオリン科を卒業、橋本國彦、林良輝、田中詠人諸氏に師事す。現在東寶撮影所PCL管絃樂團專屬。

高木 常 七 (本郷區西片町一ノほノ一一) 電話小石川三七八四番

日本作歌者協會顧問辯護士。

瀧井 悌 介 (澁橋區東大久保二ノ二三四)

チエロ。明治二十九年六月十一日生。東京音樂學校本科出身。ヴェルクマイスターに師事。府立實科工業講師、麹町青年訓練所教官、富士見小學校及日比谷小學校訓導、東京絃樂四重奏團員。

但木 無 名 子 (澁橋區東大久保一ノ四三八)

メゾ・ソプラノ。明治四十五年東京生。東洋音樂學校出身、ベツオールドに師事す。

富田 恒 夫 (世田谷區世田谷町一ノ一〇九三)

提琴。明治三十七年一月十九日生。帝國高等音樂學院本科出身、モギレフスキー及鈴木鎮一に師事す。帝音助教兼教務掛、大日本作曲家協會囑託、東京絃樂團員。

寺脇 さ わ 子 (世田谷區經堂三八〇)



三重縣出身。郷里の女學校を卒業後上京して聲樂をサルコリー氏に師事。目下三浦環女史に就いてオペラを勉強中。澁谷齋藤音樂院にて聲樂を擔當す。

鳥 井 維 (四谷區鹽町一ノ三一)

提琴及作曲。明治十九年四月十一日生。安藤幸子、モギレフスキーに師事す。東京音樂學校本科出身。東音囑託。大日本作曲家協會及大日本音樂協會員、囑會主宰。日本樂に通じ三味樂譜の著あり。

納 所 重 雄 (四谷區鹽町三ノ三〇)

洋琴。明治三十五年二月十七日麴町に生る。明治時代の唱歌作曲者故納所辨次郎氏の息。東京音樂學校本科及東洋音樂學校本科出身、高折宮次氏に師事。松竹管絃樂團員。

早川 彌 左 衛 門 (名古屋市中區鍛冶屋町)

指揮。明治十九年六月一日生。明治三十六年六月一日海軍々樂隊に入り、東京音樂學校海軍委託生として提琴を學ぶ。大正四年樂長に進級、同十五年辭して名古屋交響樂團及松坂屋洋樂研究所主宰、同指揮者となり長らく中京にて活躍し、昨年上京中央交響樂團指揮者として活躍を續く。

波多野 鏗 次 郎 (目黒區中根町二〇三六)

提琴。明治二十六年五月三十七日生。山井基清、ツヅラグイッチに師事。帝國ホテル専屬オーケストラ指揮者。

平尾 貴 四 男 (澁橋區下落合西ノ一五六三) 電話落合長崎三一四五番

作曲家。明治四十年六月二十九日生。慶大文科、メコラカントルム、セザール・フランク音樂學校卒業、昭和十二年秋巴里より歸朝。作品、交響樂、樂劇「隅田川」等あり。

日 良 正 吉 (神田區神保町一ノ一四) 電話神田二四四三番

明治二十二年十二月十八日生。名曲堂主。早大専門部經濟科出身。アポロン蓄音器會社代表者。大日本音樂協會員。

福井 文彦 (大森區山王二ノ七六八)

藤原義江氏のピアノ伴奏者、東京朝日新聞社募集の「興亞行進曲」の作曲に一等當選總理大臣賞を受く。

眞木 あや子 (澁橋區上落合二丁目七二二)
グリーンコンサート。スタディオ

本名木本アキカ。九州に生れ、東洋音樂學校出身、コロムビア・リズム・シマターズの一員として活躍してゐたが今春同社專屬歌手に抜擢さる。新興映畫今年七月封切の「嘆きの花傘」の主題歌を霧島昇と競演してデヴューし人氣を博す。

町田 等 (長野市箱減水二〇七五)

教育音樂。東京音樂學校甲種兩範科出身。長野高女、同女子専門學校教諭。作曲多數あり。

松井 力 (目黒區富士見臺一五六九)

指揮。明治三十三年二月十八日生。東京音樂學校甲種兩範科出身。府立八中教諭、日本教育音樂協會理事、中央混聲合唱團代表者。

松尾 勇 (八幡市岡田町三丁目)

作曲家。嘗つて八幡製鐵所管絃樂團及び小倉放送局オーケストラ指揮者として活躍す。

代表作「八幡小唄」「八幡メロデー」(テイチャク)「六連音頭」(ニットウ)外地方小唄數種及び歌謡曲の作曲多數あり、北九州に於ける作曲家として名きをなす。

松本 國雄 (澁谷區千駄ヶ谷二ノ四二六
鶴原力)

テノール。大正四年福岡縣小倉市に至る。小倉商業卒業後上京しビクターに入社、ビクター・コンサートビュローにて活躍し小笠原博の名で吹込む。作曲「旅の駱駝」「紅の筆」「未練なみだ」等をビクターより發表す。

昭和十三年八月應召し戦線にて奮闘、餘暇に自作曲を自演し勇士を慰問す。本年七月歸還しレコード界に再スタートす。

松澤 正治 (神田區旅籠町一ノ二一〇)
電話下谷五八〇〇番

ミヤタ・バンド顧問、ハーモニカ専門店經營。明治二十八年十月二十三日生。リード技術者協會同人、大日本ハーモニカ音樂協會評議員。

水谷 央 (神戸市神戸區中山手通七丁目)

神戸松蔭女學校講師。神戸混聲合唱團指揮者。

三谷 俊造 (中野區朝日町四)
外遊中

作曲、指揮。一九〇四年渡米、ブツシユ音樂學校、シンシナティ音樂學校等に學び、音樂博士の稱號を得。シカゴのピアノ演奏にてダイヤモンド賞を獲得。サライナ音樂學校教授及同市の交響樂團指揮者となる。
作曲作品多數あり。

水原 美也子 (日本ビクター文藝部氣付)



本名、佐藤美哉。横濱に生れ神戸に移り住む。香蘭高女附屬小學校、兵庫縣立第二高女を経て神戸女學院音樂部を卒業す。主として野崎住子女史に師事す。神戸女學院卒業當時、讀賣新聞社主催の新人演奏會に妹小夜子さんと出演、メンデルスゾーンの聖歌二重唱をなして注視を惹く。昭和十五年四月ビクター專屬となる。

代表レコード「女性本願」(楠木繁夫氏と共演)「愛の鈴蘭」等あり。

三宅 勝 (千葉縣海上郡磯崎村琴田
二九七五)

作曲家。千葉縣磯崎町出身。房總歌謡社同人。青年歌謡集外作曲作品多數あり。

宮城志のぶ

(品川區五反田三ノ三七七)



大正七年十二月十二日仙臺に生る。別名南部なつよ。宮城縣立第二高等女學校を卒業後上京。南部タカネ女史に聲樂を師事す。昭和十五年四月J Oレコード専屬歌手となる。

村山博

(横濱市神奈川區高島合二) 電話神奈川二二六三番

テナー。明治四十一年七月二日生。武藏野音樂學校本科出身。プリングスハイムに師事。横濱樂苑會合唱團指揮者。横濱音樂聯盟常務理事。横濱市立高女、同家政高女講師。

村井清

(札幌市大通西四十八丁目)

作曲家。帝國高等音樂學院出身。ロイヒテンベルヒ、山本直忠、片山穎太郎諸氏に師事す。昭和四年十月デヴューす。作曲多數あり。

村田松泉

(赤坂區青山南町五ノ七一) 電話青山一八四九番

箏曲。本名村田ミイ。東京音樂學校甲種師範科出身。元同校教授、箏曲萬蒲會を主宰す。

村田武雄

(神奈川縣逗子町一〇〇六)

レコード批評家。「レコード音楽」編輯部員、パツハ研究家。テリリー著「パツハ音楽」の翻譯あり。

村上太郎

(澁谷區幡ヶ谷本町三ノ三五三)

提琴。明治四十三年一月二十八日千葉縣に生る。東洋音樂學校本科出身。新交響樂團員。

室岡清枝

(世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ二二二九)

洋琴。東京音樂學校本科出身。久野久子、シヨルツに師事す。東音教授。

毛利幸尚

(淺草區千束町二ノ二 松竹アパート内)

バリトン。明治三十五年十二月八日生。アレキサンドロフ其他二三外人教師に師事せるも多くは獨學にして名聲を博す。昭和六年頃ボリドル初期に於て專屬として活躍、現在主としてステレオ方面にて活躍す。

森本覺丹

(淀橋區西落合三ノ九三一)

文筆、評論。明治二十九年三月二十二月生。早稻田大學露文科出身。大日本音樂協會員。著書、譯書多數あり。其の一つインランド國民的叙事詩「カレワラ」出版の功績に對し昭和十四年夏芬蘭政府より一等白薔薇勳章を授與さる。

矢追婦美子

(世田ヶ谷區東玉川町一五八)

ソプラノ。本姓木村、明治三十五年生。大正十二年東京音樂學校本科卒業後伊太利に留學、コットーネに師事す。

安田俊高

(名古屋市東區若泉町一ノ五八)

作曲家。明治六年五月二十日生。東京音樂學校本科師範科出身。櫻花高女講師、名古屋音樂協會副會長。軍歌「橋中佐」の作曲者として知らる。

安井五郎

(目黒區下目黒二ノ二〇〇 三橋方)

ギタリ。明治四十四年一月富山縣に生る。橋本國彦、長谷川良夫兩氏に師事、ゲアスイラント・ギター主筆、大日本音樂協會員。

八本傳

(牛込區余丁町七四)

作曲家。明治四十年十月四日長野に生る。陸軍々樂隊及日大藝術科出身。大木正夫に師事す。日本現代作曲家聯盟員。

山口陽弘

(大森區馬込町東四ノ一二)

作曲家。本名山口俊三郎。キング其他に於て主として民謡曲を發表。作品數種あり。

山本久三郎 (赤坂區靈南坂町一〇) 電話赤坂三一八番

東寶劇場取締役。明治七年二月二十日生。慶大出身。日本に外國第一流の樂壇人を多數招聘した最初の恩人として樂界に貢獻する所多し。大日本音樂協會評議員。交詢社幹事。嘗つて山陽鐵道、多度津運輸事務所長、日清紡績事務所長、日本麥酒釀泉會社取締役、帝國專務等を経て現在に至り實業界方面に於ても重きをなす。

湯淺永年 (中野區昭和通二ノ四二)

テナー。明治三十年十二月二十六日生。同志社大學英文科出身、大正十一年渡米、オペリン音樂團にて四ヶ年間研究の後、ハイン、ヨルンに師事、昭和四年十二月歸朝。現在日本高等音樂學校講師、聲樂の外に音樂史家としての知らる。

横田孝 (中野區川添町三三)

ベエス。明治四十三年二月十二日福岡生。東京高等音樂學院本科出身。矢田部勤吉氏に師事す。第三回及第五回音樂コンクールに聲樂入選。第六回には第二位に入賞す。

横田昌久 (豊島區池袋二ノ一〇九 三弘アパート内)

テナー。明治四十三年生。前ミリオンド専屬スキ。ングボーイズとして活躍す。作曲數種あり。

吉川孝一 (淺草區淺草公園五區一)

作曲。大日本作曲家協會員。作曲作品多數あり。

吉田永靖 (淀橋區柏木四ノ九三四) 電話四谷二八六四番

オリオン・コール主宰。明治三十五年三月三日生。慈慶大學出身。前金杉病院副院長。耳鼻咽喉科醫。大日本音樂協會員「音聲に就いて」の著書あり。

吉田隆子 (日野區自由ヶ丘二五九)

作曲家。明治四十四年二月十二日生。日本現代作曲家聯盟員。樂團創生文藝部員。橋本國彦、菅原明朗に師事す。昭和八年度大日本作曲家協會懸賞作曲に當選す。

吉見治男 (品川區上大崎一ノ七五二)

バリトン。明治四十九年二月二十五日松江市に生る。東洋音樂學校本科出身。本居長豫、阿部英雄氏に師事す。五反田音樂院及池袋音樂院講師、オリオン・コール部員。

村上義章 (麴町區九段坂上九段ビル 日本歌謡學院内)

「日本人こゝにあり」の義人、村上彦太郎氏の令息、昭和十四年七月レコード歌手を志して上京、日本歌謡學院に入り大村能章氏の師事、今春コロムビア専屬歌手となる。

湯山光三郎 (下谷區谷中初音町一ノ九)

(再掲) 明治三十五年十一月二十八日生。東京音樂學校聲

井上園子 (再掲)

樂選科出身。伊太利曲をサルコリー師に、日本歌謡を山田耕筰師に師事す。第二回音樂コンクールに入選。コロムビアノ協奏曲第一番變ロ短調を本年六月二十五日AKよりローセンシュートツク指揮日響の伴奏にて放送す。

石原五木雄 (荏原區戸越町二〇〇 電話荏原二五三九番)

大日本音樂協會顧問辯護士。明治二十六年五月十八日生。東京帝國大學法學部出身。著作權法の研究家。事務所 京橋區新富町三ノ二 電話京橋三七〇九番。

内海誓一郎 (澁谷區代々木山谷町一四一)

作曲家。明治三十五年三月二日生。東京帝大理學部出身

日本現代作曲家聯盟員。陸軍化學研究所員。

大島八千代 (小石川區林町九)

ソプラノ。本姓小船井。明治四十年十月三日東京生。

東京音楽學校研究科出身。レーヴェ、長坂好子、ベレッテ
イに師事。美鈴會主宰、立正高女教諭、大日本音楽協會員。

太田黒養二 (荏原區小山町正〇七)

電話荏原四一九五番

テナー。明治三十六年三月二十三日熊本生。同志社大學
法學部出身。巴里にてパンセラに學ぶ。昭和七年四月二十
三日デヴューす。日大藝術科及武蔵野音楽學校講師。

大日本音楽協會員。著書「聲樂」あり。

大村卯七 (大森區上池上町三九)

チェロ。伯林にてフオイヤーマンに學び、昭和八年歸朝
す。新交響樂團員。

多 久 興 (世田ヶ谷區羽根木町一七五二)

提琴。大正四年二月五日東京生。東京音楽學校本科出身。

亡父久寅及安藤幸子、ボラックに學ぶ。埼玉師範學校教諭
第六回音楽コンクール三等入賞。

柏木俊夫 (淀橋區諏訪町一七九)

作曲家。東京音楽學校本科出身。昭和第一商業教諭。
作曲作品多數あり。

木村千須惠 (板橋區練馬南町一ノ三四八一)

昭和十三年三月武蔵野音楽學校聲樂科を首席にて卒業し
同校研究科を修了。コーラ、エコー部員として放送にステ
ーヂに活躍、その將來を囑目されてゐる。

北村季俊 (世田ヶ谷區北澤一ノ一一五五)

チェロ。明治四十年一月二十一日東京に生る。故李晴氏
長男。東京高等音楽學院本科出身。ヴェルクマイスターに
師事す。北村兒童歌劇協會主宰。

木下 保 (杉並區阿佐ヶ谷五ノ四六)

テナー。明治三十六年十月十四日生。東京音楽學校本科

出身。昭和七年秋獨逸に留學。同十年歸朝す。東音助教授
武野音楽學校講師。

倉重瞬輔 (大森區馬込町三ノ八〇二)

電話大森四四三六番

作曲家。明治三十八年五月十五日山口縣生。片山頼太郎
ヴェルクマイスター、トマジに學ぶ。昭和七年巴里留學
より歸朝す。日本現代作曲家聯盟員。

黒川いさ子 (世田ヶ谷區北澤四ノ三七三)

電話世田ヶ谷二六五九番

ピアノニスト。明治四十年十一月二十三日生。伯林官立音
樂學校、サンパウロ州立音楽學校に學ぶ。ロイストラ、ク
ロイツァー、カーンに師事。日大藝術科及青山女學院講師
大日本音楽協會員。

小出浩平 (小石川區大塚窪町三八)

音楽教育家。東京音録學校甲種師範科出身。學習院教授
學校音楽研究会理事。

小林董五郎 (世田ヶ谷區砧喜多見二一六八)

作曲家。明治四十年九月九日生。東京高等音楽學院ピア
ノ科出身。石川義一氏に師事す。黎明作曲家同盟員。昭和
八年以來管絃樂曲數種を發表す。

山田抄太郎 (再掲)

三味線ワキ。稀音家六治。昭和十二年夏師匠淨觀と藝術上
の意見を異にし研精會を脱會して本名にて邦樂研究會に興
し新邦樂運動をしてゐたが本年四月和解なり研精會を復歸
し、小三郎、淨觀と共に六月二十六日 AK より復歸披露
の放送をなす。

浅野千鶴子 (再掲)

ソプラノ。歐洲へ留學中の所職禍を避け郵船伏見丸にて
本年七月八日神戸入港歸朝す。

近衛八郎 (再掲)

キング專屬歌手。應召中の處本年五月歸還し、「續あゝ
わが戦友」で再び賣り出す。

古賀久子 (杉並區和田本町九八八陸奥方)



本姓菅。都々子テイチク専屬作曲家陸奥明氏の長女十一歳にしてその天才を古賀政男氏に認められて養女となる。テイチクより日活主題歌「父さんの歌時計」に依つてデヴューし「小楠公」其他數編發賣。レコード界より遠ざかり奥田良三氏に就き聲架を修む。現在京華高女一年在學中、今秋より再びテイチク専屬としてレコード界に再スタートす。

齋藤秀雄 (麹町區一番町二ノ一) 電話九段一五二四番

チエロ、作曲。明治三十五年五月二十三日生。クレンゲル及フォイアーマンに師事す。新交響樂團員、日本現代作曲家聯盟員。

相澤爲男 (中野區大和町六六)

ベリト。ピアノ及オルガン。明治二十九年五月二十六

日生。大分師範。獨逸語專修學校、東京音樂學校選科出身。永田晴、澤澤定之兩氏に師事す。

青木謙幸 (京橋區銀座六ノ三) 電話銀座七七九番

雜誌「デイクス」編輯主幹。

青木榮 (淀橋區戸塚町四ノ七六一) 佐藤方

テナー。日本高等音樂學校本科出身。湯淺永年氏に師事す。白百合音樂院主宰。

泉昭子 (澁谷區綠田一ノ一五一) 松居方

ソプラノ。本姓松居。下關梅光女學院、東京音樂學校選科出身、武岡鶴代、矢田部勤吉氏に師事す。昭和十年六月第一回獨唱會開催。松居桃多郎氏夫人。

石見爲雄 (大森區德持町一八六)

レヴュー批評家。前ミリオンレコード總務部長として活躍せしことあり。

第七編 業界關係者

- 蓄音器業界
- 蓄音器會社
- 官公署關係
- 樂器會社
- 樂器店
- 音樂雜誌新聞記者

第七編 業界關係者

蓄音器業界

山野政太郎 (京橋區銀座四丁目二) 電話京橋一〇五二番



株式會社山野樂器店社長。明治十一年三月十二日富山市に生る。明治二十八年ピアノ、オルガン其他各種樂器の販賣店を銀座に創業堅實なる營業方針は着々成功を収め斯界の王者となるに至る。R.C

Aピクターが東京に日本ピクター蓄音器株式會社を創立するに當り選ばれて同社製品大賣捌元となり現在に及ぶ。此の間昭和二年資本金五十萬圓の株式組織に改め社長となる。明治三十一年より四十一年迄十一年間米國に滞在して、歐洲各地を視察し新智識を豊富に携へ歸朝、組合行政に關

心深く、東京蓄音器商組合設立されるや副組合長より組合長となり全國蓄音器商組合聯合會の結成を見るや、橋倉氏の跡を繼いで會長として全國三千業者を指導鞭撻し、現に全聯並に東蓄組合の顧問として重きをなし、更に千葉縣大多喜天然瓦斯株式會社其他の會社取締役として實業界に目覺しい活躍振りをを見せてゐる。

橋倉新五郎 (下谷區上野廣小路七) 電話下谷二〇三、二一〇番



株式會社十字堂蓄音器店社長。明治九年六月二十七日長野縣に生る。大正元年創業、ピクター關東三大賣捌元中最も古く多くの顧客を有してゐる。創業以來店舗の經營のみならず同業者間の親睦向上

を圖り東京組合創設に奔走し、大正四年東京蓄音器商組合が設立されるや組合幹部となり其後三代目組合長に推され大正九年全國蓄音器商組合聯合會の結成を見るや初代會長に就任、大正十四年には全聯顧問、昭和六年には東蓄組合顧問に推され業界の元老として重きをなしてゐる。

村上 宇吉 (神田區旭町二番地) 電話神田二七四〇番

卸專業、大番商店主。明治十三年十月五日長野縣に生る。

壯年時代は大阪の業界にあつたが、明治三十九年上京して東京大番商店を創始し、ナポレオン蓄針を發賣すると共にオリエントレコードを初め日本蓄音器商會製品其他の一手大賣捌元として孜々營々たる努力を拂ひ日に月に營業地盤の獲得に成功し、ナポレオン針のコムビとしてナポレオン蓄音器の發賣を企劃し、宣傳號、



大衆號、普及號等を大量製造して業界に送り出し驚くべき活躍を續け、日蓄のユーホン時代に次いで忽ちナポレオン時代を現出し、大正から昭和にかけて蓄音器の普及發達に就いて素破らしい貢獻をなす。

其後日蓄製品の外にポリドール、テイチク、タイハイ等の諸會社と提携しジョバーとなり、各種兒童物レコードの取扱ひをなし、蓄音器のデパートとして發展をなす。支那事變の影響により業界多難時代の到來に備へ山中電機と提

携してテレビアン受信機の一手大賣捌を行ひ、昭和十三年には樂器界に進出し、各種ハーモニカ、アコーディオン、絃樂器、プラスチックバンド其他一般樂器の取扱ひは素より、日本樂器製造會社に依拠してヒースアコーディオンの特製發賣、鈴木ヴァイオリン製造會社製タナベバンドの一手大賣捌權を、今春にはアサヒカメラ一手大賣捌權を獲得し、創業以來三十有餘年、眞に斯界の一大デパートとしての大成を見るに至る。

自家經營の才に卓越せるのみならず組合事業に就いても常々幹旋調整の役に任じ、組合長に推される、こと再三に及んだが固辭して受けず、現在は全聯及東蓄の顧問として業界に於ける元老として重きをなしてゐる。

中山喜源治 (埼玉縣大澤町地藏橋)

明治四十二年現株式會社日本蓄音器商會の前身たる日本蓄音器會社へ入社し、大正十二年日蓄東京支店長を辭任するまで日蓄にて活躍し、辭任後引續き同社の大賣捌店とし

て淺草駒形に於て中山蓄音器店を經營し、業界にあること三十餘年、其間東蓄組合長、全聯會長の要職に就任多年業界の元老として斯界に貢獻する所甚大であつた。昨年秋季功成り名遂げて業界を引退し、都座を離れて東武沿線越ヶ谷下車大澤町の前記の場所に新居を構へ晴耕雨讀の中に餘生を送つてゐる。

今年二月日蓄武蔵與市氏の勧めにより日本蓄音器商會營業部顧問に推戴されてゐる。

吉田昇 (淺草區田島町一〇七) 電話淺草三五四番

明治二十五年四月十二日千葉縣長生郡に生る。大正十一年四月蓄音器レコードの小賣業を初め江東方面に於て活躍をなし江東蓄友會長の要職に就く。業界の信望厚く、昭和八年一月より一期間東京蓄音器商組合の副組合長に選任され昭和十四年四月の改選に當り同商業組合の理事に任ぜられ業界の爲め盡粹されてゐる。

中山熊吉 (大阪府豊能郡庄内村) 電話三國四一四番

國歌蓄音器レコード合資會社長。明治十四年十二月奈良縣に生れ、中學卒業後實業界に入り、昭和四年阪急沿線三國河畔に小規模乍ら新興の勢ひを示しコツカレコード製作所を創立し、六吋兒童レコードの製作發賣を初め、昭和七年の好況の波に乗り十吋盤に進出し、昭和八年に至り流行歌吹込みをなし、一時大衆盤の潛勢力を扶殖し活躍す。

田中祥弘 (淺草區雷門二丁目三) 電話淺草三一六六番

養老堂店主。明治三十六年十月十三日日本橋區四日市に生る。中學卒業後専門學校二ケ年で辭め數寄の道に馳り極道から勘當を経て好きな藝道に入り、新聞記者等をなし養老堂淺草支店主となり現在に至る。傍ら創作、劇作、脚色、作詩等六面八臂の才能を發揮す。目下新興キネマ株式會社囑託。



代表作品「操り法界坊」「踊り草」「投げ節おせん」「お吉さんげ」「逢狀」「奴の小萬」「舟遊び」「春駒」等數十種あり。邦樂レコード批判家としてこの方面の蘊蓄深く業界

の變り種として特殊の存在をなしてゐる。
趣味—邦樂研究、歌舞伎研究、三味線音樂等。

鈴木準次郎 (大森區入新井町四ノ六一)
電話大森三四〇三番

東京蓄音器商業組合理事、蓄音器店エヌエス堂經營。明治十九年八月四日生。東京中學校を卒業。大正九年十一月二十日創業。東京蓄音器商組合評議員に選任さるゝこと三回現在同組合理事の要職に就き業界發展の爲め盡す。

松崎一郎 (品川區大井町三六四二)
電話大森三九九二番



東蓄監事。明治三十七年五月二日生。昭和二年十一月第一商會本店蓄音器部を創業。現在全國蓄音器組合聯合會計監督及び東京蓄音器商業組合監事の要職にありて業界に重きをなす。

小林義夫 (日本橋區人形町一ノ四)
電話茅場町四九六九番

東蓄常務監事、乙女堂蓄音器店經營。明治二十五年三月卅



高部永吉 (京橋區銀座三ノ二十屋)
電話京橋四五二八—九番

一日長野縣に生る。長野縣立飯田中學を卒業後上京、蓄音器界に入り大正二年獨立して創業、大正四年東京蓄音器組合創立以來役員となり業界に貢献する所甚大にして現在東蓄常務監事の要職にあり。



株式會社十字屋取締役、東蓄組合監事。明治二十四年六月廿五日京橋區南橫町に生る。明治六年創立の本邦最古歴史を有する樂器店十字屋に明治三十六年に入り少年時代より引き続き現在に及び同株式會社に改組されるや取締役となる。

業界に於ては東蓄組合評議員、常任理事、卸同業會副會長等の要職を経て現在東京蓄音器商業組合監事として組合の爲めに貢献する所甚大である。

武藤與市 (澁谷區千駄ヶ谷四ノ六二二)
電話四谷四四七三番



日蓄常務取締役兼總營業部長、全國蓄音器レコード製造協會會長、福島縣若松市外、耶摩郡慶徳村の出身、明治四十二年三月株式會社日本蓄音器商會に一セルスマンとして入社す。それ以前或る私立學校に教鞭を執つてゐたことだが、達識勤勉なる氏は早くも拔擢せられ、同年八月には同社の名古屋副支店長に榮轉、翌四十三年九月當時の同支店長安井友三郎氏が大阪支店長として赴任したので支店長に榮進し、その後大阪支店長に昇進するまで、所謂武藤氏の「名古屋時代」を招來す。嘗つてこの社の名文藝部長であり東京支店長であつた故和田龍雄氏は當時氏の配下で活躍した一人である。

武藤氏の名古屋支店長時代十五ヶ年間は實に今日を築く大きな奮闘力戦なる基礎工事時代で、またその半面には「名古屋の聖人」と云へば當時業界に知らぬ者はなかつたと傳へられてゐる。決して惡意を持たない穩健の士で、こゝ

に氏の全貌を一貫した絶大なる信望を博し得た所以がその經歷によつて如實に物語り、且つ裏書きせられてゐる。

大正十一年四月に大阪支店長に榮轉してより、更に昭和五年四月關西營業部長、同六年十一月川崎本社總營業部長となり、同八年二月取締役に選任、同十五年二月常務取締役就任、臺灣コロムビア販賣株式會社、滿洲蓄音器株式會社各取締役を兼ねてゐる。

昭和十二年一月以來全國蓄音器レコード製造協會會長としても活躍し、同年七月十五日以來著作權審査委員に選任され業界の大御所として重んぜられてゐる。

小西孝次 (中野區櫻山町一)
(店)新宿角筈電停前電
話四谷八四二、五〇五一番



全聯常任顧問、東蓄相談役、蓄音器樂器店出羽屋經營。

明治二十四年三月一日山形縣庄内鶴岡市に生れ早くより上京、芝中樂校を卒業。大正八年出羽屋樂器店を創業遂年發展をなし山ノ手に於ける屈指のレコード小

賣店として最高の賣上枚数を有す。昭和三年東京蓄音器商組合長中山喜源治氏の下に會計監督として就任、爾來副組合長等を歴任し、山野氏の後を享けて七代目組合長に就任同時に全聯會長を兼ね在職、十年を閲しその間東蓄組合の基礎を作り業界の爲めに貢獻する、こと甚大、昭和十四年滿六月任ちて後身を推舉して退任、現在全聯常任顧問、東蓄相談役として尙業界の發展の爲め指導に當つてゐる。

伊藤彌太郎

(品川區東大崎四ノ一三三)
電話高輪七一五六番



東蓄常任理事、全聯關東支部長。古くより大崎に於て伊藤樂器店を經營し、業界の爲めに盡粹され昭和十二年迄東蓄組合長として活躍し、準副組合より商業組合に改組され初代理事長阿南氏の逝去後二代目の理事長に選任さる。昭和十四年六月に辭任し、現在常任理事となり全聯關東支部長を兼任し組合の爲めに日夜斷えざる奮闘を續け斯界に重きをなしてゐる。業界稀に見る厚き信仰家として高尾山の本尊に歸依し開帳には欲かき

ザ日参してゐる。立志傳中の人とし今日あるは實に氏の信心の賜と言ふべきである。

須見義文

(淺草區雷門二ノ一七)
電話淺草一三八六番



東東蓄常任理事、スミ・チクオンキ商會主。明治二十一年十二月一日德島縣に生る。明治四十年三月德島縣立農業學校を卒業し翌年農商務省耕地整理技術養成所を修業し、同四十二年十月迄德島縣農工技手を拜命。大正七年十月上京し現在の所にスミ・チクオンキ商會を創業し爾來蓄音器業界の爲めに盡粹する處多大にして現在東京蓄音器商業組合常任理事の要職にあり。

土肥徳三郎

(麹町區一丁目六ノ五)
電話九段二九六六番

東京蓄音器商業組合理事、星光堂蓄音器店經營。明治十九年七月九日生、大正十一年九月一日創業。昭和三年以來市蓄役員に歴任し、昭和十一年副組合長に選任され現在同組合理事の要職にあり。

松永正雄

(本所區江東橋一ノ三ノ一)
電話本所四六一〇番

合名會社養老堂蓄音器店經營。創業大正八年、フタミ蓄音器商會を設立しフタミレコードを發賣す。支店を淺草雷門、京濱デパート、白木屋錦糸堀支店の三ヶ所に設けレコードの卸小賣をなす。江東方面の東蓄組合員の機關心交會々長を兼ね、東蓄信用評定委員に選ばれ、昭和十四年四月の改選に理事に當選現在に至る。

松川參造

(蒲田區女塚町四ノ一九ノ五)
電話蒲田四〇三九番

蓄音器店カマタ堂經營。東京蓄音器商業組合營業統制委員に選ばれ、昭和十四年四月の改選に際し理事に當選す。

松本一晴

(牛込區若松町五三)

大蓄支配人。東蓄組合信用評定委員。大正五年教育界より業界に入り東京蓄音器會社、日本蓄音器商會を経て現在は大蓄商店に在り作詞は寧ろ餘技に屬するも各社に相當数の發賣品あり、殊に勤務先營業の關係上各地組合等の企劃に關連してローカルの作品數十篇に及



ぶ、是等の内代表作所はホリドル發賣の成田山千年祭、熊谷小唄、安積疎水讃歌、タイヘイ發賣、高崎白衣觀音小唄(コロムビヤ千葉縣招く房總等、この外童謡作所數多あり、童劇方面にも進出してエバナシトキーに早起きよい子兄さんの出征、南京陥落などの優秀作があり物語りとしての代表作にタイヘイの「名花前畑嬢」がある。趣味としては油繪を大平洋畫會に學び、薩摩琵琶は翡翠と號して故永田錦心氏の奥傳を得てゐる。

萩原喬

(豊島區推名町五ノ四一一〇)

全國蓄音器レコード製造協會指導宣傳部長。明治四十二年七月二十七生。昭和十年三月東京蓄音器商組合(現今の商業組合の前身)に入り雑誌「蓄音器時報」の編輯に従事し、翌十一年三月編輯主任となり東京組合改組後も引續き従事す。昭和十三年九月全國蓄音器レコード製造協會に指導宣傳部設置せられ部長として同協會に入り現在に及ぶ

松田光眞 (西宮市今津町大日本蓄音器株式會社内)

大日本蓄音器取締役。明治三十年九月神戸市兵庫切戸町の素封家に生る。神戸二中を出て重油界に活躍してゐたが昭和五年内外蓄音器商會を改め太平蓄音器株式會社を創立し社長となり、昭和十年七月日東レコードを合併して資本金六十萬圓を以つて大日本蓄音器株式會社を新設し社長に就任、現在社長を辭し松田俊治氏に譲り取締役となり尙同社の重鎮として活躍しつゝあり。

高橋稔 (大阪市此花區上福島北一丁目) 電話福島四〇八七番

大五商店主。明治三十三年大阪に生る。大正十年當時日蓄服部永久郎氏の斡旋により日蓄大阪支店に入り後大連支店、東京本社及淺草支店等を歴任同十五年辭して裸一貫より大五商店を創業し、蓄音器及附屬品各社レコードの通信販賣を初め着々成功を収め、昭和八年合名會社に改め店舗を擴張し躍進の軌道に乗つてゐる。善因善果の宗教の根本精神を奉じ極めて熱烈なる天理教信者である。

植野良吉 (大阪市南區順慶町四丁目) 電話船場四七八一番

ユニオン商會主。明治四十三年一月一日生。明治三十七年大阪四ツ橋に先代植野良吉氏に依つてユニオン商會が設立され、昭和七年先代の没後業務を繼承し、ユニオン蓄音器及ユニオン蓄針を發賣し今日の大成を見るに至る。

西田徳次郎 (大阪市北區高垣町二三) 電話北二五四番

西田精工會經營。明治十六年十一月生。陸軍技術官出身。明治四十五年蓄音器及附屬品の製作を初め、日東レコード大賣捌元として活躍せる古參の一員である。現在電蓄及蓄針の製作を主とし、代表製品イングラウンド號は一時非常なる人氣を博せり。

業界では大阪蓄音器商組合創設當時組合長を歴任し、現大蓄組合顧問及蓄音器工業會常任理事の要職にあり。

田中徳太郎 (大阪市港區九條北通一ノ二) 電話四二四六五番

田中蓄音器商會主。明治二十三年香川縣觀音町に生る。

大正五年創業爾來星霜を閱すること三十餘年、堅忍よく實績を擧げ其の間昭和二年富士山印及カメレオン兩蓄針の製作發賣をなし好評を博し、昭和八年四月よりコロムビアレコードAクラス販賣店として活躍し大阪市内に於ける業界有数の位置を占むるに至る。

林弘治 (大阪市西區堀江御池通一ノ五) 電話新町二三四〇番

合資會社林弘治代表者。明治十二年岡山縣に生る。日蓄に入社し、爾來オリエント合同に勤め、昭和三年退社して獨立開業し二十年間に及ぶ。大阪市内二ヶ所に製作工場を設け大連に滿洲出張所を置き、意匠登録蓄音器十二種、ケース五種の權利を有してゐる。就中ローヤル、ペビイ、ロイド、諸ケース及びVC蓄針並にローヤルアルパムは氏の優秀作品として廣く業界に好評を博してゐる。

佐野小太郎 (大阪市東區中道川西町) 電話東三一三三番

佐野蓄音器製作所主。明治二十三年和歌山に生れ、十八歳にして蠟管時代の蓄音器の機械製作を修得し、業界の古參清水爲吉氏の工場に入所したのを始めとし、花徳、西田、

大辻等の諸工場を歴巡し十有餘年の間技術の研鑽に務め、大正十五年獨立して旗上げし工場を經營今日の大成を見るに至る。現在「佐野のモーター」は不拔の地位を占め遠く海外に輸出し斯界の寵兒として好評を獲得してゐる。

曾根昌忠 (大阪市東區森之富宮東町) 電話東五七〇八番

曾根製作所主。明治二十五年奈良縣に生る。大正十三年に創業、東成區森町に工場を設立し堅實なる歩調を續け高級品の製作に努力してゐたが、都市計畫の實現に依り市電森之宮終點に移り昭和八年一大工場を設立し生産能率を倍加し異常の發展を來してゐる。野球の猛烈なるファンである爲め従業員に奨励し運動精神に基づく協力一致を鼓吹し模範工場として範を業界に垂れてゐる。

松葉捨吉 (大阪市旭區野江町三丁目) 電話東五〇九四番

松葉製作所主。明治二十四年京都府に生れ、一職工より身を起し技術の研磨に熱中し大正七年二十八歳にして獨立し松葉製作所を創立す。蓄音器部分品中特にアームの製作に關しては他の追隨を許さざるものがある。

片岸玄次郎

（京都市伏見區深草相深町二）
電話祇園三〇六一番



シヨークレコードスタヂオ社長。明治二十七年九月京都府笠置町に生れ、十六歳にして大阪足立蓄音店に入り二十一歳獨立して京都市京極にミヤコ蓄音器部を設く昭和三年二月に至り、東山區大和大路に昭和レコード製作所を設け大衆レコードの先驅をなし只一臺のプレス機により製作界に第一步を印す。爾來忍耐努力、昭和六年十月に現在の場所に新工場を設置しシヨークレコード・スタヂオと改稱し、シヨークレコードを發賣、更に東都に進出し京橋一ノ三京一ビルに東京吹込所を設け、特種レコードとしては邦樂以外朝鮮、臺灣の曲種を續々と製作し、兼ねて八吋童謡盤「新興レコード」を發賣して、空拳以つてよく今日の成功を収む。
公人としては京都蓄音器商工組合顧問、大阪蓄音器商組合の相談役として業界に寄與せし所甚大である。尙相澤町合同組長、同衛生組長としても公共のため盡してゐる。

久保道彦

（神戸市元町四丁目）
電話三ノ宮五九九番

合資會社神戸日蓄商會主。福岡縣に生る。嘗つて日本蓄音器商會社員として精勵すること多年、同社が特設した神戸元町支店の現在場所を繼承し、爾來日蓄製品の販賣に不變の努力を傾け滿二十年、當時神戸ニッポノホン組合長を初め理事其他の要職を歴任、又神戸兩組合の統一成つて副組合長に選ばれ業界に偉大なる貢獻をなす。本年六十六歳數年前業務の第一線を退き、子息登氏に營業を擔任せしめ悠々閑地に就いてゐる。

村上與利平

（神戸市元町一丁目）
電話三ノ宮四五一番

神戸大蓄店主。明治三十一年六月徳島縣に生る。二十五歳の頃上阪、大阪市四ツ橋に創立されてゐた大阪蓄音器株式會社（當時奈良丸其他浪曲全盛時代にてレコードの復寫専門の營業をなす）の外交員として入社し手腕を現はし、大正二年六月會社の營業一切を讓渡され、小賣店を開業、同社の支配人だつた東京の大蓄店主と共に東西相呼應し大

著と名乗つて四ツ橋に八年經營を續け、大正十年南區二ツ橋に移轉、當時日東、日蓄の競争時代を現出し、氏は京、阪、神を一丸としてニッポノホン俱樂部創設の第一線に立ち大阪理事長として活躍、後俱樂部を組合と改稱、會計に就任、小賣店中心の大阪組合創立と共に解散す。
昭和四年神戸に移轉し翌五年ポリドル邦樂發賣と同時に開店、今日の大成を爲す。外人の顧客七割以上を計上洋樂の賣行目覺しいものがある。現在神戸蓄音器商組合副組長長の要職にあり。

太田伊三郎

（大阪市旭區今福町一八一）
電話旭二八一三番

日本トランス蓄音器商會主。明治二十八年滋賀縣に生れ大正十三年十一月獨立して日本トランス商會を經營、トランス蓄音器各種約七十種、特種製品としてトランスレコード、ラヂオ製作、蓄音器モーター製作等をなし、府下三ヶ所に營業所、附屬組立工場一ヶ所を設け、專賣特許二件、新案特許二件、意匠登録三件、登録商標七件を有し、内地は尤より鮮滿、印度、南米、中米、濠洲等販路は海外に延び日本トランス製品の聲價を益々顯揚されてゐる。

木村脇太郎

（大阪市南區末吉橋通一七）
電話船場二八四番

サカエ商會主。明治八年愛知縣に生れ、二十九年近衛三聯隊に入隊し、臺灣土匪討伐に戦功を樹て凱旋後大阪虎屋銀行重役となり、後備役の際日露戰役に出征、旅順攻圍軍に加はり武勳を輝かせて凱旋、原業に復したが、明治四十年大阪新町通りに蓄音器店を創設し、大正十一年には心齋橋北詰に進出、當時日蓄、日東の競争時代に日東代理店となり活躍し、成功を収め店舗を擴張して今日の隆盛を見るに至る。

大阪蓄音器商組合創立に功勞あり推されて組合長及び會計の重責に任せられ、昭和二年卸同業會創設されて製造組合と合併解散まで會計の要職を一貫し、現在大阪蓄音器商組合及全聯顧問の榮職に推されてゐる。

北野利助

（大阪市南區二ツ井戸町）
電話南六〇三番

快聲堂本店主。明治二十二年大阪に生れ、大正十一年十一月阿部野橋に蓄音器レコード小賣を開業、同十四年天王

寺區南堀河町に蓄音器の製作卸を開始し、東京及博多に支店を設け「ミカド」「五十鈴」「西郷」號等の蓄音器の宣傳に努め昭和九年度には賣上五拾萬圓を越ゆ。又ボリドル、ニットウの大賣捌元となり、パラゴン蓄音器の關西大賣捌元を引き受け活躍す。現在大阪蓄音器商組合參與の榮職にあり。

中森 熊太郎 (大阪市東區博勢町四丁目) 電話船場六五〇番

酒井公聲堂株式會社社長。明治三十二年三重縣に生れ、幼にして商都大阪に出て明治四十二年創業に係る酒井公聲堂經營主酒井欽三氏に就き斯業の研究をなし信用を得て後年一切の經營を繼承して着々名聲を高め、昭和九年初春より自家特製に係るフアスト號蓄音器及各種蓄針、ラヂオ並に附帶商品の改造、電著部特設、部分品卸商等に依り業績を挙げ、昭和十年五月、酒井公聲堂蓄音器株式會社に改組し取締役社長に就任す。公人としては全聯副會長を勤めたが一時全聯が東西に分するに至り、同關西部長となり、大阪蓄音器商組合長と

なること四期、大阪蓄音商組合常任理事、元京阪神共同調査會議長、大阪専門店會顧問、同研究會顧問及同志會相談役等の要職に就き業界の爲めに貢獻せる所甚大なり。

中江 宗次郎 (大阪市南區大賣寺西ノ町一四) 電話南一五二九番

中江鬼樂店主。明治十七年五月二十六日滋賀縣生。二十四歳の時對支貿易に手を染め一粒萬倍の短期成功を焦つて失敗し、明治四十三年大阪南海難波驛前に蓄音器レコードの卸小賣商を開業、奏功して卸專業に轉じ昭和五年現地に店舗を新築し、アルマ蓄針を發賣成功す。公人としては二十五年前大阪組合の組織に盡力し評議員となり、大正十年副組合長、翌年組合長、同十二年全國聯合會長を兼務し、翌年辭任し當時存在してゐた東亞蓄音器株式會社常務取締役就任、退いて十五年再び組合長となり、其後大阪兩組合合同統一さるゝに及び顧問となり、昭和七年全聯顧問に推擧さるゝ等關西業界の重鎮として業界の爲めに盡粹され業績顯著である。

中西 保次郎 (大阪市南區末吉橋通二ノ一) 電話船場二二一一番

株式會社中西商會社長。明治三十七年一月十八日生。嚴父中西熊次郎氏に依り明治四十年春大阪西區問屋橋に蓄音店及附屬品、各社レコード卸問屋中西商會を設立、昭和九年一月資本金十五萬圓の株式組織として現在の場所に新築し、父に讓られて代表取締役社長に就任、現大阪營業所の外に早くより東京神田佐久間町四丁目に東京支店を置き、名古屋、大阪に專屬工場を設け自製品の卸販賣の外に、ボリドル會社の關西大賣捌元として活躍してゐる。

安井 友三郎 (大阪市東區豊後町一二) 電話東四三七七番

安井ニッポン堂主。明治二十年七月四日滋賀縣土山町に生れ、十六歳の時大阪田村商店に入り、後横須賀の海軍御用商店に勤め、明治四十年二十歳にして上京、三光堂に入り、同店其他の出資に依り同四十二年日米蓄音器會社創立と共に社員となる。之れ即ち日蓄の前身で精勤多大の功を樹て同年一躍拔擢されて名古屋支店長となり、四十四年に

は大阪支店長に榮轉、當時大阪組合長、及全國聯合會長を兼任す。一時名古屋に三福商會を興したが、日蓄の懇望に依り再び大阪支店長となり同社幹部となる。

大正十一年辭して獨立し順慶町に安井ニッポン堂を創業自家特製ペンギン蓄音器及日蓄特約店として活躍、昭和八年現在の所に總營業所を設け、心血を注いで完成したグロリー、シンガー各種蓄音器を内地は勿論海外に販路を開き今日の大成を見るに至る。

業界に於ては全聯顧問、大阪蓄音器商組合顧問、日本蓄音器輸出同業組合理事長の榮職にあり。

齋藤 隆吉 (淺草區鳥越町一丁目) 電話淺草一三八五番

明治二十六年十月二十二日生。大正十一年九月十五日樂堂蓄音器店を創業。茲來商店の經營に盡粹すると共に業界方面に於ても重鎮とし組合發展の爲めに努力さる。昭和十四年五月全聯會長小西孝次氏辭任の後を享けて衆望を負ふて全聯會長及東蓄理事長



に就任し現在組合發展の爲め日夜貢獻されてゐる。
尙好樂家の爲に自宅階上を解放し帝京音樂院を開設し音
樂家養成の爲めに努力してゐる。作曲界の第一人者古賀政
男氏の斯界にスタートしたるは氏の推薦奔走の力が與つて
大であつたことは特筆すべきである。

向田功 (赤坂區青山南町六ノ三八)
電話青山一二五二番



明治二十六年八月七日生。曉星
中學を経て慶應大學理財科を卒業
す。明治四十三年三月蓄音器店を
創設した兄の死後、斯業を繼承し
て今日の青山日蓄商會を地歩を確
立す。其の間東京蓄音器商組合の
副組合長に就任、大正十五年來東京地方裁判所調停委員に
選任されてゐる。

現在東京蓄音器商業組合理事の要職に就いてゐる。

深澤議一 (大森區北千束町三九六)
電話大森三三三三番

製造協會理事。明治十五年二月山梨縣中巨摩郡西條村に

生る。陸軍歩兵中尉。郷里に於て縣政並に産業方面に活躍
し、大正十四年上京、富國徵兵保險會社に入り支配人とな
り、昭和五年九月轉向して富國堂時計蓄音器フチオ商を經
營、蓄音器業界に入り、同志と共に東京蓄音器商組合を創
立し、長らく書記長、常任理事に歴任して業界發展の爲め
盡粹する。退任後は全國蓄音器製造協會の常任理事に選任
され業界の爲め重きをなしてゐる。

加藤振一 (東京府立川町仲町一)



明治四十一年三月八日生。明治
四十年一月創業の亡父の業を昭和
三年相續す。現在多摩蓄音器商組
合長に就任し蓄音器業界の爲め貢
獻す。立川仲町銀座商店聯合會理
事會計、府中警察署管内時計商組
合長、全國蓄音器商組合聯合會理事等の要職に就いてゐる。

富樫周夫 (杉並區馬橋三ノ四三一)

全聯書記長。明治三十七年十一月十日山形縣東田川郡に

生る。弘前中學を経て法政大學經濟學部を卒業す。

業界では東京蓄音器商組合の「蓄音器時報」編輯主任を
振り出しに長らく斯界の爲めに奮闘する。現在全聯書記長
の要職にあり、東蓄組合主事として活躍してゐる。

平沼常助 (豊島區池袋二丁目八二六)

明治三十四年七月十八日埼玉縣飯能町に生る。大正十年
宇都宮聯隊に入隊、除隊後は郷軍幹部となり、又青訓指導
に活躍す。昭和四年慶應義塾々員となり、父の業を繼ぎ株
式會社平沼商店常務取締役として織物業に従事し現に取締
役たり。昭和四年四月廿四日現在の所に山手堂樂器店を創
業し、省線目白驛前通に支店(目白堂樂器店)を開設して
ゐる。現在東蓄評議員として業界に重きをなしてゐる。

松村亀一 (京橋區銀座一ノ六)
電話京橋九五七二番

合名會社春日蓄音器商會主。明治二十一年四月二十八日
生。明治四十一年蓄音器店の元祖三光堂より業界にスタ
トし、三光堂初め二三の蓄音器店に依り合同蓄音器株式會

社が創立されヒコキレコードを發賣するや三光堂より選
ばれて入社し日蓄へ合併するまで營業部長として活躍す。
日蓄へ併合されるや辭して昭和四年十二月小石川區春日町
に春日蓄音器商會を創設し、同時にポリドールが邦樂盤發
賣と共にジヨバとなつて蓄音器レコードの卸小賣商として
旗上げし、逐年發展し後現在の銀座に進出し合名會社組織
とし今日の盛況を呈するに至る。
現在東京蓄音器商業組合營業統制委員。

岡田廣助 (葛飾區金町一二三)



全聯關東支部監査部長。明治二
十六年六月六日生。湘南蓄音器商
組合長、神奈川縣蓄音器商組合聯
合會長、全國蓄音器商組合聯合會
常任理事、日本商工會議所中小商
業者指導員等の公職に歴任し、蓄
音器業界に關係以來實に二十有三ケ年間。現在全聯關東支
部の監査部長として業界の爲めに日夜活躍、斯道の先覺と
しての要望を負ふてゐる。

森口昌亮 (阪神沿線杭瀬町昭和筋)

阪神組合長。明治三十六年三月五日尼ヶ崎市に生る。工業精密機械科出身、音楽に興味を持ち研究の旁ら昭和三年八月生駒樂器店を開業す。昭和六年公職を退き専門的に蓄音器樂器店を經營、昭和十三年阪神蓄音器商組合長代行、同十四年組合長に就任し現在に至る。

中田由松 (兵庫縣武庫郡鳴尾内葭島三)

合名會社ナカタ商會主。明治二十四年五月三日阪神沿線鳴尾に生る。大正十三年四月創業。現在阪神蓄音器商組合副組合長兼統制部長の外に、鳴尾商工會々頭、兵庫縣物價調査委員、西宮警察署管内經濟強力委員等の公職にあり。

土屋明 (福岡市下新川端町二五)

日蓄土屋蓄音器商會主。九州に於ける蓄音器業界の元老として長年斯界の爲めに活躍す。大正十一年三月創業、卸

部日本イーグル蓄音器會社、小賣部日蓄土屋蓄音器商會及日蓄天神町支店を經營す。全聯副會長及九州支部長の要職にあり。

内田良雄 (福岡市東中洲中央通り)

中洲屋蓄音器店主。明治廿八年九月十八日生。大正十三年三月日東蓄音器株式會社九州營業所會計係として入社、販賣部主任、營業所長を経て日東が太平と合併の際退社す。昭和十一年十二月、日東蓄音器直營小賣店中洲屋を繼承して今日に至る。昭和十四年九月藤原樂器店を引き受け中洲屋支店として經營す。

田中鍊一 (門司市榮町四丁目)

合資會社門司日蓄商會主。明治四十四年三月一日株式會社日本蓄音器商會に入社し同社門司出張所主任、名古屋支店長等を歴任し、大正十五年退社す。之れより先大正十年三月に蓄音器店を創業し、逐次發展をなし合資會社門司日

蓄商會として北九州の玄關、門司に於て重きをなす。現在九州北都蓄音器商組合顧問の要職にあり。

紀章逸 (小倉市魚町一丁目)

日蓄商會主。明治十七年十二月廿八日生。明治四十四年二月株式會社日本蓄音器商會に入社し、同社長崎出張所主任となり、大正二年十月社命に依り大分市に出張所を新設し同主任となる。

大正四年迄日蓄の爲めに盡粹し同三月辭任、翌四月に小倉市にて蓄音器店日蓄商會を開店し、北九州蓄音器商組合長たること滿七ヶ年に及び地方業界の爲め活躍す。

新清次郎 (福岡縣行橋町魚町)

新聲社主。明治十三年一月十日生。東京音樂學校師範科出身。福岡師範其の他の音樂教師をなし多年音樂教育家として活躍し、「新編唱歌教授法」「中等樂典教科書」其他の著書あり。退職後大正十五年蓄音器樂器店新聲社を經營、茲來十六年今日の大成をなし別府に支店を經營す。又九州北

都商蓄音器商組合都代表評議員として業界の爲め貢献する所甚大なり。

長岡壽市 (直方市古町一丁目)

合名會社長岡信支店主。明治十三年大分縣に生れ。明治三十五年直方へ轉居し、樂器店販賣と家傳樂製造施藥約三ヶ年、其後實費販賣をなし、昭和二年三月卅一日福岡縣知事より善行表彰、同二年八月本派本願寺より篤行表彰さる。明治三十五年創業以來實に二十三ヶ年に及ぶ。現在九州北都蓄音器商組合直方支部長たり。

蓄音器會社

青砥道雄 (澁谷區上通り町四ノ三三)

ピクター文藝部企劃課長。明治三十三年三月二十一日生。東洋音樂學校本校出身。柴田秀子、芝祐泰、堀内敬三氏に師事す。大日本音樂協會員。

伊東 禿 (横濱市神奈川區守屋町日本ビクター本社内)

日本ビクター専務取締役及びコロムビア取締役。本年一月ビクター文藝部長岡庄五氏日活副社長となりし爲め、ビクター文藝部長を兼職す。芝浦電氣株式會社取締役。

江守清樹郎 (赤坂區青山南町六ノ一二〇) 電話青山一五七七番



帝國蓄音器株式會社取締役、總務。明治三十三年十一月二十五日福井縣吉田郡松岡町に生る。昭和二年明治大學法學部出身。同年四月日活に入社、神田日活、神樂坂日活、帝都座等の支配人を経て、昭和九年二月日活退社、吉本興業部に入社。同年十二月日活へ復社、營業部長に就任、昭和十二年日活を退社し帝國蓄音器株式會社へ入社、現在同社取締役、總務として東京文藝部、吹込所を統轄し才腕を振るつてゐる。

奥村 透 (横濱市中區久保町東臺六三二)

ビクター邦樂部樂藝課長。

押田 良久 (小石川區原町一二〇)

ポリドール文藝部員。早大經濟科出身。

勝間外次郎 (兵庫縣武庫郡甲子園月見里四〇)

明治三十三年二月四日滋賀縣大津市に生る。ポリドール蓄音器株式會社創立以來營業部長として活躍し、現在同社取締役兼營業部長、大阪支店長を兼任す。

桂 近乎 (杉並區天沼一ノ二六三)

ビクター音樂課長。明治三十四年四月二十五日生。東京帝大文學科出身。著書「ヴァイオリン音樂解説」「樂典の講義」「音樂美學」等あり。

熊倉雄三 (杉並區松ノ木町一二二〇)

ビクター文藝部員。立教大學出身。目下應召中。

小山令道 (杉並區堀ノ内帝蓄文藝部内)

明治四十二年六月八日神田須田町生。大正十年私立海城中學へ入學、二年の詩よりマンドリンを始め太田虎雄氏へ師事、同十五年明大豫科に入學、マンドリン俱樂部へ入り第一マンドリンを受持つ。昭和七年同大學商學部を卒業、昭和八年近衛歩兵三聯隊に入隊、同十一年除隊後歩兵少尉に任官。昭和九年五月古賀政男氏と共にテイチクに入社、會計主任となり。最近ディレクターを兼任す。

鈴木幾三郎 (淀橋區下落合三ノ一一三九) 電話大塚五九四番

ポリドール蓄音器株式會社社長。立教大學出身。十字屋樂器店社長倉田菊次郎氏の令弟。昭和二年ポリドール創立以

志村二郎 (品川區大井伊藤町五七九四)



來專務取締役として活躍し、阿南正茂社長の死後二代目社長となる。大日本音樂協會員。ゼーオーレコード株式會社社長。明治三十一年七月七日山梨縣に生る。山梨縣立都留中學校を経て海軍々樂隊出身、日著其の他蓄音器店の名セイルスマンとして活躍、昭和十四年一月田端のオーゴンレコードの跡を改造してゼーオーレコード會社を設立、同五月株式組織とし一般依頼吹込及び軍部並に教育レコードの製作をなし、本年三月一般レコードの發賣をなす。尙明治化工專務取締役及亞細亞石綿販賣合資會社代表社員たり。

關 清武 (大森區雪ヶ谷二四〇)

ビクター洋樂部員。早大佛文科出身。現代日本作曲家聯盟贊助員。著書「伊太利廣文曲」あり。

竹中靖治 (麴町區麴町九ノ五)

帝國蓄音器株式會社取締役。吹込技師。明治二十七年五月二十日生。コロムビアに昭和九年まで約二十年間吹込技師として在任、邦人吹込技術中の權威者として斯界に貢獻する所甚大である。

田那邊安彦 (淀橋區柏木二ノ四七一)

海軍々樂隊出身、東京音樂學校に學ぶ。日本蓄音器商會文藝部、オデオンレコード會社文藝部長、パナソニックレコード廣告部長、ラッキークレコード文藝部長等を経て現在大日本蓄音器株式會社東京營業所長。

辻順治 (府下町田町玉住宅地)

ピクター音樂部長。前陸軍々樂隊長。前ポリドール吹込所長、大日本音樂協會員。作曲多數あり。(第一編參照)

南口重太郎 (奈良市肘塚町帝蓄内)



帝國蓄音器株式會社社長、南口商會を經營、關西實業界にて活躍し、昭和七年帝國蓄音器會社創立されるや専務取締役として初代社長吉川島次氏の懐刀として奮闘し帝蓄の今日の隆盛の基礎を基き、吉川社長辭任の後を享けて社長となり、辣腕を奮つてゐる。

南方康哉 (世田ヶ谷區北澤五ノ八〇三)



明治三十五年七月二十九日生。明大商學部出身。内外蓄音器會社よりコロムビア關西文藝部ディレクターとして活躍後ダイヤモンド其の他の錄音會社を創立、昭和十三年九月田端のオーゴンレコードの後を繼承してゼーオー・レコードスタジオを設立し、十

四年三月株式組織とし常務取締役兼技師長として活躍、現在に至る。

中山正 (牛込區若松町九四)

明治三十七年八月二十五日宮崎縣北諸縣郡高城村に生る立教大學卒業、昭和六年ポリドール蓄音器株式會社創立と共に入社、現在、日本ポリドール吹込所長として活躍。大日本音樂協會員。

原善一郎 (目黒區富士見臺一五四四)

コロムビア滿洲吹込所長。コロムビア宣傳及企劃課長として長年活躍す。前國際藝術社、原音樂事務所主宰。

馬場二郎 (澗野川區中里町三三〇)

ピクター洋樂部長。大日本音樂協會員。日本現代作曲家聯盟賛助員。「音樂夜話」其他著書、譯書多數あり。

福西潤 (品川區西大崎一ノ八七)

コロムビア文藝部次長。明治三十二年一月二十九日生。關西學院出身。

藤井夏人 (蒲田區女塚一ノ二二)

ピクター洋樂部企劃課長代理。明大商科出身。日本現代作曲家聯盟賛助員。著書「器樂名曲解説」其他あり。

松村武重 (麻布區笄町一〇三)

日本蓄音器商會取締役、文藝部長兼宣傳部長。

峰村幸三 (豊島區池袋町二ノ一〇九三)

ピクター宣傳部長。日本廣告研究會幹事長。紐育商大出身。

森 垣 二 郎 (浦和市仲町一ノ一〇〇)



コロムビア文藝部主事。兵庫縣城崎郡豊岡町に生る。幼にして藝事を好み七歳にして長唄に志ざし二十歳にして踊りは片山流に、廿四歳にして北村季晴氏に洋樂を鈴木鼓村師に生田流琴曲を學ぶ。遂

で藤間勸四郎師及び藤間勸翁に舞踊を、落合惠師に一中節萩江節地唄の教へを乞ふ。茶は裏千家、華道は小原流、作法は小笠原流・書道を孫過庭、禪を永平寺別院泰慧昭禪師に學ぶ。大正參年日本商音器商會へ入社し大正五年より十一年迄六年間コロムビア文藝部長の要職にあり。大正拾貳年内外蓄音器株式會社(タイヘイの前身)を創立、昭和五年迄七年間同社の専務取締役社長として重責を果す。昭和六年日本コロムビアの關西文藝部長として入社、昭和八年迄二ヶ年良く職責をつくり大阪文藝部閉鎖に及び退社す。昭和十年十二月重役武藤與市氏の懇望に依つて再入社す。コ社の純邦樂の刷新を計り佐々紅華氏及び藤本二三吉氏

を舞踊小唄に、端唄、小唄集に活躍させ一昨年以來五十數種百萬枚の好成绩を上げた事は特筆すべき事である。現在文藝部主事として衆望を負ふ。作品、作曲「茶摘唄」「高知民謡」「但馬民謡」作詞「滑稽五人男」等がある。趣味—作詩、作曲、邦樂の研究、脚本、書道、禪、庭造り等。

宮 下 豊 次 (品川區大井伊藤町五七七九)

明治三十二年四月七日生。海軍々樂隊出身。元海軍々樂特務中尉、昭和十四年三月佐世保海軍樂隊樂長を辭し、セーラーレコード株式會社音樂部長として入社す。「御神火行進曲」其他軍樂隊時代に行進曲の作曲數種あり。現大日本吹奏樂報國會常務理事。

茂 木 了 次 (杉並區和田本町九七七九)

帝國蓄音器株式會社文藝部長。(第一編七十一頁參照)

本 眞 毎 夫 (西宮市今津タイヘイ文藝部内)

タイヘイ文藝部長、一時同社京都營業所長となりしも再び文藝部に歸參す。

八 橋 欽 二 (大阪市住吉區帝塚山中四ノ九)

コロムビア大阪支店長、元名古屋支店長、全國蓄音器レコード製造協會大阪支部長を兼任す。

山 田 甚 五 郎 (兵庫縣川邊郡西谷村)

電話池田二九二五番

帝國蓄音器株式會社監査役、大阪文藝部總務として活躍す。

山 口 喜 三 郎 (品川區南品川五ノ二六〇)

電話高輪九五六番

日本ビクター蓄音器株式會社及び株式會社日本蓄音器商會取締役會長を兼務す。明治七年東京に生る。米國に暫ら

く留學す。芝浦電氣株式會社(前東京電氣株式會社)社長外數會社の重役を兼ね實業界に重きをなす。

矢 代 隆 庸 (小石川區戸崎町二五)

明治四十一年十一月一日現住所に生る。中央大學專門部商科出身、昭和十二年東寶映畫會社へ入社。昭和十四年帝國蓄音器株式會社へ入社、會計係勤務。

長 谷 川 卓 郎 (豊島區池袋二ノ一〇九八)



株式會社大日本雄辯會講談社常務取締役、キングレコード代表者。東京蓄音器商業組合顧問。大正十一年大日本雄辯會講談社に入社し人事係長、雜誌「キング」編輯局長、會計部長に歴任し、現在常務取締役として野間清治氏の後を享け社長野間左衛未亡人を輔佐して講談社重鎮として社務を統率す。

伏島周次郎

(王子區稻付西町三ノ六七)



レコードの基礎を築き現在に至る。大日本音楽協會員。

城井清澄

(坂橋區中新井町一ノ五八)



レコード販賣局長に就任現在に至る。

星野知常

(豊島區駒込三ノ四一三)

キングレコード編修部員。對外的な企劃、映畫タイアップ、演奏會方面を擔任し、キングレコード編修部に重きをなす。

清水瀧治

(王子區下十條一四七三)

キングレコード編修部員。キングレコード創設以來流行歌係主任として手腕を發揮しキング流行歌の堅實なる地歩を築き揚げ、名ディレクターとして重きをなす

柳井堯夫

(大日本雄辯會講談社キングレコード部)

キングレコード編修部員。帝大法科出身、昭和十三年五月神吉晴夫氏の後を享けて童謡係主任として現今のキング童謡盤の基礎を築き斯界にその名聲を高めるに至る。

川上嘉一

(濱松市廣澤町三四四)

日本樂器製造株式會社社長。東京帝大工科出身。「國家改良問題及び其の歸趨」「ピアノの話」等の著書あり。

官公署關係

京極銳五 (麹町區下二番町四二) 電話九段三三五〇番

内閣情報部囑託、子爵、大日本音樂協會員。

國鹽耕一郎 (麹町區虎之門内務省内)

内務省事務官。著作権法の制定に努力す。音楽著作権協會の著作権中介業に創設に當り斡旋す。又日本文化協會文化賞審査委員とし斯界に貢獻す。

小川近五郎 (浦和市岸區東町三〇五四)

内務省圖書課レコード檢閱係主任。

岩瀬信 (下谷區初音町四ノ一七六)

東京市公園課員。東京市主催の音樂事務擔當。清和健兒團音樂隊長。

井下清 (目黒區中目黒一ノ六六七)

東京市公園課長。日比谷音樂堂管理。大日本音樂協會評議員、全關東吹奏樂團聯盟理事長。

二見孝平 (世田ヶ谷區下代田町一〇四 清風園住宅)

文部省文化事業部員。明治十八年九月十四日生。東大英文科出身。外交官として永らく海外にあり、昭和九年歸朝同十二年スマトラ島メダン日本領事館に轉任、同十三年歸朝す。

村松竹太郎 (蒲田區御園町一ノ一ノ九)

東京市保健局公園課音樂主任。號吳山人。國民音樂協會理事、奉仕技藝聯盟評議員。

山本常雄 (四谷區霞ヶ丘日本青年館内)

日本青年館講堂課々長。

小川千本 (下谷區仲御徒町一ノ一)

日比谷公會堂主任。

赤井慶之介 (澁谷區曙ヶ谷原町九二四)

日本青年館講堂係、「會館春秋」同人。

千葉克夫 (麹町區内幸町一ノ一 仁壽講堂)

電話銀座三三八〇番
仁壽講堂主任。

放送局

矢部謙次郎 (大阪市上本町九丁目
大阪中央放送局内)

BK放送部長。大日本音樂協會評議員。

小野賢一郎 (芝區芝公園二一號ノ八
金地院内)

AK文藝課長。

中村寅市 (目黒區大岡町二二三)

日本放送協會經理部長。

太田太郎 (本郷區曙町二八)

AK洋樂課長。明治三十三年十月二十九日東京生。東京外語、東北帝大法文學部出身。前東京音樂學校教授、昭和十二年春渡佛、昨春歸朝、大日本音樂協會員。著書ベツカー「西洋音樂史」の譯書外數種あり。

大塚正則 (杉並區堀之内一ノ一四六)

AK文藝課洋樂主任。明治二十三年二月二十二日生。元陸軍々樂隊三等樂長、大日本音樂協會員。

有坂愛彦 (世田ヶ谷區新町一ノ一〇三)

AK洋樂長。明治三十八年九月十七日生。東京帝大美術出身、音樂美學評論家、東京高等音樂學院講師。大日本音樂協會員。

青木正 (麻布區六本木町一)

AK洋樂係。筆名、青木爽。山田耕柝氏に師事、大日本音樂協會員。

丹生健夫 (澁谷區青葉町一一)

AK洋樂部員。ラヂオ體操ピアノ伴奏。武藏野音樂學校出身、吉原規氏門下。

關屋五十二 (杉並區成宗一ノ四一)

電話荻窪三九七四番
AK兒童係主任。

江木理一 (牛込區山伏町一一)

AKラヂオ體操主任兼洋樂係。元陸軍々樂隊附樂長補。

沖不可止 (目黒區上目黒五ノ二四四九)

AK教養部員、童話放送係。東京音樂學校本科出身。

奥屋熊郎 (兵庫縣川邊郡稻野村御願塚)

BK文藝課長。電話伊丹三七五番

福喜多鎮雄 (大阪市天寺町上本町九丁目
大阪中央放送局内)

BK洋樂部主任。元海軍々樂隊長。

道滿謹吾 (滿洲奉天放送局)

奉天放送局長。JOAKに創立より昭和七年まで勤続。

樂器會社・樂器店

山野政太郎 (京橋區銀座四丁目二ノ四)

電話京橋二〇五二番

山野樂器店社長。大日本音樂協會監事。(著音器業界の項參照)

高垣 隆一 (京橋區銀座四丁目二ノ四 山野樂器店內)

山野樂器店支配人。明治二十七年二月二十日生。

大村 兼次 (府下吉祥寺一九一七) 電話吉祥寺二五八番

日本樂器會社東京支店長

澤山 清次郎 (京橋區銀座一ノ四) 電話京橋二六八六番

東京ピアノ商會社長。全國ピアノ技術者協會會員。大日本音樂協會會員。

倉田 菊次郎 (京橋區銀座三丁目三ノ二) 電話京橋六二一六番

十字屋樂器店主。大日本音樂協會會員。(前項參照)

萩原 貞司 (芝區若塚町一九) 電話高輪二五五番

日本樂器會社東京支店長。明治二十三年九月六日生。神戶高商出身。大日本音樂協會會員。

日比 光治 (橫濱市中區本牧町二ノ三六)

河合樂器株式會社幹部。

日 良 正 吉 (神田區神保町一ノ一四) 電話神田二四四三番

名曲堂主、アポロン蓄音器會社代表社員。早大經濟科出身、大日本音樂協會會員。

福 山 銳 雄 (濱松市寺島町)

河合樂器製作所顧問。明治十二年四月六日生。大日本音樂協會會員。元日本樂器會社東京支店長。

松 本 新 吉 (麻布區筈町七九)

松本ピアノ工場主。日本最初のピアノ技師として知らる。

眞野 精次郎 (荒川區日暮里町八ノ八五三) 電話下谷四一六九番

トシボ・ハーモニカ製作所社長。

三 宮 春 吉 (淺草區松葉町九一) 電話淺草八三一一番

日本管樂器株式會社取締役工場長。明治十七年四月一日生。昭和七年代表社員に就任。

田 邊 勝 久 (芝區新橋二ノ二) 電話銀座一四八〇番

田邊吹奏樂器會社營業部長。旋律喇叭隊普及會理事。

鈴 木 梅 雄 (名古屋市東區東門前町五三)

鈴木ヴァイオリン製作所社長。明治二十二年十二月九日生。名古屋音樂協會副會長。

新見 喜代 榎 (淺草區藏前二ノ六) 電話淺草七二九二番

新見樂器店經營。ハーモニカ發賣元。

八 尾 敬 次 郎 (淺草區淺草橋二ノ一) 電話淺草正五八七番

株式會社八歐商會社長。樂器卸商經營。東京蓄音器商業組合信用評定委員。

須 賀 龜 吉 (添草區淺草橋二丁目) 電話淺草四八番

蝶印(ハルヤギ)ハーモニカ總發賣元。樂器、玩具、運動具・問屋。

宇 野 庄 助 (淺草區淺草橋三丁目) 電話淺草六一二二番

ミヤタバンド・ハーモニカ發賣元。

井 部 精 一 (牛込區通寺町八) 電話牛込五一三三番

合資會社タチバナ樂器蓄音器商會主。東京蓄音器商會協議員。

音樂雜誌

唐 端 勝 (京橋區寶町寶橋アパート) 電話京橋六〇三九番

「月刊樂譜」編輯主任。明治三十八年三月二十八日生。同志社大學及慶大文科出身。大日本音樂協會會員。著書多數あり。

柿沼太郎 (淀橋區上落合二ノ七九〇)

「音樂新潮」主筆。音樂評論家。著書「西洋音樂史」其他。

久保田公平 (澁谷區代々木初臺五六三)

「音樂世界」編輯部員。成城中學講師。音樂理論、作曲家。

畔柳治三雄 (杉並區馬橋四ノ四七八 佐藤方)

「音樂世界」編輯部員。

高橋均 (世田ヶ谷區成城町四二)

「音樂研究」主筆。著書「器樂鑑賞の基礎」その他あり。

藍野照子 (杉並區和泉七五五)

「音樂新潮」編輯部員。本姓碓氷。東京高等音樂學院本科出身、ピアニスト。

一條重美 (澁谷區礪田一ノ一〇一)

「音樂評論」社編輯部員。明治四十二年生。東京帝大文學部出身。

長島卓二 (豊島區長崎町三ノ一六一)

「レコード音楽」及「ハーモニカアコーディオン研究」編輯主任。明治四十二年十二月十八日生。武蔵野音樂學校本科出身。堀内敬三、門馬直衛に師事。著書「概観音楽史」「和聲樂と對位法の基礎」等の譯あり

奥野保夫 (澁谷區水川町二)

「レコード音楽通信」發行、明治三十七年一月十七日生。慶大法學部出身、大日本音樂協會會員。筆名椰子夫で作詞をなす。(第三編參照)

佐藤香津樹 (王子區稻付町四ノ六三二)

「バンドの友」主筆。田邊吹奏樂器會社宣傳部囑託、旋律喇叭隊普及會、吹奏樂器普及會主事。

松野雅一 (杉並區天沼一ノ一七六)

演藝日報社長。明治二十八年六月十九日神田生。山野樂器店、AK、東京及日本演藝通信社を経て現在に至る。大日本音樂協會會員。

村松道彌 (牛込區赤城下町六五)

「音樂新聞」「音樂商報」發行。明治三十四年三月二十五日生。二月會員、大日本音樂協會會員。

目黒三策 (牛込區早稻田鶴卷町二二)

雜誌「吹奏樂」編輯主任。早大政經科出身。

樂書出版

白井保男 (芝區松本町四四) 電話三田四〇五六―七番

合資會社共益社書店社長。明治三十二年三月三日生。慶

應大學理財科出身。大日本音樂協會理事、大日本音樂出版協會長。(第一編參照)

櫻村鎗一 (神田區小川町三ノ二四) 電話神田四三九番

樂書出版、敬文館經營。明治三十五年八月一日生。

高田守久 (本郷區春木町三ノ一一) 電話小石川五三九五番

「ハレルヤ樂社」主。樂譜發行。明治二十六年十月十日生。東京音樂學校甲種師範科出身。府立第八高女教諭。作曲集「音樂新篇」第十五篇まで其他各種の作品あり。

草野茂 (牛込區西五軒町三四) 電話牛込九三九番

樂書出版。株式會社シンフォニー樂譜出版社社長。大日本音樂協會會員。

草野貞二 (淀橋區戸塚町四ノ五九〇) 電話牛込二二三二―番

樂書出版。新興音樂出版社社長。明治三十四年一月二十日生。大日本音樂協會會員。

岸本福太郎 (目黒區下目黒町四六八)

樂譜、音樂書出版、白眉出版社經營。

島田貞二 (牛込區東五軒町二六) 電話牛込三五五一番

樂譜出版。全音樂譜出版社經營。

内藤健三 (芝區神谷町二八) 電話芝三八九七番

樂書出版。合資會社東京音樂書院經營。

小林嘉貞 (淀橋區戸塚町一ノ五三二) 電話牛込六三八五番

樂書出版。大正書院經營、月刊「遊戲と唱歌」發行。

佐竹雅治 (神田區駿河臺二ノ六文精社ビル) 電話神田二五七二番

樂譜版下。佐竹樂譜淨寫所主。明治二十九年十二月九日生。

佐竹忠治 (目黒區下目黒四ノ八五一)

樂譜版下、騰寫、寫譜。別名弘次、明治三十二年十月二十日生。東京音樂學校選科作曲部に學ぶ。大日本音樂協會員。

岡田榮太郎 (神田區佐久間町神田川ビル) 電話下谷一七九三番

樂書出版。岡田日榮堂主。明治二十年三月二十四日生。中央大學出身。

三谷熊次 (神田區神保町一ノ六七) 電話神田三六三九番

寫譜業。明治二十八年四月十一日生。三谷樂譜淨寫所經營、大日本音樂協會員。

倉林滿壽雄 (神田區神保町一ノ一三)

樂書出版。フランス音樂文庫店主。

音樂記者

吉本明光 (世田ヶ谷區玉川尾山町三二八)

讀賣新聞社ラヂオ部長。明治三十三年十一月五日生。故海軍々樂長吉本光藏氏の息、慶大經濟學部出身。

渡邊登喜雄 (名古屋市東區千種町高見名古屋住宅八一號)

名古屋新聞社學藝部員。明治四十年三月十日生。青山學院英文科出身。

中山茂憲 (大阪市北區堂島大阪毎日新聞社内)

大阪毎日新聞社學藝部員。

西澤武夫 (淀橋區下落合三ノ一七七二)

東京夕刊新報社會部員。明治三十三年五月十四日生。智大出身、舊オルケストラ・シンフォニカ・タケキ部員。

早川泰雄 (本郷區東片町一一二)

國民新聞社學藝部員。

甲田正夫 (淀橋區上落合二ノ六一六)

東京日々新聞社學藝部員、音樂記者。慶大文學部出身。

佐藤寅雄 (大森區馬込町一ノ一三二七)

報知新聞社學藝部員。明治三十五年生。東京外國語學校佛語科出身。二月會員。前松竹歌劇文藝部員。

相島敏夫 (世田ヶ谷區北澤二ノ一〇三)

東京朝日新聞社學藝部音樂記者。明治三十八年生。別名鐵一郎、東京帝大工學部出身。

岡山東 (豊島區池袋二ノ一六八六)

國民新聞文藝部囑託。日本新聞聯盟編輯委員。明治三十

七年十二月三十一日生。東洋大學文化科出身。

梶原影浩 (四谷區右京町四〇)

讀賣新聞社學藝部員。音樂記者。東京帝大美學科出身。オペラ史の研究者。四谷左門の別名を用ふ。

金子義男 (目黒區上目黒七ノ一〇二二) 電話青山二八四〇番

東京日日新聞社社會部副部長。明治三十二年生。慶大理財科出身。大日本音樂協會員。

金子常雄 (豊島區池袋四ノ四五九)

報知新聞社計畫部員。明治二十三年一月五日生。

古澤武夫 (本郷區千駄木町五七)

同盟通信社音樂編輯主任。明治三十四年五月二十日本郷生。明大政治科出身、筆名、青い鳥、葉山竹夫。大日本音樂協會囑託、日本舞踊聯盟評議員、二月會員。「音樂年鑑」編輯主任。

富樫周夫 (京橋區銀座西六ノ五鍋町) ビル東蓄組合内)

東京蓄音器商業組合「蓄音器時報」編輯主任。同書記長大日本音樂協會員。

映畫關係

高木益美 (大阪市北區神山町三二二 澁谷方)

明治四十年二月十四日福島縣平市田町に生る。平市立商業學校卒業後獨學にて音樂を研究す。上海北支、滿洲方面のダンスホール、ホテル及び東寶管絃樂團に入り音樂指揮をなせしことあり。作詞、作曲、編曲をもなす。現在新興キネマ演藝部音樂課主任。

代表作品「ワカナ節」「さくら變奏曲」外數十曲あり。趣味―茶、花、陶器。

土橋武夫 (神田區淡路町二ノ四) 電話神田四七三二番

土橋研究所長。土橋式錄音創始者として斯界に貢獻す。

岡庄五 (世田ヶ谷區深澤町四ノ一七三三)

日本活動寫眞株式會社副社長。前ピクチャー會社取締役、東京支店長兼文藝部長。明治二十五年三月二日生。大日本音樂協會員。

森岩雄 (澁谷區竹下町一二二) 電話青山四七五五番

東寶映畫取締役。明治三十二年埼玉生。映畫評論家。

河合龍齋 (豊島區西巢鴨四ノ四四五) 電話大塚二八八九番

大都映畫株式會社巢鴨撮影所長。

城戸四郎 (本郷區本郷一ノ一) 電話小石川一四五八番

松竹大船撮影所長。明治二十七年東京生。東京帝大英法科出身。松竹専務取締役。

六車修 (板橋區東大泉町一〇三四) 電話石神井七九番

新興キネマ株式會社東京大泉撮影所長。

淺野修一 (本郷區駒込曙町二) 電話大塚四八四五番

富士寫眞フィルム社長。明治十六年東京生。東京高商出身。

小林一三

東寶社長、東京電燈社長、明治六年山梨縣生。慶應義塾出身。内閣情報部參與。

篠山克巳 (京都市右京區花園双ヶ丘) 電話西陣五五一一三番

松竹キネマ京都第二撮影所長。兼企劃部長。

永田雅一 (京都市右京區太秦蜂ヶ丘九) 電話土生四二二二番

新興太儀撮影所長兼第二撮影所(永田映畫研究所)長。

芦田勝至 (府下調布町布田小島分六〇三) 電話萩窪三三三五番

日活多摩川撮影所所長代理。

藤田平二 (京都市右京區嵯野秋街道) 電話五七二番

日活京都第二撮影所長。

重宗和伸 (世田谷區世田ヶ谷四ノ三九一) 電話世田ヶ谷三〇六〇番

東京發聲映畫撮影所代表者。

山口天龍 (奈良市外大軌沿線あやめヶ池) 電話富雄三六番

全勝キネマあやめヶ池撮影所長。

森満二郎 (澁谷區原宿二ノ一九六)

東寶映畫宣傳課長。明治三十八年生。外語佛語科出身、音樂評論家、前都新聞記者。二月會員。

プレイガイド

加藤眞 (目黒區綠ヶ丘二三三七)

プレイガイド社取締役。明治三十三年八月十二日生。専修大學經濟科出身。

嘉納廉祐 (大阪市住吉區帝塚山山中一ノ一八) 電話住吉三六四七番

マネエジア。大阪音樂協會幹事長。

岩間保夫 (豊島區西巢鴨二ノ二五七〇)

三省堂プレイガイド主任。

佐野數定 (淀橋區柏木四ノ九六六)

コンサート・ガイド社及告進社主。明治二十八年五月二十五日生。大日本音樂協會囑託、國民音樂協會評議員。

加藤松太郎 (京橋區銀座西八ノ五日吉ビル) 電話銀座〇一三〇番

小林千代子一座の總務。プレイ・ビュローを設立して一般演奏會の一切のマネージメント事務を開業す。

第八編 音樂關係團體

機關團體 演奏團體

第八編 音樂關係團體

機關團體

社團 大日本音樂著作權協會

淀橋區角筈一ノ七六五新宿ビル内

設立 昭和十四年十一月十八日

趣旨 昭和十四年十二月十三日勅令を以つて施行された著作權仲介業法に依り内務大臣の監督下に於て、音樂（邦樂、洋樂並に之が歌詞）に關する著作權の仲介業をなす。會員は本會に於て適當と認め且つ主務官廳の承認を得たる作曲家、作詞家の團體により推薦せられたる者、又は其の團體を代表する者にして本會の理事會に於て承認せられたる者。現在會員約六十名。

一般信託者約三百名。

役員 會長（未定） 理事長 増澤健美。

理事 林柳波、久保田宵二、渥美清太郎外數氏。
監事 小林愛雄外數氏。
營業開始 昭和十五年三月一日。

社團 大日本作曲家協會

杉並區阿佐ヶ谷三ノ四八五
（電話荻窪二四二二番）

作曲家の團體として大正十四年十一月十九日創立。

事業——作曲の獎勵と作曲者の權益を擁護する目的を有し作曲の懸賞募集、作曲年鑑の發行、作曲祭の開催等。

會員——作曲家に限り會員三名の紹介と資格審査とを経して許可す。現在會員百四十名。會費年額參圓。

役員——會長、水野鍊太郎。總務理事、小松遊輔。理事 本居長謙、中山晋平、杉山長谷雄、梁田貞、藤井清水、堀内敬三、佐々木英、弘田龍太郎。監事、福井直秋、大和田愛羅。

社團 日本作歌者協會

本郷區彌生町三はノ七號
（電話小石川四五五番）

大正十五年に全國の作歌者に依つて設立する。
 事業——作歌者の著作権擁護と作歌に關する調査及向上を圖る。本年四月創立滿十五週年記念と皇紀二千六百年奉祝の爲め「奉祝歌集」を献上し天覽を賜ふ。
 會員——作歌者にして會員二名の紹介に依り理事會の決議に依り入會を許さる。會費年額三圓、現在會員一百名。
 役員——理事長 小林愛雄。理事 西條八十、野口雨情、堀内敬三、葛原しげる、松原至大。
 顧問辯護士 高木常七。

社團 大日本音樂協會

京橋區銀座西六ノ五福山ビル内
 (電話銀座三三三、三二五、三八三〇番)

音樂舞踊の振興を圖る目的の下に昭和七年五月創設。東京在住の音樂關係者に依つて組織さる。
 事業——音樂に關する調査と研究を行ひ「音樂年鑑」旬刊「NOK會報」を發行、パンフレット及公刊アナウンスメントを隨時發行し、講演會、演奏會、オーディションを催し、音樂文化事業を行ふ。

會員——普通會員は會費年額六圓、申込金二圓を納む。現在會員約四百名。
 役員——會長、大倉喜七郎。常務理事、増澤健美、田村虎藏。理事、田中正平、小松耕輔、萩原英一、堀内敬三、町田嘉章、山田耕筰。監事、近衛秀麿、鈴木乃婦、山野政太郎。
 顧問辯護士 石原五木雄。書記、新里清三郎。

社團 兒童藝術協會

神田一ツ橋教育會館内

創立、昭和元年。趣旨、聲國精神に基く兒童藝術を振興し、之が指導原理を確立す。東亞建設の精神的推進力を鍊成啓培す。少國民の情操を陶冶し、皇國の正史を無窮に擔ふ氣魄を顯揚す。
 會長 水野鍊太郎。副會長、篠原英太郎。
 理事長 中澤留。理事、九名。顧問、七名。
 參與、委員、數名。
 嘗つて機關誌「兒童藝術」を發行す、目下休刊中。
 昭和二年十一月第一回兒童藝術研究大會開催。

昭和十四年十一月第二回大會開催。

日本教育音樂協會

下谷區上野公園東京音樂學校内
 (電話下谷五五六三番)

教育音樂の振興を圖る目的の下に全國の音樂教育者に依つて大正十二年故小山作之助氏を會長として創設さる。
 事業——教育音樂の研究會、講習會、會報「教育音樂」の發行、「新尋常小學唱歌」「新高等小學唱歌」「體育ダンス」等の教科書編纂、本會主催の全國兒童唱歌コンクールは昭和八年より音樂週間之を主催す。
 會員——全國の教育音樂關係者五千名、會費年額壹圓八拾錢。

日本レコード作家協會

澁橋區戸塚町四ノ五九〇
 (電話牛込三三二二番)

役員——會長、乗杉嘉壽。理事、青柳善吾、岡田志津磨、菊地盛太郎、橋川なみ、小松耕輔、小林つやえ、福井直秋、船越富美子、松岡郷美、松井力、吉田照十萬。

レコードを中心とする作詩、作曲家の俱樂部にして會相互の親睦を圖り、並に樂譜出版其他會員の權益を擁護するを目的とし昭和十三年七月創立す。
 會員 現在七十二名。

國民音樂協會

麹町區六番町一三ノ二
 (電話九段二二三六番)

音樂の普及向上を圖るを以つて目的とし昭和二年創立す
 事業——毎年一回秋合唱祭を行ふ。
 役員——理事長、小松耕輔。理事、大和田愛羅、澤崎定之、矢田部勤吉、堀内敬三、村松竹太郎、吉田永靖、淺香燐三郎、野村淑弘、北澤宏元。

日本現代作曲家聯盟

世田ヶ谷區松原町四ノ一四〇
清瀬保二方

作曲家中の新人を以つて組織され、昭和四年創立す。演奏會を行ひ毎月定例研究會を催す。

會員 約四十名。委員、諸井三郎、大木正夫、太田太郎。

日本放送協會

麹町區内幸町二ノ二日本放送會館内
(電話銀座七七五二番)

全國の放送局を統轄し逓信省監督の下に放送事業一切を管掌す。中央放送局(東京、大阪、名古屋、廣島、熊本、仙臺、札幌)外地方放送局共に三十四個所あり。

日本放送協會音樂關係職員

總裁 近衛文麿。會長 小森七郎。

總務局 (常務理事)清水順治。經理部長、小田友次郎
計畫部長、中村寅市。

技術局 (理事)米澤與三七。工務部長、大森丙。技術

部長、初見五郎。

業務局 (常務理事)片岡直美。報導部長 成瀬金兵衛
ニユース課長兼告知課長、寶田通元。

教育部長、小尾純治。兒童係主任、關屋五十二。

文藝部長、小野賢一郎。演藝課長、小林徳三郎。

洋樂課長、太田太郎。洋樂係(主任)大塚正則、青木

正、有坂愛彦、高階哲夫。

放送編成部長、内田信夫。

大阪中央放送局

局長 (理事)關正雄。放送部長、矢部謙次郎。

文藝課長 奥屋熊郎。洋樂係主任、福喜多銀雄。

日本放送出版協會

芝區田村町一ノ四
(電話銀座〇七〇七番)

放送局のラヂオ・テキスト、ラヂオ講座、國民歌謡の樂譜等放送に附隨する一切の出版をなす。

詩曲聯盟

四谷區永住町二 宮田方

著作權擁護の爲めに昨年四月、レコード作詩、作曲家に依つて結成す。

理事長 江日夜詩。理事 飯田三郎、仁木他喜雄、野村俊夫、高橋掬太郎、相談役、宮田東峰、書記は早大出身、前長崎地方裁判所書記、現ミヤタ・バンド主事松田完治。

日本佛教音樂協會

牛込區辨天町一五

全國の佛教音樂關係者に依り昭和八年創立す。

事業——「佛教音樂全集」(全十卷) 刊行、月刊「佛教新音樂」の發行、佛教音樂舞踊の講習會、發表會開催等。

役員——常務理事、江崎小秋、賀來琢磨、本多鐵磨。理事九名、同人二十二名。

日本演奏家聯盟

京橋區銀座西八ノ三
(電話銀座九一八番)

全國の主なる演奏家及音樂教育家を以つて組織され、昭和十一年創立。會報「樂壇」を發行す。會員四百名。

實行委員 奥田良三、小森宗太郎、鐵能子、鯨井孝、武岡鶴代、柳兼子、平間文壽、照井榮三、平井保三、土川正浩。

國際文化振興會

麹町區丸ノ内明治生命ビル七階
(電話丸ノ内九五七番)

日本文化の國際的發展促進を目的とする團體。

會長 近衛文麿。理事長 樺山愛輔。

日本文化協會

麹町區日比谷公園市政會館内
(電話銀座一一七四番)

日本文化の振興を圖る爲めに設立さる。各種の文化賞を

設定、文化の向上發展と文學音樂の獎勵をなす。昭和十四年十月六大レコード會社の作詞、作曲家一名宛を北支、南支へ派遣す。

内閣情報部

麹町區永田町一ノ一、總理大臣官舎内
(電話銀座二二二番)

音樂關係事務は京橋鏡五子専ら之れに當る。「愛國行進曲」の制定、其他國民歌の撰定其他の事務を執る。

黎明作曲家同盟

牛込區南横町四七、大木方

昭和八年創立。作曲研究及作品發表に依る音樂運動を目的とす。同盟員は大木正夫、小林董五郎、八木傳。

大日本國民音樂協會

大阪市東區味原町九九
(電話東五五三番)

昭和九年二月創立。國民歌の募集を事業とす。

總裁 清浦奎吾伯。會長 大阪府知事。理事長 永井幸次。

大坂音樂協會

大阪市北區與力町二丁目
山本爲三郎事務所

昭和八年創立。理事長、山本爲三郎。常任理事、奥屋熊郎、有澤淀、永井幸次。會員約一千名。

音樂コンクール

麹町區有樂町東京日々新聞社事業課

昭和七年五月第一回を開催、第五回迄時事新報社が主催し、第六回より東京日々新聞社主催。毎年一回開催。部門は聲樂(獨唱)、器樂、(ヴァイオリン、チェロ、ピアノ)。作曲。程度は専門家標準。場所は東京市。申込所は前記。審査委員——常任委員、田村虎藏、小松耕輔、牛山光、野村光一、増澤健美、堀内敬三、大田黒元雄、山根銀二、萩原英一の九名。全體的に協議し審査に當り、各専門に就いては日本に於ける第一流の音樂家の中より毎年審査委員

を選定す。

審査は非公用にて豫選を行ふ。主として審査委員提出の課題曲に依り判定される。豫選通過者を入選者としコンクール参加章を受け一ヶ月後の公開コンクールに出演す。

表彰規定は種々改正され第六回目より各部門に亘り第三位迄に音樂コンクール賞を授け別に獎勵金として第一位は五百圓、第二位は二百五十圓、第三位は百圓を受けることになつてゐる。入賞者はコンクール後一、二週間後に成績發表放送を行ふ。然し入賞者以外でも入選者全部は放送資格が認めらる。

参加資格——日本人たること。聲樂に限り満十五歳以上と云ふ制限を設く。學歷其他に就いては制限はないが實際に於ては音樂學校卒業程度以上の技術がないと入選は至難である。

競演合唱祭

國民音樂協會主催
麹町區六番町一三ノ二

國民音樂協會主催、文部省、東京市及大日本音樂協會後

援。部門は混聲、女聲及男聲の各合唱。場所は東京市に於て行ふ。昭和二年より毎年一回開催す。

審査——競演團體全部が課題曲と自由選擇曲一曲づゝを演奏し二十餘名の審査員が採點す。

表彰——第一位、文部大臣盃、東京市長賞、JOAK優賞旗、東京朝日新聞社獎勵盃、大日本音樂協會盃、國民音樂協會賞金牌。第二位、同銀盃。第三位、同白銅牌。第四位、同青銅牌。男聲合唱第一位に東京日々新聞社獎勵盃、第二位に同獎勵盃並に讀賣新聞社獎勵盃が贈らる。

参加資格——素人専門家を問はず、本邦人よりなる合唱團、人數制限なし。

兒童唱歌コンクール

日本教育音樂協會主催

日本教育音樂協會主催。昭和七年十一月より毎年一回開催す。小學校兒童の唱歌(齊唱、人數十五人)の競演で全國の各大都市で豫選を行ひ、ラヂオ放送に依つて全國を通じての第一位を決定す。

演奏團體

新交響樂團

荏原區中延町一―一三
(電話荏原三八九―番)

近衛秀磨子を指揮者とし、交響樂の研究發表と普及を目的として大正十年十月組織された東洋第一の大交響樂團で毎年九月より翌年五月までを一樂期として、月二回定期録約演奏會を開き、内外大家の作品紹介と部員の研究發表を行つて居たが、昭和十年夏に至り「所謂新響問題」の勃發により分裂の危機に直面したが、各樂員の結束固く、よくその内部統制を保つて更生の實を示し、近衛子の手をはなれて樂團の爲に益々目醒しき活躍を示して今日に至る。
レコードは昭和八年秋以來コロムビア專屬として洋樂伴奏を受持つてゐる。月刊機關誌「マイルハーモニー」發行。樂員約六十名。事務所を京橋區銀座一ノ五に置く。別に日本交響放送等絃樂團を組織す。

東京放送管絃樂團

麹町區内幸町東京中央放送局内

東京中央放送局の演藝放送の伴奏團體として昭和十二年十二月十一日組織さる。團員二十四名。

中央交響樂團

芝區神谷町
(電話芝一九一―番)

名古屋交響樂團、松坂オーケストラが東京に於ける演奏の場合この名稱を用ひてゐたが、指揮者前海軍々樂長早川彌左衛門氏が昨年東京に移轉した爲め、帝都に本據を置きビクター專屬樂團としてレコードに、放送に活躍をなす。

大日本合唱團

麹町區丸ノ内丸ビル八八六區
(電話丸ノ内一九三四番)

オリムピックに備へる爲めに昭和十四年春組織されたる混聲合唱團體。理事長に徳川頼貞侯を推戴す。

大日本聯合合唱團

麹町區六番町一三ノ二
國民音樂協會内

民間合唱團が協力して成立した合唱團體。現在加盟團體ルナ・コーラ、オリオン・コール、E・Cクラブ、東京合唱クラブ、ニューフォニック・コーラス、君が代合唱團、アイラ・コール、東京リーダー。ターフェル・フェライン、ホワイト合唱團、靈南坂合唱團、ボリヒムニア・コール、サンマルテ合唱團、ブラームス合唱團、東京混聲合唱團。以上人員四五〇名。

ヴォーカル・フォア

京橋區銀座一ノ五
(電話京橋七六三五番)

オペラの研究を主要目的とし、昭和二年十月創立。混聲合唱團を有す。故松平里子、佐藤福子、田谷力三、内田榮一の四人と合唱員に依つて創立されたが現在は内田榮一と平井美奈子を中心とし、四十餘名の團員を有す。

コロロ・エコー

澁橋區柏木四ノ九三五
(電話澁橋一〇三〇番)

昭和六年七月組織す。下八川圭祐指揮、混聲合唱團、現在團員男女四十餘名、合唱コンクールに一等當選す。

オリオン・コール

澁橋區柏木四ノ八八八、吉田方

昭和三年十月創立。男聲合唱團、定指揮者を置かず、各國男聲合唱曲の研究發表をなす。
吉田永靖、高見三夫、横田孝、大塚楠男、鳴海信輔、外十六名。

オルケストラ・シンフォニカ・タケキ

淺草區淺草橋二ノ二 兼藤榮方

大正四年秋、プレクトラム樂器の合奏及個々の樂器の研究及發達を目的として組織す。春秋二回定期演奏會開催、作曲懸賞募集、全國合奏團競演會、月刊「マンドリン・ギター」研究一發行、曲譜出版、教授等をなす。
會長 武井守成。指揮者、武井守成、堀清隆、理事、兼藤榮、近藤武幹、松谷五郎、山崎太郎、部員約四十名。

東京オラトリオ協會

神田區美土代町七ノ一 Y M C A 内
(電話神田二一〇五番)

宗教音樂を研究する混聲合唱團。大正十三年創立す。
會長 村屋昇。指揮者、津川圭一。

健兒音樂隊

文部省内、少年團日本聯盟内

少年團の爲め大正十四年七月組織さる。前陸軍々樂長春

日嘉藤治指揮、隊員三十名。

宮内省樂部

麹町區丸ノ内宮城四の丸式部職
(電話丸ノ内二一〇一―番)

帝室附雅樂演奏團體。樂部長、坊城俊良、樂長、多久元多忠朝。樂師、豐時義、多忠保、芝祐泰、安倍季頼、蘭廣茂、窪兼雅、多基永、多忠吾、芝祐孟、多久保、豐昇二、辻英吉、多忠長、蘭廣虎、奧好察、東儀俊輔、多忠紀、多忠雄。

教會音樂研究所

麻布區市兵衛町二ノ二七

基督教音樂の普及、發展を圖り、演奏指揮に當る可き樂隊員、獨唱者、オルガニスト、指揮者、作曲者等を養成する目的に依り昭和六年春組織さる。

主宰、津川圭一。講師、堀内敬三、内田榮一、大中寅二、由木康。

ミヤタ・ハーモニカ・バンド

四谷區永住町二

大正十三年九月九日創立。名歌會長、宇野正助。會長、宮田東峰。總務、古關裕而。指揮者、松林和男。樂員部長、佐々木四郎。主事、松田完治、外部員七十名。

トンボ・アコーディオン・バンド

荒川區日暮里町八ノ八五三
(電話下谷四一六九番)

毎年コンクール及アコーディオン祭を開催す。
會長 眞野泰光。指揮者、眞野泰光、大塚潤一郎。常任幹事、今野俊藏。
機關誌「アコーディオン・ハーモニカ研究」を發行す。
編輯主任、兒玉あきひこ。

全日本ハーモニカ聯盟合奏團

荒川區日暮里町八ノ八五五
(電話下谷四一六九番)

ハーモニカ合奏法の確立を目的とし、昭和九年九月十八

日創立す。委員長、眞野泰光。指揮、花山道彦。昭和十年十一月以來定期演奏會を開催す。

あきれた・ぼういず

京都市左京區北白川久保田町一ノ二



益田喜頓の四人のコムビで組織され、淺草花月劇場及ピクチャーレコードにて活躍す。昭和十四年新興キネマに演藝部創立に當り、川田氏のみ吉本に留まり、坊屋、芝、益田の三氏は新興に入社し一時四人の名コムビは解消されたが川田氏の代りに山花茶究氏が加入して新興演藝部及びテイチク専屬とし

て活躍す。

坊屋三郎、本名、柴田俊英、明治四十四年三月二十八日北海道に生る。北海道中學卒業。日大豫科を経て法文學部藝術科を卒業。ヴォーカル・フォア合唱團、松山芳野里綜合研究所助手、吉本興業淺草花月劇場專屬を経て新興キネマ演藝部に入り現在に及ぶ。圓盤界ではビクターよりテイチク專屬となり現在に至る。

趣味—音楽、映畫、睡眠、食道樂、コーヒー、味噌汁、競馬。

益田喜頓、本名、木村一、明治四十二年八月三十日函館市湯川町に生れ、昭和十一年四月あきれた。ぼらいずを結成以來、坊屋三郎と同然、趣味—スポーツ。

芝利英、本名、石川正、大正二年六月二十日北海道夕張町に生れ、北海中學卒業後レヅユー界に入る。趣味—ねむたい、喰ひたい。

山茶花究、本名、末廣峰夫、大正三年四月一日神戸市須磨區戎町に生る。工業學校建築科を出たがふとしたはづみで約十年前淺草へ出て漂浪す。昭和十四年新興キネマ演藝部に入社し前記三氏のコムビに加入、あきれたぼらいずの

メンバーとして活躍す。

あきれた・ぼらいず代表作、ビクター「四人の突撃隊」テイチク「あきれた石松」「かぞへ唄」「ダイナ狂燥曲」等。

ハット・ボンボンス

京都市左京區淨土町南田町五五

豊島國彦、丸の内街男、日比谷公、御里夢忠、銀武良夫、濱美奈登の六氏に依つて組織さる。



昭和三年共に豊島團少年音楽隊に入隊し同七年同隊解散まで豊島團にて活躍、昭和十年より六氏コムビにて東京及び關西の各ダンスホールと契約して出演、昭和十四年新興キネマ株式會社に演藝部創

設に當り入社し現在に至る。同社の「あきれたぼらいず」は唄を主とし、このメンバーは器樂を主としあらゆる曲を樂器で巧みに弾きこなして人氣を博してゐる。

豊島國彦、本名、福井幸吉、大正三年十月二十六日牛込神樂町に生る。趣味は野球、カメラ、キネマ等。

丸の内街男、本名砂山美光、大正二年十一月二日芝區君塚町に生る。趣味—パイプ、水泳、演劇、角力、尺八、清元、新内、キネマ等多多趣多様あり。

御里夢忠、本名、中村佐平治、大正六年二月八日芝白金三光町に生る。趣味—野球、演劇、キネマ。

日比谷公、平名、小嶺淳一、大正二年三月十一日長崎縣西有家町に生る。趣味—讀書、キネマ、繪畫。

銀武良夫、本名、渡邊章、大正六年三月十日小石川大塚仲町に生る。趣味—讀書、キネマ、散步、カメラ。

濱美奈登、本名、志津恒應、大正二年七月三十一日佐世保市塩見町に生る。趣味—演劇、角道、犬、キネマ。

レコード方面ではコロムビア專屬となる。代表作品、「素胸らしき音楽」「裏町の勸進帳」。

ミルク・アラザース

淺草區柳橋二丁目藏前アパート内

川田義雄、岡村龍雄、頭山光、有木三多の四氏に依るかはつたコーラス團、昭和十一年吉本シヨウに於て川田氏リーダーとなりあきれた・ぼらいずを組織しビクターで活躍してゐたが坊屋、益田、芝の三氏新興に移りたる爲め川田氏獨演にてビクターで奮闘、今春前記岡村、頭山、有木の三氏と新にミルク・アラザースを組織し、ビクター五月新譜「ドレミソファ物語」を發表好評を博す。



リーダー川田義雄氏は本名岡村郁二郎、明治四十年三月十五日千葉縣船橋市小栗原町五六九番地に生る。あきれた・ぼらいずのコムビでビクターより「珍カルメン」「四文オペラ」等を發表、後獨演にて「浪曲ダイナ」「浮草劇場」「男ざかり」「大政小政」等を發表す。(第二編参照)

ブレイ・ボツクス

事務所 京橋區西銀座一四八ノ五日吉ビル (電話銀座一三〇番)

小林千代子を主體とし、前テイチクにゐた木村肇、西洋舞踊の千歳かほる、タツブの振付、ジヨウ中田等を加へ、武蔵野館六階を稽古場にして體制を整え、内地はもとより満洲、北支へも巡演してゐる。マネージャー、加藤松太郎。

淡谷のり子とその樂團

大森區池上洗足町二八一 (電話荏原四〇三一番)

淡谷のり子主宰、そのジャズ獨唱を主體に八人のメンバーによる輕音樂の樂團、新宿武蔵野館を皮切りに中央に、地方巡演に、北支阜軍慰問に活躍をなしてゐる。

新 星 會

世田ヶ谷區代田二ノ六八一ノ四

コロムビア專屬の明本京静とその一門に依りて組織す。

コ社の新人立花康男、奈良光枝、遠山春夫、深山藍子外、多數の新人と新星會合唱團を擁す。第一回發表會を「聖職音樂の夕」と銘打つて本年五月二十七日海軍記念日に日本青年館に於て、前選相永井柳太郎作詞、明本京静作曲の「大日本行進曲」の發表を兼ねて盛大に開催す。

川口章吾とその樂團

神奈川県藤澤町鵜沼海岸六七〇三 (電話鵜沼一三三番)

ハローモニカ界の重鎮、川口章吾氏に依つて統率されラヂオに、實演に、地方巡演に活躍してゐる。



川口章吾氏は明治二十五年十月五日日本橋區本石町に生れ十歳の頃よりハローモニカに親しみ、十八歳の春神田Y.M.C.A.のステータに立つ。大正七年濱松日本樂器會社ハローモニカ製作部技師として入社。大正八年日本に初めて二十穴の復音ハローモニカを創製す。引續き合奏用ハローモニカの製作に着手し、バリトン、コン

トラスなどを創製す。明治大學ハローモニカ・ソサイエティ創立に際し本邦最初の合奏團を作る。大正十一年日本樂器を退社して東京に移り後川口ハローモニカ合奏團を創立し現に川口章吾とその樂團を主宰し、東京シムフオニツクコトラスを指揮す。嘗つて御前演奏の光榮に浴す。著書、「ハローモニカの學び方」「正しきハローモニカの吹き方」「近代ハローモニカ獨習」「最新ハローモニカ奏法」及びハローモニカ編曲樂譜多數あり。趣味—寫眞、旅行、釣魚。

松原千加士とその樂團

小石川區茗荷谷町一五



東京リードバンドを主宰し、又他面神田神保町に蓄音器店蓄聲堂を經營してゐたハローモニカ界の重鎮、松原千加士主宰し、氏を巡るその一黨により組織さる。演奏の方が多忙の爲め蓄音器店を本年四月他に譲り廢業して演奏とハローモニカ教授を専門

とし各地のアトラクシヨンへ出演す。樂團には菅野實、渡邊秋生、大野達郎外數氏あり。

江戸小唄振花月會

向島區向島三丁目二一 (電話墨田九五五番)



江戸小唄振の創始者花月兼久氏に依つて主宰さる。花月氏は本名平野兼久、明治三十九年六月十日下各區三ノ輪町の老舗有名な菓子屋花月堂に生る。祖父中井啓所氏は有名な家利師、最初花柳千代壽師が遠縁に當るので花柳流の舞踊を習得す。一方江戸小唄振を創始して昭和五年六月三越ホールに於て始めて發表會を開催す。舞踊は昭和八年デグニール、爾來各所に出張教授をなす。門下生としては花月兼清、同兼二郎、兼松兼豊、兼園、兼喜祿、他數名あり。江戸小唄振花月會の外に淺草かしく會、清美會、伊勢崎花月會、向島花月會、新藤會等を主宰し活躍を續けてゐる。